

十五年外務省第一
加達ヲ以テ但書

十九年勅令第四十
九號ヲ以テ條例改
正

明治十年七月十月十二月 外務省 達 第十號 第十一號 第十二號

朝鮮 四 千 四 百 圓

甲乙丙丁戊號書式更正無之ニ付省略

○第十號 (七月十一日)

各派出

公使領事

公使領事館ニ於テ其屬官在勅中或ハ歸朝ニ臨ミ費用條例ヲ誤リ過分之金額渡方取計或ハ別段拜借
金ヲ差許等不都合ニ候條都テ主任ト本人ト相對私借ト見做シ所分候條此旨可被相心候事

○第十一號 (十月)

在上海總領事館

在天津領事館

在朝鮮國管理官

清國並ニ朝鮮國各開港場ニ於テ我商人相互ニ物品買賣竝ニ條約書諸證書等ハ我證券印紙貼用候儀
區々相成居候ニ付今般大藏省ト協議之上該開港場在留之者ニテ其地限り取引スル諸證書ニハ證
券印紙貼用ニ不及尤取引上本國ニ關係アル諸證書ニハ印紙貼用爲致候儀ト決定候條此旨相違候
事

○第十二號 (十一月)

在朝鮮國

管理官

朝鮮國釜山浦在勅官員月手當支給方本年一月中官等御改正以後別紙表中之通被相定候條此旨相違
候事

外務卿寺島宗則

(別紙)

甲號 朝鮮國在勅官員月手當表

三等官	百八十圓	九等官	六十九圓	十五等官	三十圓
四等官	百五十圓	十等官	六十圓	等外一等	十六圓
五等官	百三十五圓	十一等官	五十六圓	同二等	十四圓
六等官	百十五圓	十二等官	四十九圓	同三等	十圓
七等官	百五圓	十三等官	四十五圓	同四等	十圓
八等官	七十五圓	十四等官	三十四圓		

乙號 朝鮮國釜山浦在勅官員月手當更正表

三等官	百八十圓	十等官	六十五圓	十七等官	三十圓
四等官	百五十圓	十一等官	六十圓	等外一等	十六圓
五等官	百三十五圓	十二等官	五十六圓	同二等	十四圓
六等官	百十五圓	十三等官	四十九圓	同三等	十圓
七等官	百五圓	十四等官	四十五圓	同四等	十圓
八等官	七十五圓	十五等官	四十圓		
九等官	六十九圓	十六等官	三十四圓		

右ノ通下賜候事

明治十年九月

明治十年十一月 外務省 達 第十二號

三二一

○揮發物貯庫規則 明治十年三月十六日改正

今般日本政府にて石炭油其他横濱に輸入したる物品燃焼すべき性質にして多量居留地内に置くとき危難あるものを貯置爲め中村に於て貯庫を開設す

右政府は貯庫の支配役を官員に命し神奈川縣令の配下にて勤務すべし右官員の職務は同縣令にて調整し條約濟各國領事の承諾を以て分明に取極たるものを以てする也

右開業は左の規則に従ふべし

第一條 貯庫は十月一日より三月卅一日迄の間は毎日午前八時より午後四時迄四月一日より九月卅日迄の間は午前六時より午後六時迄之を開くべし併し日曜日並左の休日を取除く

一月一日より三日迄

一月五日

一月三十日

二月十一日

四月三日

十月十七日

十一月三日

十一月廿三日

十二月廿九日より三十一日迄

但し右休日の内開庫を欲するときは必一日(廿四時)前に告知すべし

若又前書日數の外出格の開庫有之時は横濱新聞紙にて一週間前に之を告知すべし

第二條 石炭油其他燃焼すべき性質の商品を庫入れせんと欲する者は別紙A號式の願書に其品は

税關へ届済にして税納済を願はしたる證書を添て之を貯庫の支配役に差出すべし

第三條 貯庫の支配役は其書類を吟味し庫入れ願書中の文言の確實を覺むる爲に其品物を検査し別紙B號式の通り預り證書を仕出すべし

税關の受取證書は持主へ返却すべし

若し入庫に差出したる品物の量目寸法と願書面に認めたるものと相違あるを貯庫支配役にて見出す時は之を其持主に告知すべし而して確實の相違を證明せらるゝに於ては持主は必ず其願書を改正し又右に付若干の入費ある時は持主より之を拂ふべし

但し品物の預り證書は預入の好に隨ひ其高を幾枚にも分ち受け取る事を得る也

第四條 石炭油は五拾(ガロン)以下の高は貯庫に受取ることなく又引渡すことも許さるべし併し他の燃焼すべき性質の物品は此限にあらず

第五條 火藥其他破裂物は貯庫に受取らざるべし

第六條 入庫する前に箱の蠟附詰直し其他總て修繕を加ふるの便利を得る爲め一つの屋根掛所を構内に設け置くべし

第七條 各品の箱並荷包は必ず分明に記號を附け且損傷を受けざる様爲し置くべし

第八條 若し貯庫に預け置きたる品物の持主にて其品を貯庫より引移すことなくして其他人へ讓渡せんと欲する時は預り證書の裏に讓渡を認め貯庫へ持参し支配役の確定を得且其連署を受けて之を施行すべし若し讓受人數名なる時はD號の式の如く讓渡證書を認め元の預り證書は返却すべし

讓受人の數に隨ひ若干證書を認め出すべし

第九條 預け品の總高或は一部分にても引取りを爲す時は必ず其藏敷を拂ふべし但し此規則の順序を逐はざるの間は其品を引取ること許さるべし

第十條 品主にて見本の箱を引取らんと欲する時は其品の預り證書を持参し貯庫の支配役は其證

書に引取りたる高を書入るへし

亦貯庫に於て見本を相示すの便利をも得せしむへし

第十一條 預け品引取の節はC號式の書面を差出し品物は遲滞なく引取るへし

第十二條 預け品の總面を不殘引取る時は預り證書を返却すへし

第十三條 庫入願書其他式紙は和英兩語を用ひ政府に於て刊行し無代にて下げ渡す可し

第十四條 入庫の期限は壹年に過ぐへからず其壹年を過て若し持主にて猶其儘に預け置んと欲する時は先づ藏取金を拂ひ終り然る後に一般の規則に従ひ新に願書を差出すへし

若し壹ヶ年の期を過きて品物を引取ることなく亦藏取金を拂はずして其儘に差置く時は政府にて其事を壹ヶ月の間新聞紙を以て廣告すへし

其時間を過きて其品物は猶引取るときは政府にて其品物を公けの競賣を以て賣拂ふと爲

し右賣代金より藏取の高并に賣拂の諸入費其他公告料を引去り殘金は政府に留置くへし

其後前書物品の持主來りて其所有物を請求し且預り證書を差出す時は右殘金の内百分の一を差

引て之を其者に渡すへし

第十五條 藏取金は左の通

石炭油 通常の箱にて十(ガロン)入 一ヶ月一箱に付壹錢

他の燃料物一ヶ月英尺一(フート)立法に付五釐

但し十五日以下の藏取金は日數の多少を論せず總て半月と算すへし

右藏取金は向後經驗に仍り要求する廉を擴張する時は地方官にて條約濟各國領事と協議の上之を變更することを得へし

第十六條 貯庫に貯へたる品物の注意は日本政府の擔當なりと雖とも海世火難或は其品の毀壞を

一ヶ月一箱に付一
錢の紙幣を差出し
正明治十五年十月
一日より施行ス

り生じたる損失には關係を受けざる也

第十七條 日本人の品物も此同規則に隨ふへし尤右は別庫に入れ貯ゆへき事

A號

庫入願書

第 號

地より國名船名を以て
名より國名船名を以て

輸入仕候左件の荷物を

貯庫に御預り被下度右

は千八百八十年 月

日税關へは屆濟に有

之候尤私共記名の願に

限り御渡可被下候也

願主

明治 何の誰印

一千八百八十

貯庫掛士官費下

貯庫掛士官費下

番 記 箇 品 物 及	號 號 數	共 入 目

B號

預證書

第 號

何國何船を以て輸入し

一千八百八十年 月

日横濱税關へ誰より

納税濟左の荷物を國

名商より受取候尤貯庫

規則に基き凡入費請取

候上にて引渡可申候也

明治

一千八百八十

貯庫掛士官印

貯庫掛士官印

番 記 箇 品 物 及	號 號 數	共 入 目

C 號

引取手形

第 號

地より國國船を以て 年

月 日に御預け申候左の荷物

を此者へ御引渡被下度別紙御

預り證書相副此段奉願候也

持主

明治 何の誰印

一千八百八十

貯庫掛士官其下

番	號
記	號
箇	數
品物及	其入目

D 號

讓渡書式

某年月日の願書に依其下

にて別紙預り證書の通り

を拙者より御預り置被下

候然者今般何卒を某氏へ

を某氏へを某氏へ御

引渡可被下候也

年月日 何の誰

貯庫掛士官其下

内務省

布達

十二年内務省乙第
二號達案

○甲第一號 (二月三十一日)

明治十年内國勸業博覽會開設ニ付昨九年甲第三十一號布達博覽會規則第十三條及第二十六條ニ
掲載セル出品總目錄並會場通券賣上ケ代價ノ金額ハ特別ノ證議ヲ以テ一切自費出品人ニ給與候條
勵精出品可致尤右給與方法ノ義ハ追テ詳細可相達此旨布達候事

○甲第二號 (三月五日 輪傳附)

明治九年自三月同至六月分合改稱等之村市別冊之通有之候條此旨布達候事(別册略ス)

○甲第三號 (三月十六日 輪傳附)

昨明治九年十月ヨリ本年一月マテ郡界ノ更正左之通ニ候條此旨布達候事

樺木縣下下野國都賀郡葛生町會澤村豐代村仙波村牧村西浦村ヲ同國安蘇郡へ編入

同郡下永野村上永野村上粕尾村中粕尾村下粕尾村尾尾村新里村古江村下津原村磯岡村ヲ都賀郡
へ編入

千葉縣下上總國山邊郡粟生野村新田ヲ同國長柄郡へ編入

三重縣下伊勢國飯野郡保津村ノ内美久里野新田ヲ同國多氣郡へ編入馬ノ上村へ合併

○甲第四號 (三月一日 輪傳附)

明治九年六月ヨリ十二月マテ版權所有ノ書目並第壹號版權書目ノ内版權返納ノ分等別冊ノ通ニ候
條此旨布達候事(別册略ス)

○甲第五號 (三月二日 輪傳附)

明治十年一月二月三月 内務省 布達 甲第一號 甲第二號 甲第三號 甲第四號 甲第五號

明治十年三月四月五月 內務省 布達 甲第六號 甲第七號 甲第八號 甲第九號 甲第十號 甲第十一號

椽木縣管下野國郡智郡內野村飛地字仕出之内反別三町壹反三畝拾五步琦玉縣下武藏國埼玉郡小野袋村へ同八反三畝拾步野馬縣管下上野國邑樂郡海老瀬村へ分例組替國郡之境界ヲ更定候條此旨布達候事

十九年法准第一號

○甲第六號 (三月二十六日 輪附)

明治八年九月第百四十八號ヲ以テ諸建物書入實規則布告相成候ニ付テハ自今共證書面ニ造作^{造作ト}ハ底天^{底天}ノ印押入等^等ヲ云フノ有無記載可致此旨布達候事

十八年內務省第五號
十九年內務省第二號
依り消滅

○甲第七號 (四月十二日 輪附)

明治八年十月第拾九號ヲ以テ司藥場檢査印紙之儀及布達候處今般右印紙並毒劇藥標記別紙之通改正增加候條此旨布達候事(別紙略ス)

但當分從前之檢査印紙取交セ相用候事

○甲第八號 (四月二十日 輪附)

宮城縣管下陸前國桃生郡ト本吉郡ノ郡界不明瞭ノ場所反別三拾九町五反六畝拾三步桃生郡へ編入北上川中央ヲ以テ郡界ト相定候條此旨布達候事

○甲第九號 (四月二十六日 輪附)

昨明治九年八月甲第三十二號ヲ以テ橫濱長崎二港へ司藥場設置之儀及布達候處橫濱司藥場ハ來五月一日ヨリ開場候條此旨布達候事

甲第二十四號布達
十六年內務省甲第八號
依り消滅

○甲第十號 (五月十六日 輪附)

僧業相廢候者其都度管轄廳へ可届出旨八年十月^{十二}第五拾三號ヲ以テ元效部省ヨリ及布達候處自今不及届出候條此旨布達候事

十四年太政官第二十六號
依り消滅

○甲第十一號 (五月二十一日 輪附)

十九年三月二十日
內務省第二號

博物館へ出品及ヒ出品セシコト願フモノハ左之通可相心得此旨布達候事

博物館へ出品順序

一 博物館へ物品獻納セント欲スルモノハ管轄廳ヲ經由シテ願出ヘシ又時宜ニヨリ直ニ該館へ願出ルモ妨ケナシ總テ本人ノ便宜ニ任ス
但僻遠ノ地ニアリテ獻品セントスル志アリト雖モ海陸運搬ノ費用ニ乏シキモノハ其品名ト形狀トヲ詳記シ管轄廳又ハ博物館へ申立指揮ヲ乞フヘシ同局ニ於テ未タ館中ニ充備無之品又ハ衆人ニ示シテ裨益アルモノト認ルルハ其願ヲ許シ舟車ノ費用ハ總テ官ヨリ支給スルコトアルヘシ

博物館へ出品順序

一 博物館へ私藏ノ諸品排列セシコトヲ望ムルハ願書等ヲ製スルニ及ハス直ニ該館ニ差出スヘシ該館於テハ之ニ預リ證書ヲ付與ス返却ヲ乞フルハ其證書ヲ持參スルモノへ返却スヘシ又時宜ニヨリ管轄廳ヲ經テ差出スモ妨ケナシトス
但無^二ノ物品ニシテ大ニ衆人ノ裨益トモナルヘキモノ又ハ官ヨリ其物品ヲ指シテ出品ヲ乞フモノハ獻品ニアラズト雖モ往返ノ運輸費ハ官ヨリ辨償スルコトアルヘシ

○甲第十二號 (五月三十日 輪附)

群馬縣下上野國新田郡久仁村ヲ佐位郡國定村へ新田郡田部村ヲ佐位郡田部井村へ新田郡野村ヲ佐位郡野谷村へ合併郡界ヲ更正候條此旨布達候事

○甲第十三號 (七月五日 輪附)

府縣社以下神社什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事
一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ

明治十年五月七月 內務省 布達 甲第十二號 甲第十三號

記入スヘシ

第一類 寶物古文書

第二類 祭具什器並持漆之田畝附屬之建物等

右標識部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ該地ノ崇敬人總代或名以上尙該地之區戶長連署調印壹部ハ區戶長役所へ壹部ハ其社へ藏メ置ヘシ

○甲第十四號 (七月五日)

明治十一年佛國巴里府萬國大博覽會諸規則別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

佛國巴里府博覽會出品概則

來明治十一年五月一日ヨリ十月三十一日迄佛國巴里府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付茲ニ出品ノ概則ヲ示ス左ノ如シ

一 出品ヲ望ム者ハ本貫又ハ寄留地方廳ノ添簡ヲ以テ來ル七月三十一日迄ニ略目錄職業族籍ヲ明記シ本局へ申出ヘシ

但航海志願ノ者ハ略目錄ヲ以テ出品申出ノ節同時七月三十一日ニ出願スヘシ
二 天産人造ニ限ラヌ說アルモノハ其著說ヲ附スヘシ其例

一 天産物ハ見出シ人名年産地物費用法及產出高等

一 人造物ハ新古發明人名工名年産沿革物質製法但製造ヲ秘スルモ用法原價製出高外國輸出高等

三 略目錄ハ物品ノ凡積原價及ヒ荷當等ヲ記シテ差出スヘシ

但外法三尺四寸二分立方(即一噸)ノ箱詰ニシテ凡幾箱トナルヘキヤノ見込及ヒ會場へ陳列ノ節凡何坪程ノ場所ヲ要ス可キヤノ見込ヲ併セテ書出スヘシ

四 出品者ハハ出願ノ順序ニ從テABCノ符號ヲ配與スルニ付物品並箱共ニ必ス其符號ヲ記スヘシ尙委細ハ附錄及出品者心得等ヲ參考スヘシ

五 物品ニハ一ヨリシテ逐次ニ番號ヲ目錄ニ照シテ貼付スヘシ尤同種ニテモ價ヲ異ニスル品ニハ同號ヲ附スヘカラス而シテ何レモ目錄ト組織セサル様注意スヘシ

六 外箱ノ寸法ハ曲尺三尺四寸二分立方歟或ハ其折半歟四半折ニ仕立物品ヲ詰合スヘシ尤重大ノ品或ハ損シ易クシテ他物ト詰合セ難キ品ハ此限ニアラス

七 出品本目錄ハ本年九月中迄ニ各三通ツハ差出スヘシ其用紙ハ當局ヨリ下ケ渡スニ付物品調製次第請取方申出ヘシ

但物品落成ニ至ラス原價未定ノ物ハ追テ落成ノ上記入致シ苦カラス

八 出品ハ明治十一年一月一日ヨリ三月三十日迄ニ會場へ輸入スヘキ規則ナルニヨリ本年十一月中ニ取廻メ積積ヘ差出スヘシ尤場所等詳細ノ儀ハ追テ當局ヨリ通報スヘシ

但十分精良ヲ盡シ度ヨリ右期限ニ後レヘキ見込ノ品ハ其旨速ニ申出ヘシ

九 物品ハ其出品主持參渡航スルハ勿論ナレモ若シ事故アツテ他人ニ委託スル時ハ委任狀ヲ渡スヘシ而シテ本人並委託ヲ受メ者連印ニテ出品本目錄ヲ差出スヘシ

十 特ニ展觀ニ供スルノ品ハ目錄ニ其趣ヲ記載スヘシ尤賣却ヲ欲セサル品ト雖モ海上保險等ノ都合アレハ原價ハ必精細ニ記載スヘシ

十一 物品ハ其出品主又ハ代人持渡ルモ或ハ他人ニ委託スルモ一應本局ノ検査ヲ受ヘシ但同品多數アルモノハ其内一箇ヲ以テ検査ヲ受クヘシ

十二 出品ハ其所在地ヨリ積積入迄ノ運賃ハ自費タルヘシ積積藏敷並同所ヨリ佛國巴里府迄ノ海陸運賃及ヒ保險料ハ一切官ヨリ給與スヘシト雖其船積高ハ費額ノ都合ニヨリ適宜之ヲ減省スヘシ

但持歸品ノ運賃及ヒ本文ニ掲クル諸費其他ノ雜費共總テ自費タルヘシ

十三 出品ハ横濱藏入中及佛國ヘ着荷ヨリ會場陳列中トモ官ニ於テ保護ノ豫防ハ爲スヘシト雖非
常災害及毀傷等ノ責メヲ有スルコト無シ

十四 爆發氣及ヒ醜態汚穢臭アル物ハ出品ヲ禁ス
十五 御國輸出税ハ免除佛國輸入税等ハ追テ違スヘシ

但輸入税ハ賣捌ケン物品ノ原價ニ應シ税關ニテ徵收スルモノナレハ原價ハ必確實ニスヘシ
十六 物品陳列ニ付テノ飾箱飾臺敷布等ハ一ト通り官ヨリ給與スヘシト雖自己ノ好ミヲ以テ製作
スルハ自費タルヘシ

十七 出品主並代人委託ヲ受シ者等往返旅費ハ官ヨリ給與スルト雖自費額ノ都合ニヨリ共人員ハ適
宜之ヲ減少スヘシ尤彼地滞在中宿料食料其他旅中ノ雜費ハ一切自費タルヘシ

但御國內及ヒ東京横濱往返旅費ハ一切自費タルヘシ
十八 出品中貴重ノ物ハ火難請負ヲ託スコ各國大抵皆然リ共入費ハ概シテ原價百分ノ三位ノ割合ナ
レハ託スヘキ見込アル者ハ其金額ヲ用意シテ渡航スヘシ

十九 渡航人ハ可成佛語ヲ解ス手代ヲ召連ヘシ若シ不得止ハ通辯人ヲ雇ヒ使用スルモ妨ケナシ共通
辯人ハ手代ノ内ト見做ス可シ
但召連ヘキ人員ハ本貫姓名ヲ詳細當局ヘ届出ヘシ又通辯ノ試験ヲ乞ハ、其可否ヲ審査シ與フ
ヘシ

二十年 内國勸業博覽會ヘ出品ノ内ヨリ該會ヘ出品セント欲スル者ハ其旨最初出願ノ節申出ヘシ
廿一 該會本館ノ陳列品ハ新製ノ物ニ止ルカ故ニ古器物ノ出品ヲ許サス
但製造ノ年歴及ヒ人名判然ニシテ精巧ヲ極メ本邦美術ノ沿革ヲ徵スルニ足ル物品ニ至リテハ

當局ニ於テ検査ノ上特別ニ免許スヘシ

廿二 出品木目録入記目録認方並荷造ル得方ハ附録ノ通心得ヘシ

出品概則附録

第一 出品木目録之事

凡例

一 區 此區ヘハ預テ頒布セシ區分目録ニ照準シ第何大區何小區ト記載スヘシ

但一區の違ふ品ハ別紙を用フヘシ

一 出品主 此區ヘハ本人の姓名を記シ實印を捺スヘシ若シ甲乙申合せ總代を以テ從事セシむるか
他人ヘ委託するかの節ハ連印にて差出すヘシ且符號を認め入れヘシ

但一 結社又ハ組合を設け或ハ結社又ハ組合の名義なくとも數人申合せ出品する等の
ものは社名又ハ組合名或ハ連名を記載シ社印又ハ組合或ハ連印を捺スヘシ最も多人
數にて區内ヘ記入ヘカとき時ハ便宜ヲ寄リ誰外幾名ト記するも妨げナシ

本人書式

府使 何國何郡何村住 但寄附人は本館前寄附地をも記す
族籍又職業名
苗字名實印

委託書式

府使 何國何郡何村住 但委託は同一
族籍又職業名
本人 苗字名實印

第二入記目錄之事

一入記目錄ハ海關にて輸出入の検査を受け税を拂ふ時の證となる必用の物あれば箱中品物箇數原價等ハ確實に認め洩さざるやういたすへきハ勿論也から混雜の際あやまつて認落等のあきやう最注意すへ一且出品にあらざる私用品並制禁の品物等を決して詰合すへからず依て認方は左の書式に倣ひ界半紙へ認め一通ハ其箱に入二通は荷物詰合済急差出すへ一木局に於ては之を佛國文に翻譯をすへ一

但一外箱は區分目錄の大區毎に別に製すへ一

書式

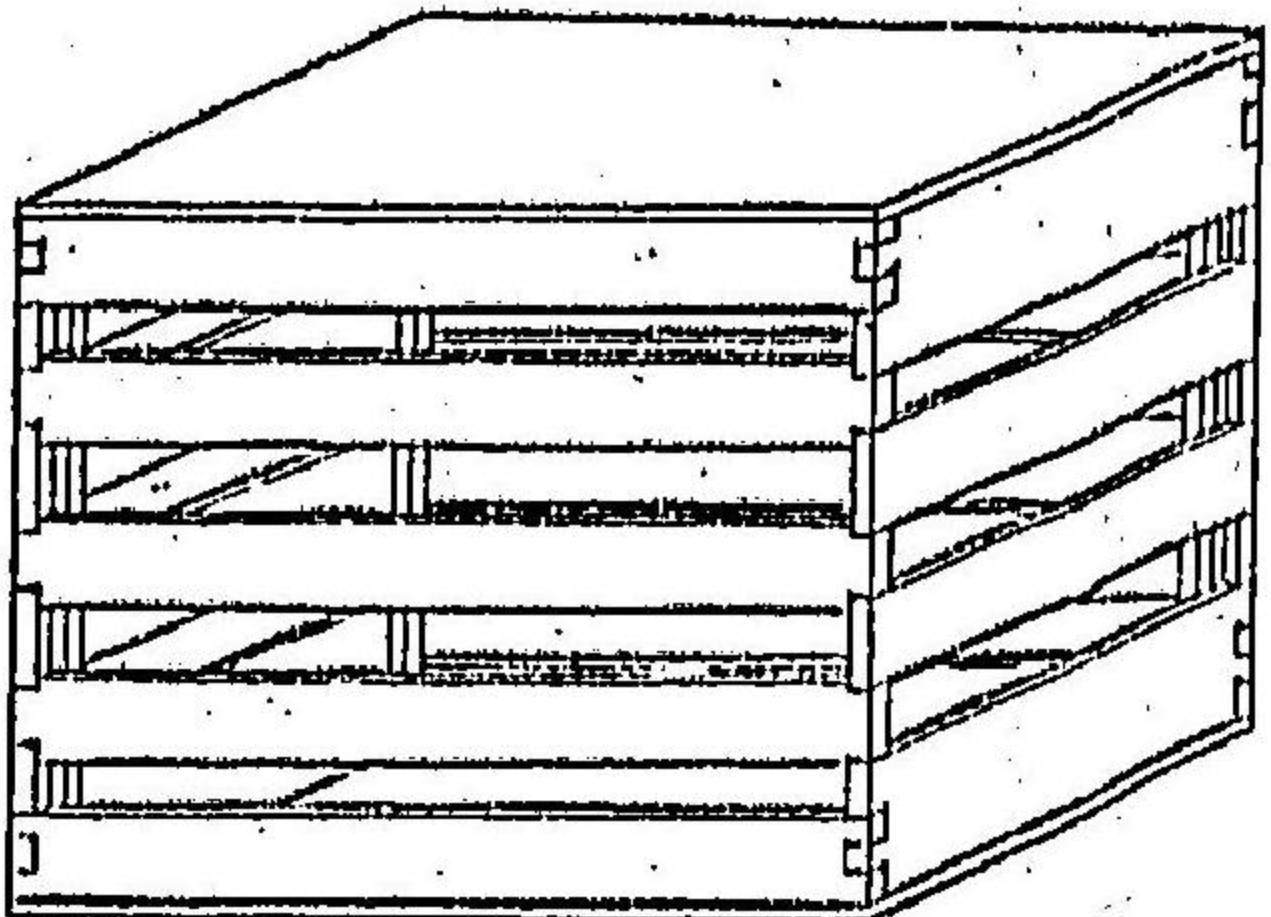
△	第何號	出品主	何	之	誰
△	第何大區何小區				
	符	號物	名數	原	價
△	壹	銅	何	對	金何百圓
△	拾	鉛	何	圓	何圓何錢
	第何大區何小區				
△	四	磁器	何	個	金何錢何厘
△	百	兩器	何	枚	金何拾圓

原價計金何百何拾何圓何錢何厘

第三物品荷造之事

- 一物品の荷造りは大切の事にて若一運送中被損する時は數月丹精をこらしたる品も開場に陳列して名譽を得る事あたわず且多少の資本金も損失となるゆへ荷造は費用をいとわす手厚くするは銘々の心得にもあるへき事也から未だ遠方へ荷物を送り一事のむき者すくむからず依て凡の心得を示すゆゑ是に洩たる物は各種の荷造を見合せ其宜しきに倣ふへ一
- 一外箱は符號番號並出品主人名共木札に認め假に打付置へ一いよ一彼國へ輸送の時は當局にて一體に揃ふやう認むへきにつき決して箱へ直に認むへからず
- 一壹噸内外位までの外箱は木目の通らぬ松荒木壹寸板を用お格別大なる品々重き物は壹寸五分板か二寸板を用お或は壹寸板位にて箱を造り外面に格子の枠を打付るもよ一尤各地に於て右木品より丈夫なる板あれば何にてもよろしといへとも杉杯の板は裂け易きゆへ用うへからず
- 一佛國は木材高價なるよ一に付楠等の如き上等の材にて外箱を造り持越せば其箱不用になりて賣拂ふ時よき價になる事もありと聞ゆへ繼材にて造りたる箱を不用の時捨ると其損益を算と考へ都合よき方にすへ一
- 一平らにて大なる品を入れる、箱は運送中あけをろ一の時箱の撓みて損する事ありその防ぎには外面に棧を格子に打へ一
- 一箱は四角に限らず品に應じたる形又は樽桶其他滿るをいとわぬ物は第一圖の如き格子造りの箱もよ一

第一圖



- 一 外箱の角はかちらず組合せ其上へ機を打へ
- 但一 外より打は常の仕方なれども内に入るゝ物に應一内より打もよろ
- 一 外箱の蓋は開閉便利の爲必ねじ錠にて留めへ一決して釘打になすへからず
- 一 箱樽とも重き物を入れたるは帶鐵を總體に打へ一輕るき物を入れたるははあれ易き所のみへ壹尺四五寸又は壹尺位ひつゝに打へ
- 一 一品にて大箱を用うる物は格別其他は小箱に造るかた損一少なり
- 但一 運賃は三尺四寸二分立方(一噸)を以て拂ふ事なれば成るへくは右の寸法か一倍又は半か四分の一或は三分の一等に當るやう造る方便利なり
- 一 外箱丈夫なれば二重箱は無益なり是非とも内箱を要するものは荒木にてよ一桐共外上等の品は

- 是又無益なり槍の箱は其板より發出する脂氣にて内へ入たる器物一面に脂を被ふ患あり甚よろからず
- 一 内箱に詰たるを外箱に入るときは箱と箱との間は少しも透のなきやうに詰も一透あらば機を以て内箱を堅く押へ機は兩端又は一端を外面よりねじ錠にて留置くへ
- 但一 プリッキの中箱ある物は藁干草の類にてかたく詰へ
- 一 陶器硝子器等の類にて破損一易き品の入たる箱詰の工合を知らす一て開く時は器の損する事ある故其心付へき廉を外箱の蓋の裏か内箱の表に明細に認置へ
- 一 詰物に用ふる藁干草、初澱、鉋屑、綿の類は土砂の付たるか濕氣のあるを用うれば器に疵付か又錆の出る事あり心得て用うへ
- 但一 古棉にて金屬の物洗詰れば錆の出るゆへ必らず用うへからず且初澱の類は運送中片寄て器の損する事あるゆへ鉋屑を取交かたく詰めへ
- 一 金銀珠寶等の如き貴重品の入る箱は別一て手堅く造るへ
- 一 罈並鼠喰を厭ふ品は鐵葉か亞鉛板にて中箱を造るへ一組合せは鹽酸を引き其上に白蠟を以て離れぬやうに着けへ
- 但一 松脂を用ゆ白蠟を以て組合せるは常の仕方なれども離れ易きものなり
- 一 器を幾箇にも取離したる物は合口の損せぬやう致へきは勿論留ね一等の紛失せざるやう都合よく詰合すへ
- 一 上等の漆器は綿にて包み又は綿布にて巻へ一之を箱詰にする時は綿か和らかき鉋屑を用うへ
- 但一 書棚、籠等の類は四角の隅へ一別一て多く綿を置き押への爲め其上へ薄き板を宛て其板の動かぬ様古布等にて縦横に幾重も堅く巻立箱詰すへ

一 銅器は綿布にて幾重も巻へし古布ならはよく洗ふて汚れのなきを用ひ之を箱詰にするに
は打葉又は和らき鉋屑を用ひ

一 上等の陶器磁器硝子器類は紙にて兩三度水はりいたよく乾めて和らき葉を以て巻に造る
へし又それを箱詰にするには上下四方の明きを同一様にし前に記す諸物を以て動かぬやうにす
へし

但し素焼物又は艶消し硝子を反古にて水はりすれば其塵うつりて急に取れぬ事あり又葉に濕
りあれば箱の内にて蒸れ葉のみを著る患あり能々心付へし

一 同上蓋物の類は蓋と身の間皿の如きは皿と皿の間へ葉の類を以てへたてにすへし又小器物を一
箱に詰合すもあなへし又器のうつろへは前の詰物の類を詰置けへ外よりの響きにていたむ患をふ
せき又登つ損したりとも他の物の損へせきにもなる事あり

一 織物は紙にて包み四五反寄せて板にはさむか棒に巻きて油紙又は滲紙包みにすへし尤包む前に
能乾かさ、れは箱詰の内にて斑を生ずる患あり能々心付へし

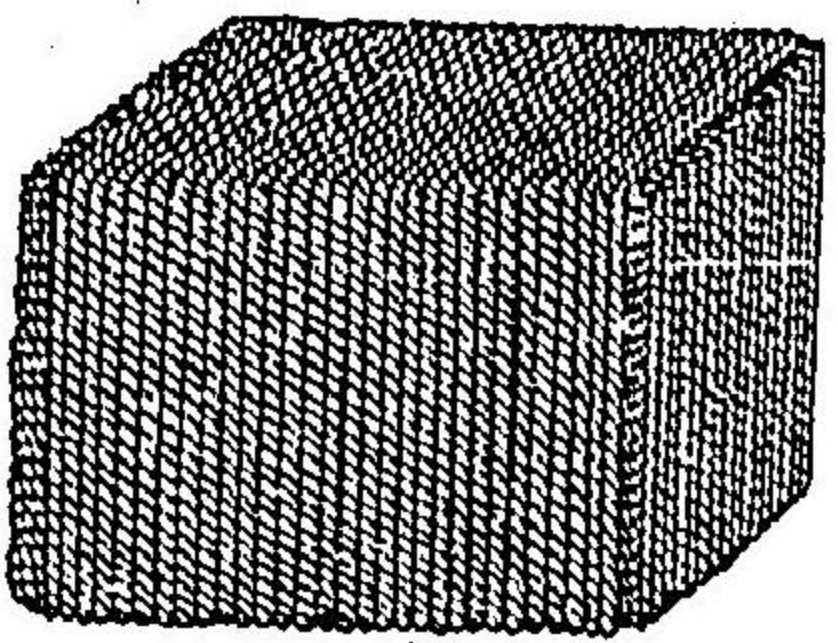
一 上等の鐵器打物は丁子油液引て錆の出るを防ぐへし下等の品は石炭油を引てもよろし

一 提燈は紙に包み棒の大きき同一なるを合せ五張位寄せて糸にて結ぶもよし併し可成は棒をばつ
し詰合を方宜し扇は壹木つ、紙に包み長さを揃へ拾本位つ、糸にて結び内箱へ入小間物類は
紙に包み内箱へ入何れも動かぬやう詰込へし

一 鑽石土砂草木乾實類は一品毎に小箱に入る、か又は布の袋に入れて混亂せぬやう詰合すへし
但し箱詰前に能々乾すへし

一 板石磁石は繩にて縦横に第二圖の如く巻き薦包みにすへし破損の患ある物は包みたるを箱に
入れへし

第二圖



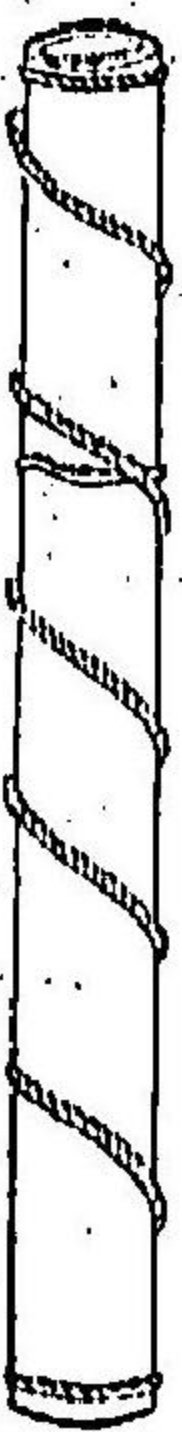
一 油水物類はよく鐵付たる鐵葉の筒等へ入れ其合せ目をまたよく鐵付し少しも漏るやうに
て葉につみ箱詰すへし或は厚く丈夫ある塙に入れ椗又は厚淨皮の上を石粉(石粉を粉にす
りしものにて之を水にて煉)にて封し又は鉛の板にて封し夫を葉つとにて仕切のある箱へ詰る
もよし

一 燃質物は硝子壺又は鐵葉箱に入堅固ある外箱へ詰め他の品を詰合すへし
但し危難の恐れある事を木札に認め外箱に打付へし

一 木材類は板と板との間は和らき鉋屑にて削れたる所の摺れぬやうに繩にて幾所も結び箱に詰
るか薦にて巻へし荒材は薦にて二重か三重位ひに巻き造るへし

一 竹類は一本つ、第三圖の如く巻き幾本も寄せ繩にて四五ヶ所結び箱詰にすへし尤長大なる物は
外を薦にて二重か三重位ひに巻き造るへし細小の竹は紙にて巻き箱に入る、か葉包みにすへし

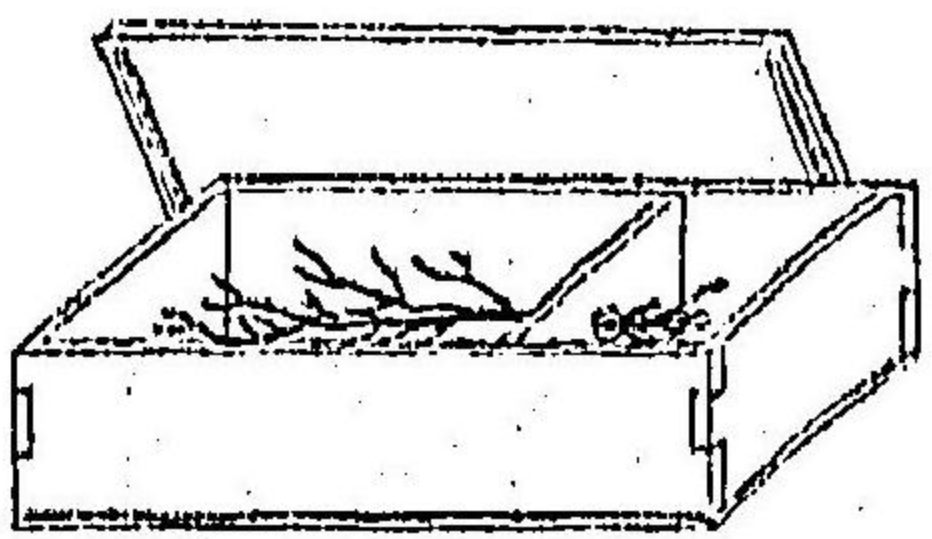
第三圖



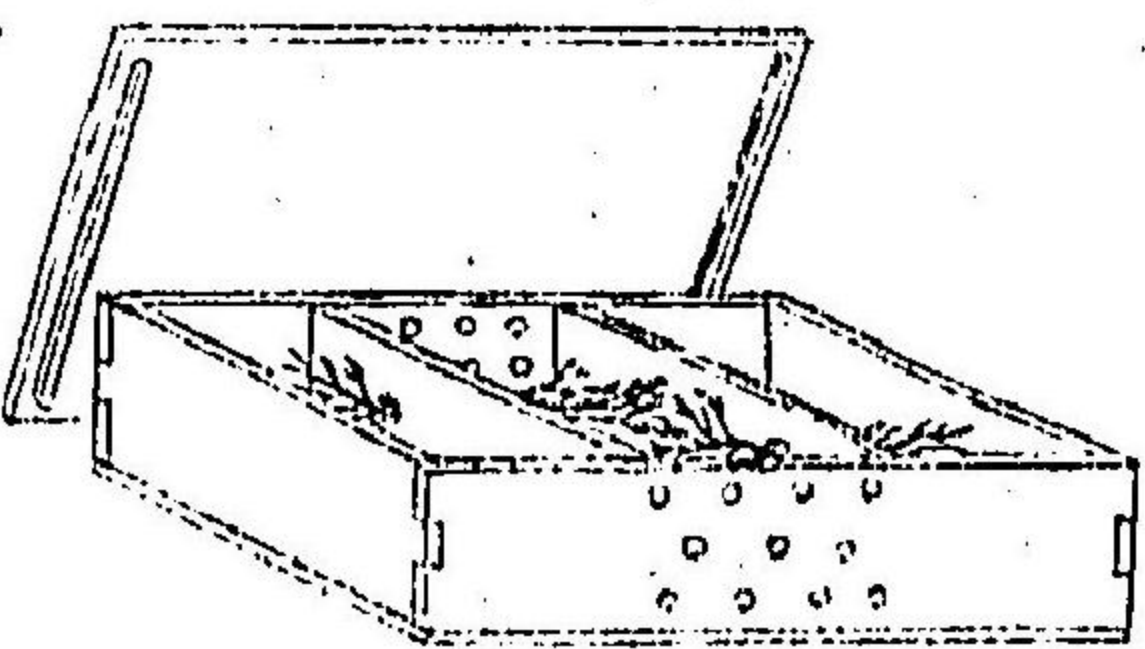
一剥皮の製品は頭のかたより巻き羽又毛皮は平らにして箱に入れ割竹又は木にて押へ動かぬやうに樟腦を入置へ一決して藁等にて詰込へからず

一植物を西洋へ送るは熱地を通る事ゆへ其心得なければ乾き又は蒸る等の患あり總て苗木は凡拾本位を一束となし適宜の箱を送り一束つゝ次第に積入根の方を潤ひたる水苔又は土を詰込むへ一此土を留るには板を以て第四圖第五圖の通り造り且蒸る患を防ぐには幹のある所の箱の四面に小穴をあけ空氣の通ひ易きやう第五圖の如くすへ一

第四圖



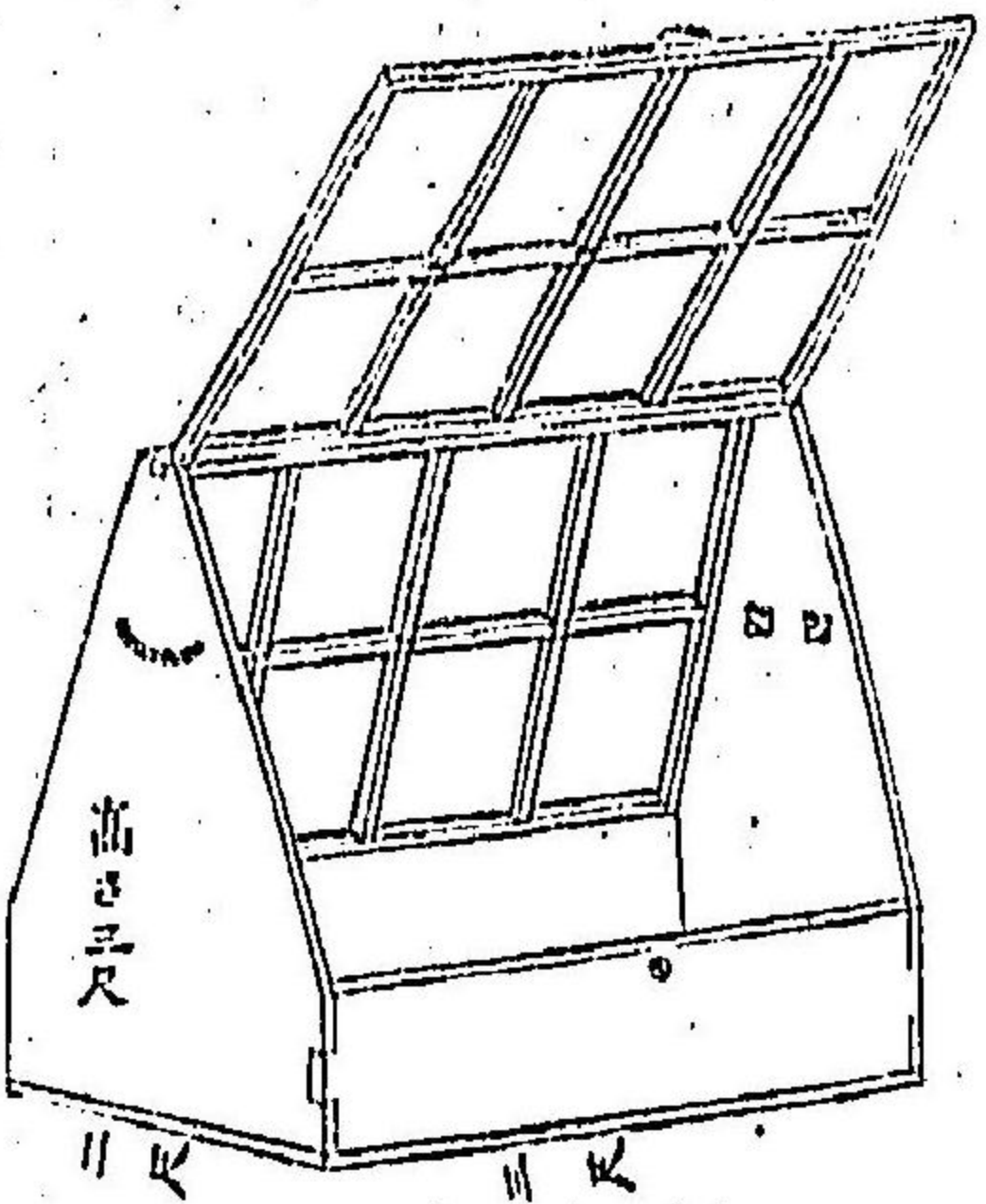
第五圖



一鉢物は第六圖の如き箱に入れ先其箱の底には炭屑又は小土塊を入れ其上は鉢物を並へ入れ鉢と鉢との間より其縁りまで水苔を詰へ一直に苗木を右の箱に植んとせらば先箱の底に炭屑及び小土塊を入れ上面に細りき土を入れ苗木を植込み其上に水苔を置へし底に炭屑等を入れるは水氣の漏るゝに便に一腐れを生ぜしめざる爲なり且箱蓋の硝子板他物にふれて損する患あり之を防

くに木竹又鐵線を以て適宜に蓋の面をあふへ一

第六圖



一第六圖に出す箱の寸尺は入るゝ物によりて異同あれば適宜にすへ一とすへとも凡そ圖面に記す所の寸尺に倣ふへ一餘り大き過ぎるは送るに便ならず

佛國博覽會出品者心得

一佛國博覽會へ出品する者は先づ出品概則及び區分目錄を熟讀すへきは勿論なれども尙心得となるべき箇條を此册に説示すに付き能く此趣意を服膺して先年澳米其他の博覽會にて得たる處の名譽を猶此會に増添する様勉勵すへ一

一各出品者に於て物品の利害得失を計るは銘々辨居ること、雖とも着意の始め其目的を判然二途に分たさるゝからず其一是勉めて我精神を凝し其妙所をして人を感動せしめ精巧美良を盡すにあり其二是廣く各國人民常用の便宜を主とし製造方を親切にするは勿論なれども第一價格を廉

ならざるを以て主眼とするにあり如此二途の目的上に若て盡力一審査の際賞牌を得て美名を海外に輝かす將來御國產の輸出を増進するの目的最肝要に付き假令下廉の物品といへとも堅固に製すへ一從前横濱に於て外人へ販賣せし如き一時一己の利を得んとて毀損一易き品或は不深切なる物品は決して製造すへからず必ず大ひなる患害を醸し終には御國產の聲價を墜すへ一因て心得方を詳らかに下條に示す

一農業上の産物を出品する者の心得は穀物乾果或は生絲茶烟草等の類に至る迄其善良の種を撰ぶべきは勿論なれど其心得方に二條あり

第一には商業上の見本にて後來輸出すべき目的の品は何に限らず其諸箱を同一に製し標はA印の茶は壹箱十斤詰にてB印の茶は二十斤詰といふ如く外箱の記號を一見して其品位斤量ともよく分り外人の信を受ける様心掛くへ一此箱へ記する印並に其名前の印は商標といひて外國人の最大切にする事なればA印の品にB印の品を交へ人を欺く等の事決してあるへからず而して其價は時々相場にて高低あるともA印の品は何時ともA印の品にて決して其品位を降さるること肝要なり

第二には蒐集の見本なりこれは總ての種類を集め示すものにて糖は米なれば諸國產の粳米糯米早稻に至る迄早中晩の種類等を多く集め出品するなり其他雜穀烟草茶類も同様の事と心得へ一又生絲は御國產の第一なれば各種を集めて一二把つゝ差出すもよろし是等の蒐集品は農業上に於て多くの種類を比較するに缺へからざるの品なれば其種類を多く集むる程宜しきなりこれ共商法上の引合あるべきに付き其節不都合の無き換代價等は豫て取調せへ一又糖は米なれば籾より白米にする迄の順序を示し絲なれば繭より織物に造る迄の順序を示す等もよろし

一工藝製造を業とする者は妙技進歩功勞の三つに留意すへ一抑工藝は各國固有の風致ありて決して一様ならず糖は支那は其國風自ら妙處あり西洋各國も亦各其風を異にして各妙處ある如く日本は又日本風の中に妙處ありて他國人の決して撰擬すへからざる處あり又人々其技倆ありて他人の撰擬し難きものあり古物を鑑定するに其作者の技倆他人の及ぶへからざる處を察して是は誰の作と定むるも此理に外ならず然れば萬國の技倆を集蒐する該會に向て我在來の風習を打撃て他國の風格を撰擬し佳評を取り國譽を揚げんと欲するは木に縁て魚を求むるの類なり宜しく志慮あるへ一

某か去年米國の博覽會より歸朝しての話に魯西亞よりの出品は歐洲各國の製品とは更に異なりて聊かも英佛等の品に類似せず全魯國固有の風にして然も大に譽を得たり仍て其故を問ひて魯國美術家某氏か此會に先ちて説出す一説ありそは魯國の製造人は自國の風格を廢し兎角他國の風習を撰擬する事に而已傾きて何とも博覽會に名譽を得ず仍て米國政府の會には自國固有の風格を以て諸品を製造出品せんと頗る衆工を勸奨せしにより斯迄各國とは異なれりと答へると云々是誠に至當の高論なるにより茲に附載す

一工藝者自己の技倆を示さんと欲せば一物を製するにも先づ其功用の如何せば方今世上に適當する哉否を篤と考へ定め其形狀摸樣畫圖彫刻塗等の手段に至ては自己の見識を定め他を顧る事なく一向に取掛りて十分に技倆の妙處を顯すへ一如何となれば斯くなれば英人の望みに適すへき哉又簡潔に造らざれば佛人の眼に入るまじ一杯と處々開つろひ宛やせま一角やせま一と感ふ間には已か見識は既に消滅して多年丹誠の甲斐もなく其作り出す品は寄せ集め物の如く終には人の笑となりて神妙の手術も世に示す事を得ざるへ一總て精神凝縮し十分に製造せし品は人の感せぬと云ふことな一古來名人上手と云はるゝ諸職工は皆其技倆に精神を凝して造り出すに因り今

に至る迄美名を毀し其器物は皆王公貴人の愛玩する所となるは精神を凝して造ると等閑に製するとの間にあるのみされは佛國の出品には各職工多年熟練の功を積み藝術を十分に盡し刻苦勉勵精神を一に凝し美名を海外に顯し國譽を輝す様注意すへ併し物には自ら品位相當の定價あるものなれば利益は至當に計算して一時非常の利益を得んと望むへからず

一日用諸品の如きは最便利にして低價を旨とし自然品數多く買れ捌けて永遠の利益を得ることに注意すへし去述其製造は眞實を本とし假令工數を省くも保ち方を第一とし容易に破壞剝落せざる様製すへし又拙き物は工夫を加へて巧なるものとし不便なりしを便利なる様改め製し高價なりしは下直に作り不足の物は之を補ひ昔よりなきものを新たに製し出して便利を起す等にて進歩功勞の譽を得る事を勉むへし

製造者の最注意すべき條件の大概を左に示す

- 一 甲前の適否を熟慮する事
- 一 風韻を高くして野卑に流れざる事
- 一 損害を防ぎ保ち方を工夫する事
- 一 都て模様は新古雅俗等彼是混雜せざる様取合せ方を考へ又模様をハ餘り多に過ぎさせぬ事
- 一 高所に置くべき物遠見すべきもの卓上に置き或は手に取るべきもの等は其工夫各異なるへし壁は高に掲げ遠くより看るもの等の模様細工は鮮明にして餘り細工過ぎぬ様に卓上に置き或は手に取り見るもの、模様細工は細密ふして物際に心を用うべき事
- 一 流行に後れぬ様に注意し又は流行を始める様心掛へし
- 一 陶器畫藥にて我國になきものは己むを得されども可成丈從來の畫藥を用うへし殊に藍色料は畫藥青を用て洋青を用うへからず

但し下旗を要するの日用雜品は洋青を用ゆるも妨げなし

- 一 陶器の香壺は滑にして蓋又は壺等に傷つけぬ様注意する事
- 一 漆器は木地を撰み下地等を堅固にする事
- 一 銅器は色付の容易に變らぬ様工夫する事
- 一 七寶燒は針金の組合せを能く調へ七寶畫藥は潤澤ありてたゞれぬ様になすへし又磁器にて疵を埋るは至て惡き事
- 一 網類等は織方模様等流行によりて變化するものなれば流行不流行のなき品を考へ出品する様注意すべき事
- 一 織物は艶色等の變り易からぬ様且絲に節なき様にし又糊つよき時は温氣に逢て星斑を生し易し能く注意すへし其幅長け等彼國の用前に適するべきと否とを取調るは緊要の事
- 一 寄木細工其他糊着を要する物等は木地の狂はぬ様になし且膠糊を撰み至極堅固に仕立する事
- 一 都て錠前金具等工合を宜くして保ち方に注意する事
- 一 多人數にて製造する品は手際に甲乙なき様申合す事
- 一 輸出を目的とするものは彼地の相場を取調へ價格を斟酌する事
- 一 工人の心得は既に前に示したりと雖とも自身は商業を主とし職工へ注文して作らしめし物品或は從來本邦各地の名産を買集めて出品せんと欲する者は最も大切なる心得方あり第一は此出品よりして他邦人の高評を得後々貿易の道を擴め永久の利徳を得んとすること肝要なり第二はその出品に付て得る處の賞牌は必ず其製造人へ授けべき事當然なれども之を得るに盡力すへきは又出品人本分の務めと云へし如何となれば其品名譽を得て他邦人の好む處となり買捌け方よろしければ即ち是を買捌する者の所得職工の得る處よりは最大ひなればなり第三は

其品々他邦人の競買する物とをれば會中にて直に製造を注文するもの或ひは永久の取引を約定せんと望む者あるべき事なれば渡航前何程までは注文を引受て資本に差支なき哉を唯と取極め置くべき事にて譬は其時に臨み資本融通の道出來る様の手順をも附け置くべき事なく利得而已に眩惑して濫りに注文を受込資本に差支約定の期限を誤り或は製作の手を抜き注文主に迷惑を懸る時は自身而已ならず御國商人は一般如此ものと大いに信用を失き大害を招くに至る能き注意すべし第四は申送もなき事ながら博覽會は決して賣買を専らとする市場にはあらず手短に言へば新たに賣出す品物は向後買辦方の道を廣むる事肝要なれば其見本へ引札を付けて廣めの爲に得意先きへ配達する如き心得なるべしされば此會にては決して利益を得んとせず實は唯遊りても跡の賣れ捌けを仰ぐ位の氣込にて出品したきものなり去り連扇扇や手拭の如き安物而已にては決してよろからず各國へ其名譽を顯はす様なる高金の物をも出すべき事なり但し同一様なる物數品を出すに及ばず異々も見本を出す心持にて可成丈種類のある物は其譯柄よりして保ち方用ひ方或は何年間程は損せざるべき保證證簡以上の注文をれば何割を引く等の事何月間に出來上る等能き念を入れ委欺く書頭一之を翻譯して物品毎に附る様心掛べし

○甲第十五號 (七月十二日 輪船附)

靜岡縣管下伊豆國君澤郡大場村反別三町壹反七畝貳歩、同國田方郡上澤村、同村反別三町壹歩、右大場村へ組替地所交換郡界更正候條此旨布達候事

○甲第十六號 (七月十四日)

來明治十一年佛國巴里府萬國大博覽會區分目錄別紙之通候條此旨布達候事 (別紙)

佛國巴里府博覽會區分目錄	
第一大區 美術	自第一小區 至第五小區
第二大區 教育及知識學	自第六小區 至第十七小區
第三大區 家具及附屬品	自第十八小區 至第三十小區
第四大區 織物衣服及附屬品	自第三十一小區 至第四十二小區
第五大區 採掘工業ノ原料及製造品	自第四十三小區 至第四十九小區
第六大區 機械工業ノ器具及製造ノ方法	自第五十小區 至第六十八小區
第七大區 食用品	自第六十九小區 至第七十五小區
第八大區 農業及養魚法	自第七十六小區 至第八十四小區
第九大區 園藝	自第八十五小區 至第九十小區
第一大區 美術	彫像及畫牌ノ彫刻 彫刻及隱起ノ彫物 彫印シ及ヒ彫刻シタル物 物「カメオ」彫刻 シタル石、景緻細工
第二大區 教育及知識學	幼年ノ教育○小學校○壯年ノ教育 幼稚園 孤兒院 幼年學校及童子園等ノ圖案及雛形、ソノ排置及什物 學校ニ入ルノ前幼稚ノ身體心術習力ツ養成スル器具 市府及田舎學校ノ圖案及雛形、此學校ノ排置及什物、教育用ノ物品、書籍地圖、模型、鐘表等 壯年教育及職業習練ノ爲ニ設ル學校ノ圖案及雛形、此學校ノ排置及什物、壯年教育及職業習練ノ用ニ供スル
第三大區 家具及附屬品	彫刻畫及ヒ石版畫 彫刻、彫像、彫色ノ彫刻、石版及ヒ毛筆ノ彫色石版、彫色ノ石版
第四大區 織物衣服及附屬品	器具 音樂、外國語、記號法、經濟學、農學、園藝、百工學ヲ教授スル器具、圖學ノ器具 圖書、製書、及ヒ複製ノ教育ニ用ル器具 切女生徒ノ科業著作、文庫出版物 中學校ノ建設法及ヒ其器具
第五大區 採掘工業ノ原料及製造品	中學校即「リセー」ガム カニス「コンクリート」共ニ中學校ナリ、製作學校及ヒ商業學校等ノ圖案及雛形、此等學校ノ排置及什物 百科類集、科業書、地圖
第六大區 機械工業ノ器具及製造ノ方法	
第七大區 食用品	
第八大區 農業及養魚法	
第九大區 園藝	
第一大區 美術	
第二大區 教育及知識學	
第三大區 家具及附屬品	
第四大區 織物衣服及附屬品	
第五大區 採掘工業ノ原料及製造品	
第六大區 機械工業ノ器具及製造ノ方法	
第七大區 食用品	
第八大區 農業及養魚法	
第九大區 園藝	

口二十八	一十八	十八	九十七	八十七
犬 收用ノ犬 看守用ノ犬	家畜 各國醫術ノ見本トシ テ出シタル獸類 家畜ヲ養フ場所 糞倉 雞舎ノ圖案 人工耕田機	獸類等 各國醫術ノ見本トシ テ出シタル獸類	綿羊、牝山羊 各國牧畜術ノ見本トシ テ出シタル獸類	牛、水牛等 各國牧畜術ノ見本トシ テ出シタル獸類
四十八	三十八	口	第九大區 園藝	
魚類 蟹類及ヒ介類 生活スル水中ノ動物 動物及ヒ水草ノ 養池養 魚方 魚類 介類及ヒ水睡ヲ 養フ機具	有害ノ蟲類ヲ殺ス機具 及ヒ方法 魚類 蟹類及ヒ介類 生活スル水中ノ動物 動物及ヒ水草ノ 養池養 魚方 魚類 介類及ヒ水睡ヲ 養フ機具	獵犬 遊獵ノ犬 獵犬令及ヒ養犬機具ノ 圖案	有用及ヒ有害ノ蟲類 蠶絲、蠶、諸種ノ野蠶 ハニニ 飼用ノ 蜜蝋及ヒ蠶ヲ養ヒ且ツ 之ヲ收獲スル機具	獵犬 遊獵ノ犬 獵犬令及ヒ養犬機具ノ 圖案
六十八	五十八	第九大區 園藝		
木 雜飾ノ花及ヒ草類 各國ノ園庭及ヒ居住地 ノ狀景ヲ示スヘキ植 物ノ諸類及園藝ノ見 本	水生植物ヲ養フ池 園庭雜飾ノ噴水及ヒ裝 置 暖盆 廣大ノ温室及ヒ其附屬 物、室内ニ安置スル小 暖盆 水生植物ヲ養フ池 園庭雜飾ノ噴水及ヒ裝 置	檢査及ヒ園藝ノ機具 養樹者及ヒ園丁ノ機 具 灌水ノ装置及ヒ養草ノ 装置 廣大ノ温室及ヒ其附屬 物、室内ニ安置スル小 暖盆 水生植物ヲ養フ池 園庭雜飾ノ噴水及ヒ裝 置	檢査及ヒ園藝ノ機具 養樹者及ヒ園丁ノ機 具 灌水ノ装置及ヒ養草ノ 装置 廣大ノ温室及ヒ其附屬 物、室内ニ安置スル小 暖盆 水生植物ヲ養フ池 園庭雜飾ノ噴水及ヒ裝 置	
十九	九十八	八十八	七十八	
木 燈臺ノ植物 遊樂及ヒ利用ノ爲メ各 國ニテ行フ園藝ノ見 本	產物 各國ノ森林培植法ノ見 本ト爲メ可キ樹木及生 產物	森林ヲ作ル可キ樹木ノ植 子及ヒ苗 各國ノ森林培植法ノ見 本ト爲メ可キ樹木及生 產物	茶園ノ草類 各國茶園ノ狀景ヲ示ス 可キ植物及產物ノ見 本	

○甲第十七號 (七月三十日 輪廊附)
三重縣下伊勢國飯高郡丹生鐵形之兩村ヲ同國多氣郡へ組換榑田川中央ヲ以郡界ト相定候此旨布達
候事


○甲第十八號 (八月二十一日 輪廊附)
明治十年内國勸業博覽會ニ於テ授與スル賞牌ハ別紙雜形之通候條此旨布達候事

甲第二十三號布達
以下之
此以下之


一等賞牌之圖

直徑三寸二分
厚一分五厘

表



裏



但賞牌ヲ受領セシ者ハ之レヲ讓與シ又ハ賣渡シ候儀ハ不相成候事
(別紙)

二等賞牌之圖
直徑一寸九分五厘
厚一分二厘



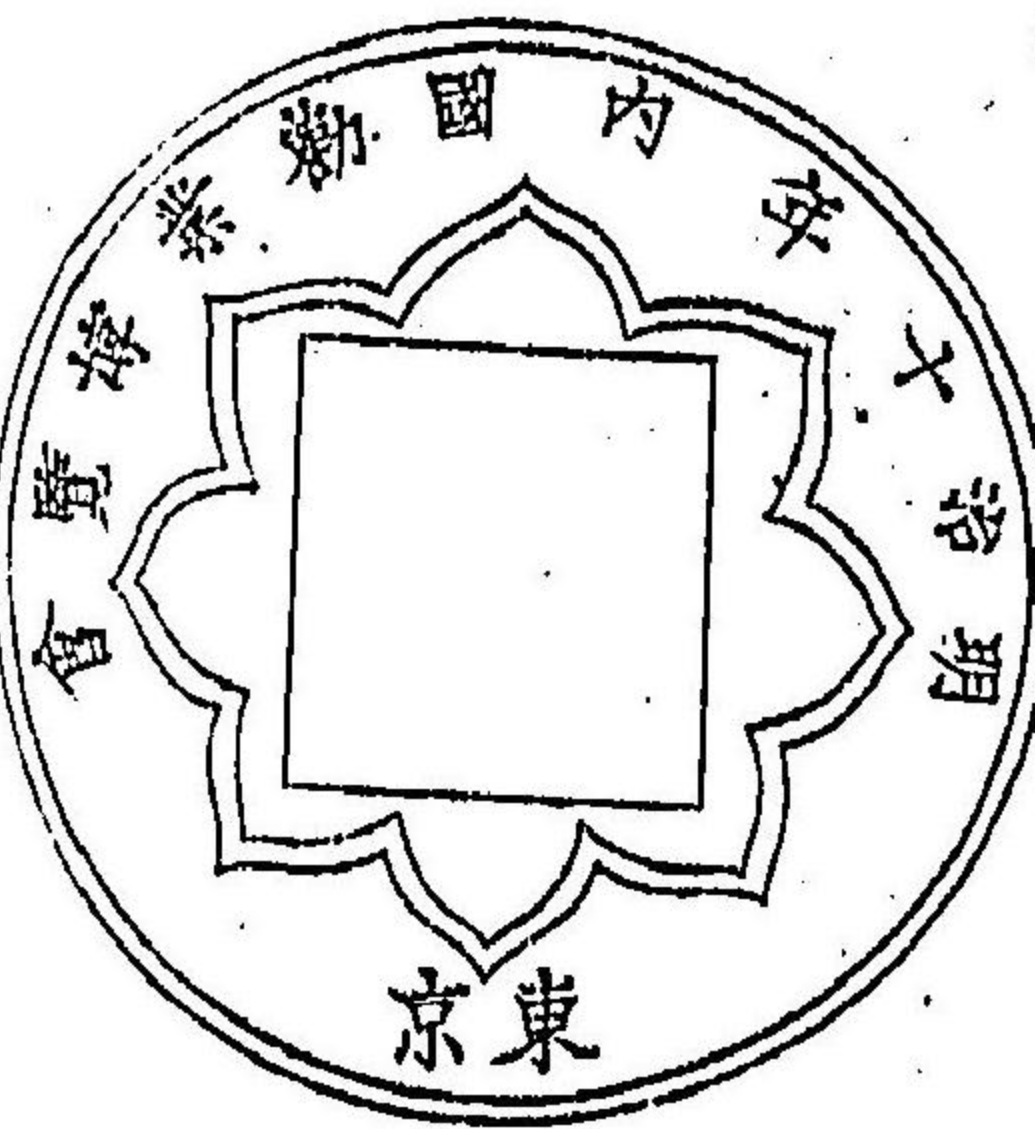
裏



三等賞牌之圖
直徑一寸六分
厚一分



裏



○甲第十九號 (九月二十二日)

明治十年内國勸業博覽會規則中來ル十月一日ヨリ左之通改正候條此旨布達候事
明治十年内國勸業博覽會規則

第二十五條

(午後第五時)ヲ(午後第四時)ト改ム

○甲第二十號 (九月二十七日 輪開附)

明治九年^四月太政官第五拾六號ヲ以遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處
右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省へ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相
當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人へ下附シ該物品ハ永ク博物館へ
陳列可致候條此旨布達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ撰寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方
相達候後本文ノ通可取計候事

○甲第二十一號 (十月九日 輪開附)

日本坑法第一章第三款ニ屬スル土石堀取規則之義ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以相達候通土石料
之義ハ是迄百分ノ一ヨリ二拾迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共別紙之通更正候條此旨
布達候事

(別紙)

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石^{礫石} 礫石^{礫石} 礫石^{礫石} 粘土^{粘土} 粘土^{粘土} 粘土^{粘土} 石灰石^{石灰石} 類ニ限リ之レヲ施
行スヘシ

二十一年内務省令
第九號ヲ以テ廢止

十四年第三號布告
十九年宮内省第十
三號ヲ以テ宮内
省へ提出シテ

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スルハ別紙書式ニ照シ繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ經テ當省
へ願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一箇年堀出シタル坑物代價即チ山元賣拂直段ノ百分ノ一ヲ
上納スヘシ

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ算シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一
坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算スルモノトス

土石堀取願書式

何ヶ地堀出願

官有山林原野田畑之内
一開坑場何坪

何ヶ地何坪何合何勺

此山元直段凡何圓何錢

此上納代料何圓何錢

何ヶ年季

但試堀ハ堀出高並山元直段上納代料共記載ニ及ハス
右地所ニ於テ何ヶ開坑仕度候間御開届被下度奉願候

何ヶ地何大區何小區

何國何郡何村何業

何 某 印

明治何年何月何日

何縣知事何某殿

○甲第二十二號 (十月十二日 輪附)

明治九年七月ヨリ十年六月迄寫眞版權書目十年一月ヨリ六月迄圖書版權書目並第壹號第貳號版權
書目ノ内版權返納ノ分等別冊ノ通ニ候條此旨布達候事 (別冊略ス)

○甲第二十三號 (十一月十九日 輪附)

本年八月第拾八號布達内國物業博覽會ニ於テ授與スル賞牌之義更ニ詮議之上賞ノ等級ヲ廢シ龍紋
鳳紋花紋等ノ賞牌授與可致候條此旨布達候事

○甲第二十四號 (十一月十九日 輪附)

昨明治九年八月甲第三拾貳號ヲ以テ及布達置候長崎司藥場之儀本月本日ヨリ開場候條此旨布達候
事

○甲第二十五號 (十二月二十七日 輪附)

明治十年七月ヨリ九月迄圖書寫眞板權書目並第壹號第貳號第參號板權書目ノ内版權返納ノ分等別
冊ノ通ニ候條此旨布達候事 (別冊略ス)

達

○乙第一號 (取消)

○乙第二號 (二月十九日)

當省中局課左之通廢置並改稱候條此旨爲心得相達候事

勘農局 驛遞局 警視局 地理局 土木局 社寺局

右新置

會計課

府 縣

十四年内務省甲第
十六號布達ヲ以テ廢
止

十三年太政官第六
十號布達ニ依リ消滅

右局ト改稱

警保局 翻譯課

右廢止

○乙第三號 (二月十九日)

乙第三十三號達ヲ以テ但書增加十七年農商務省第六號達ヲ以テ廢止

區戶長ト雖來職中職權之儀不相成候條爲心得此旨相違候事

○乙第四號 (二月二十三日)

別紙丁第一號之通神宮並官國幣社へ相違候條此旨爲心得相違候事(別紙ハ下ニ載ス) 府 縣

十九年勅令第五十四號

○乙第五號 (二月二十六日 輪廊附)

各地方ニ於テ從來取置有之候警察出張所並屯所等ノ名義ヲ廢シ更ニ出張所ヲ警察署屯所ヲ分署ト改稱シ各設置セル所ノ地名ヲ冠唱可致且明治八年當省乙第六十八號ヲ以相違候警察月報表別紙雛形之通改正増補候條送致手續等從前之通相心得本年一月ヨリ右ニ照準可届出此旨相違候事(別紙) 但警察署門牌左之通掲示可致尤改正之上其地名署數等詳細可届出事

門牌雛形 用木 通立

徑五尺

横壹尺

尺 曲

何地名 警察署

徑四尺五寸

横九寸

同

何地名

何地名

分署

同

○乙第六號 (二月二日)

十一年内務省乙第六十六號達ヲ以テ府縣名ニ改ム

明治六年三月元教部省第十三號達書官國幣社並府縣社制札面之儀自今横文ハ削除候條此旨相違候事 但官國幣社之分ハ當省名ニ書改可申事 府 縣

○乙第七號 (二月六日 輪廊附)

十一年大藏省乙第七十二號達ヲ以テ乙第二十六號達ニ依リ消滅

各縣ヨリ差出候上納金等之義ニ付辛未十月十四日公布及ヒ七年十月大藏省乙第三號達之趣モ有之護送官吏附添候義ニハ候へ共現今各地方警察所追々設備候ニ付テハ其上納金差立候地ノ木廊ヨリ沿道地方ノ警察所へ照會シ巡查ヲシテ持區内傳遞途中宿泊共便宜警備セシメ候様可取計此旨相違候事 皇太后皇妃皇子女等御陵墓制札別紙之通相定候條地方官ニ於テ取調建設可致此旨相違候事 但御場所狹隘ニテ建設差支候向ハ取調可届出事 府 縣

(別紙)

何天皇皇后何々儀

東西何間 南北何間

定

一 根ニ立入ル事

一 魚鳥ヲ捕ル事

一 竹木ヲ伐ル事

右令禁止者也

月 日 内務省

何々妃

何天皇御母

何々御孫

東西何間 南北何間

定

以下同文

何天皇皇子女

何々御孫

東西何間 南北何間

定

以下同文

右堅可相守者也

某 縣 府

○乙第九號 (三月七日)

府 縣

博覽會關係ノ官員又ハ關係セサル官員及我政府ニ使役セラル、外國人等佛郵船へ減價乗船ノ備昨
明治九年乙第百十四號ヲ以テ相違候處今般我政府ヨリ歐洲ニ差遣ハサル、留學生モ官員ニ準シ船
賃定價一割五分減ニテ乗船引請可申様同會社ヨリ申立候ニ付此後右留學生ハモ減價乗船切手交付
可致ニ付總テ先般相違候手續ヲ以テ右切手請取方當省ニ可申立此旨相違候事

○乙第十號 (三月七日)

府 縣

太政官第拾壹號布告鳥獸獵規則改正相成候ニ付テハ追テ免狀相製シ當省ヨリ可相渡候條當分之内
從前之鑑札代用可致此旨相違候事

○乙第十一號 (三月八日 附)

府 縣

太政官第拾壹號布告鳥獸獵規則改正相成候ニ付明治八年當省乙第三拾六號達銃獵鑑札渡方條例別
册ノ通改正候條右ニ照準可取計此旨相違候事

十二年大藏省乙第
三號達乙第三十二
號達

乙第十一號達

十四年太政官第
十六號達同農務
省乙第八號達

(別册)

銃獵免狀渡方條例

- 第一條 鳥獸獵免狀ハ別紙離形ノ通相製ノ當省ヨリ相渡スヘシ
- 第二條 免狀ハ兼テ凡積ヲ以テ東京府下ハ當省其他ハ地方管廳へ可相渡置ニ付管内限リ總計取調
毎年六月二十日迄請取方申立ヘシ
- 第三條 免狀下ケ渡ノ節ハ毎年其管廳於テ帳簿ヲ製シ番號並住居姓名身分年齡共詳細登記スヘシ
- 第四條 管廳於テ免狀ニ記スヘキ期限郡姓名年齡住所共離形ノ通記入押印ノ上下ケ渡スヘシ
- 第五條 定期ヲ伸縮スル場所ニ於テ免許スル免狀ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一期トシ新舊引替
相渡スヘシ
- 第六條 銃獵滿期ノ分ハ免狀收却ノ上總テ該管廳於テ斷裁スヘシ
- 第七條 凡積ヲ以テ相渡置候免狀殘餘有之節モ前條ニ同シ
- 第八條 鳥銃獵免狀渡濟ノ上ハ別紙離形ノ通總計表ヲ製シ翌年七月限リ當省へ差出スヘシ
- 第九條 定期ヲ伸縮スル場所ハ勿論定期ノ場所ト雖實際取調其時々届出ヘシ
- 第十條 銃獵規則ノ者罰金上納方ハ明治八年司法省第四十號達ノ通相心得ヘシ
- 第十一條 禁獵制札ノ儀ハ別紙離形ニ照シ製作可致最其大小ハ適宜ニ任スヘシ
。但官設ハ府縣費民設ハ民費又ハ自費タルヘシ
- 第十二條 銃獵免狀ヲ毀失セシ者再應請取方申立候節ハ事實取札の上更ニ下ケ渡方設計規則ノ通
手数料收入スヘシ

十三年内務省第
六十五號達

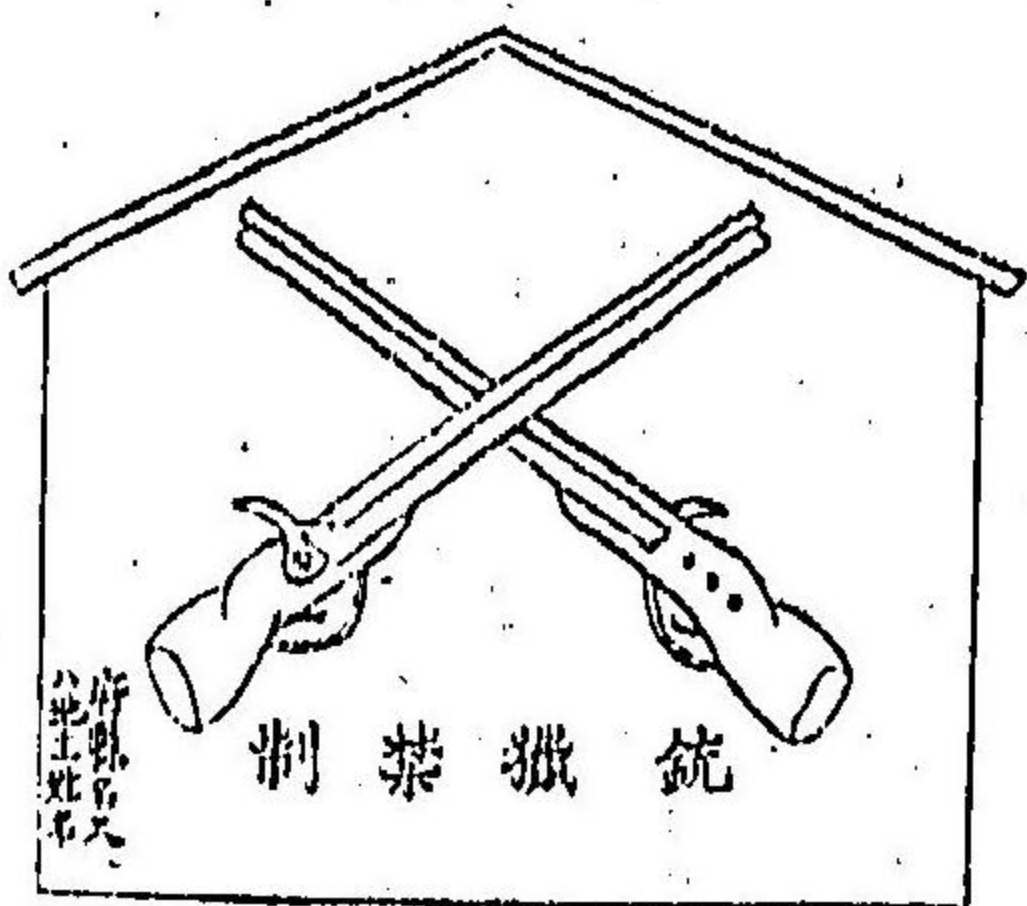
乙第五十六號達ヲ
以テ勿論以下九字
十五年司法省丁第
三十八號達ニ依リ
、附ノ原案減
十一、年第十九號布
告ヲ以テ府縣費民
費ノ稱消滅

二十二年農務省
訓令第三十四號
以テ勸印廢止

(別紙雛形)

明治十年二月 內務省 達 乙第十二號

職	獵	遊	獵	總
受取高免狀	何	何	何	何
免狀	何	何	何	何
銃	何	何	何	何
銃	何	何	何	何
身	何	何	何	何
獵銃名	何	何	何	何
水火盜難	何	何	何	何
免狀	何	何	何	何
手取狀	何	何	何	何
斷銃免狀	何	何	何	何
止銃地	何	何	何	何
獵名	何	何	何	何
獵地	何	何	何	何
總計	何	何	何	何



裏面ハ規則記載有之

銃獵免狀
印之來

内務省

明治十年二月 日
使府縣廳 印

(二印八朱)

三七三

府縣名明治何年鳥獸總計表

職	獵	遊	獵	總
受取高免狀	何	何	何	何
免狀	何	何	何	何
銃	何	何	何	何
銃	何	何	何	何
身	何	何	何	何
獵銃名	何	何	何	何
水火盜難	何	何	何	何
免狀	何	何	何	何
手取狀	何	何	何	何
斷銃免狀	何	何	何	何
止銃地	何	何	何	何
獵名	何	何	何	何
獵地	何	何	何	何
總計	何	何	何	何

○乙第十二號 (二月十二日 輪廓附)

府 縣

士族家督相續又ハ管轄替等身上異動届ノ儀自今不及差出候條此旨相違候事

○乙第十三號 (二月十三日 輪廓附)

府 縣

河港道路修築經費金一村限金高帳總計帳勘定帳之儀明治七年二月乙第十號八年五月乙第六十號ヲ以テ相違置候處客歲第五十九號及六十號ヲ以河港道路等級被相廢候付テハ右布達之趣旨ニ基キ更ニ別紙雛形之通改正候條本年七月以降右ニ照準シ一村限金高帳及總計帳勘定帳共從前之通翌月三十日限當省ニ可差出此旨相違候事(別紙略ス)

○乙第十四號 (三月十三日)

府 縣

乙第七十一號
明治十年二月 內務省 達 乙第十二號 乙第十三號 乙第十四號

明治十年二月 內務省 達 乙第十二號 乙第十三號 乙第十四號

三七三

明治十年二月 内務省 達 乙第十五號 乙第十六號 乙第十七號 乙第十八號

三七四

拙者義御用有之今十三日西京ニ出發致候付留守中内務少輔前島密代理致候條此旨相達候事(内務卿
大久保利通)

乙第九十三號達ヲ
以テ廢止

○乙第十五號 (二月十五日 輪船附)

府 縣 東京府

明治八年當省乙第六十八號ヲ以テ相達候内務部巡查給與規則第十五條ニ左之通但書追加候條此
旨相達候事

乙第四十五號達ヲ
以テ文中附補

第十五條云々

但勳績二年未滿ト雖モ職務上重傷ヲ受ケ不具トナリ免職スル者ハ歸國旅費ヲ給シ職務上ニ死シ
及ヒ奉職中病死スル者ハ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス

十六年内務省乙第
三十九號達案科

○乙第十六號 (二月十五日 輪船附)

府 縣

明治七年乙第廿八號並同年乙第五拾八號ヲ以テ相達候官營ニ關スル倉庫及ヒ家屋等將來使用ノ目
途ヲ以テ存置スルモ又ハ拂下ケ殘ノ分ト雖モ追テ使用候歟或ハ拂下ケ候迄ハ其敷地ハ總テ官有
地第三種ニ据置候儀ト相心得可申此旨相達候事

但使用候節ハ其時々經伺之上官有地第二種官用地ニ組替可申事

府 縣

○乙第十七號 (二月十六日)

十一年第三十七號
布告ヲ以テ規則改
正

○乙第十八號 (二月十七日 輪船附)

府 縣

各月大藏省ニ差出來候米麥大豆其他之物品相場書之備當省ニ差出候條明治八年十月中相達置候處
本年一月以後差出スニ不及候條此旨相達候事

(別紙)

甲 號

水 先 船 免 狀

船 名 日

日本帝國

内務省



明治 年 月 日 水先各

簿ニ登錄スル者也

登簿掛

甲號

第

號

船名

長

幅

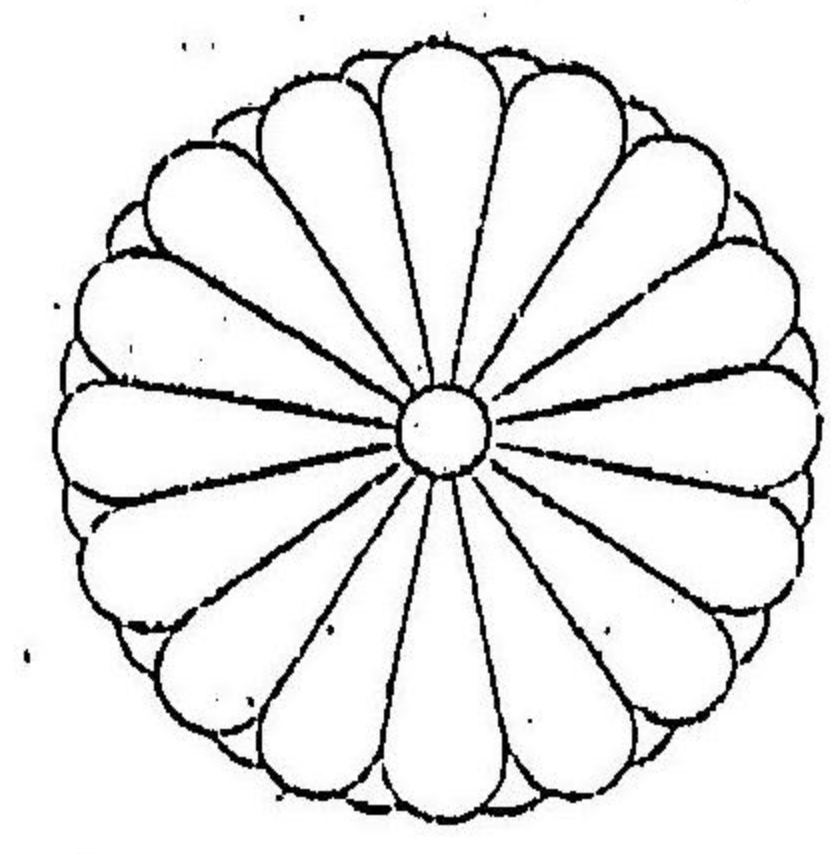
深

網具

船主

請願人

水先人免狀番號



西洋形船水先免狀規則ノ條款ニ
遵ヒ此免狀ヲ附與スル者也

但此免狀ハ明治 年一月一

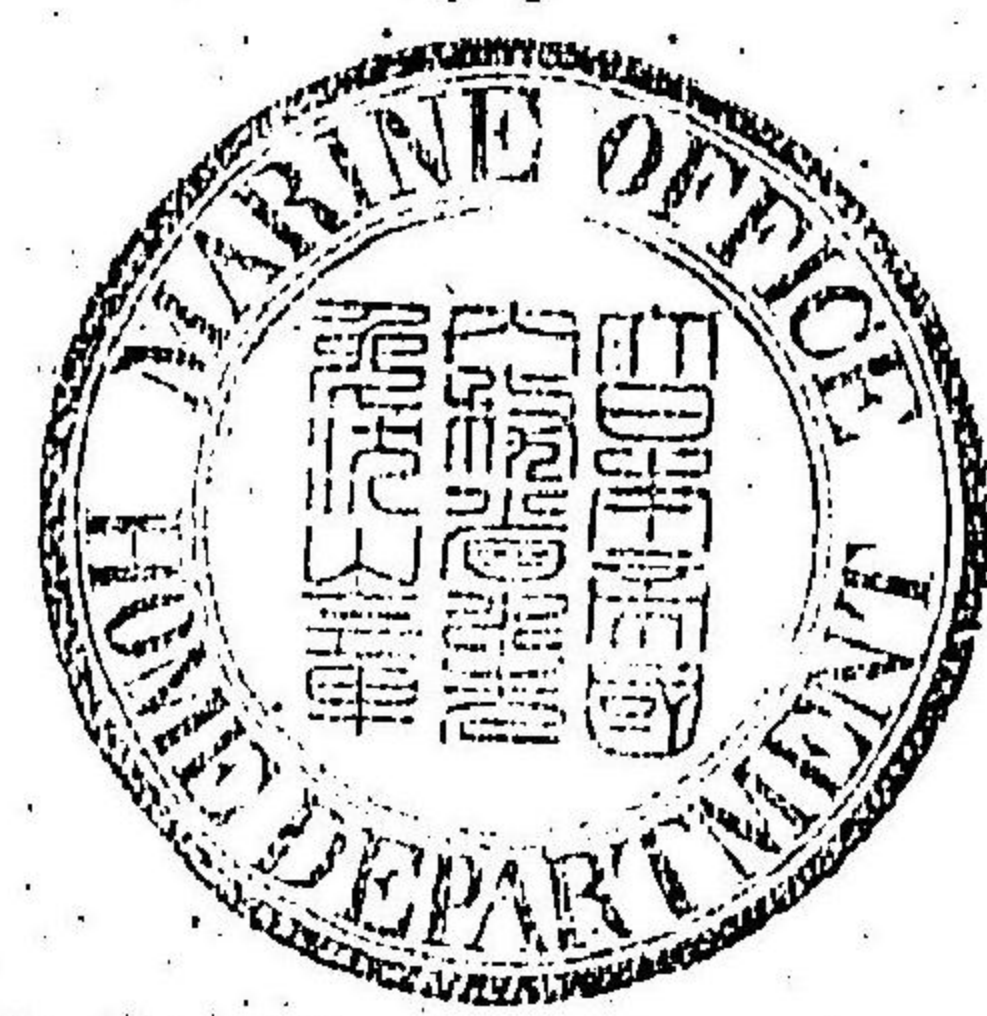
日ヨリ廢止タルヘシ

明治 年

月 日

日本帝國

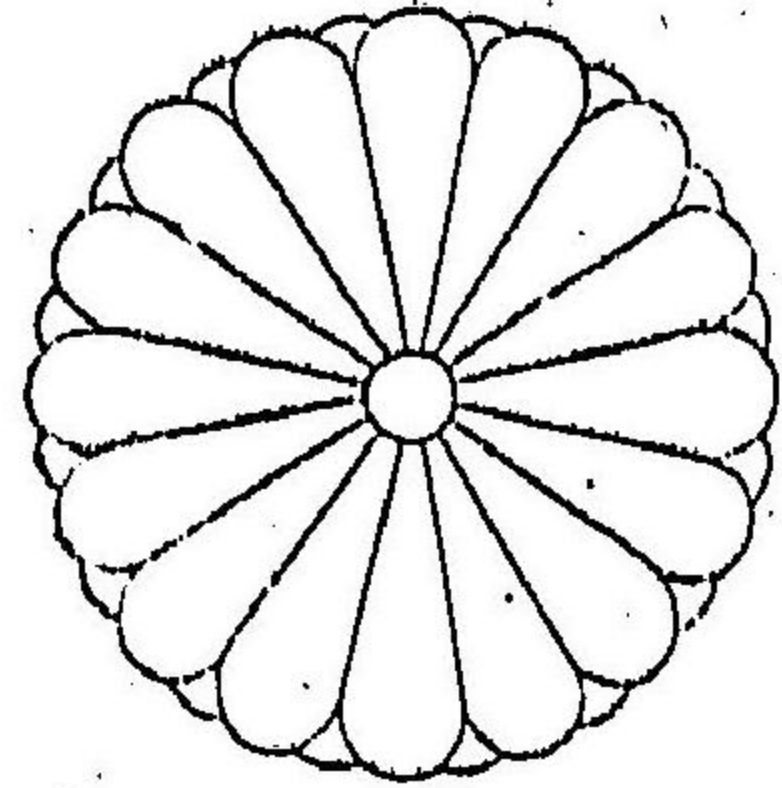
內務省



水先船免狀

明治 年 月 日
水先名
簿ニ登錄スル者也

登簿掛



No.

PILOT BOAT'S LICENSE.

Name of Boat "....."

Length

Breadth

Depth

Rig

Name of Owner

Name of Applicant

No. of
His License.

This License is granted in accordance with and subject to the Pilotage Regulations for Vessels of Foreign Form of Construction and will be Null and Void after the First day of the First month of the year of Meiji, (January 187.....)

Given under our Hand this day of the month of the Year of Meiji.

..... } Officers of the Home Department.

Signature of Applicant

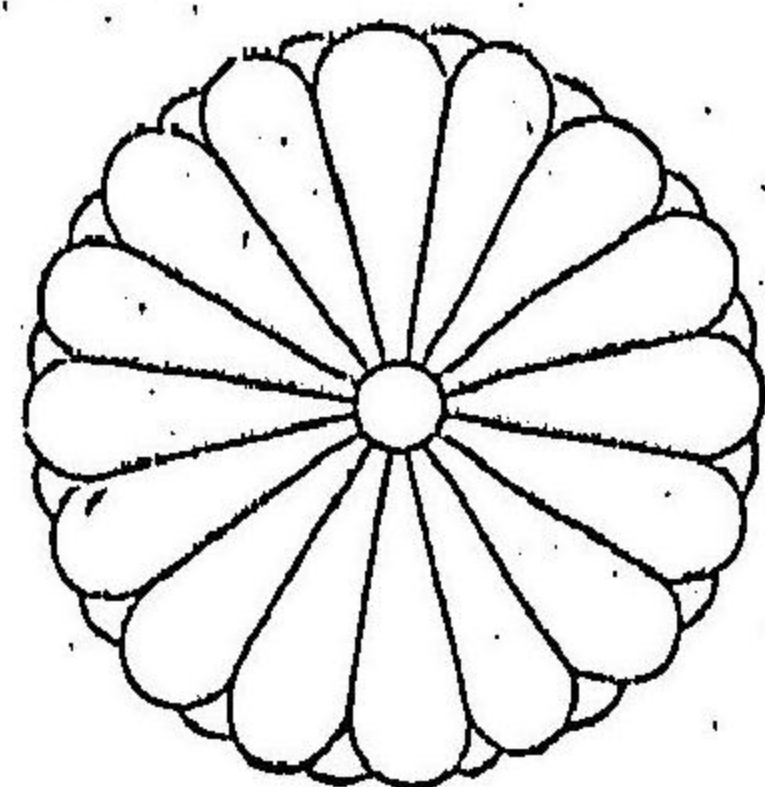
Entered in the General Register on the day of the month of the Year of Meiji.

..... Registrar.

乙 號

第

號



水 先 免 狀

貫籍
氏名
年齢

前記

形船舶ノ大小ヲ問ハス吃水ノ深淺

ニ拘ラス左ノ地方即チ

ニ於テ水先ノ試験

ニ及第セルニ依リ西洋形船水先免

狀規則第七條ニ遵ヒ此免狀ヲ附與

スル者也

但此免狀ハ明治 年 月 日

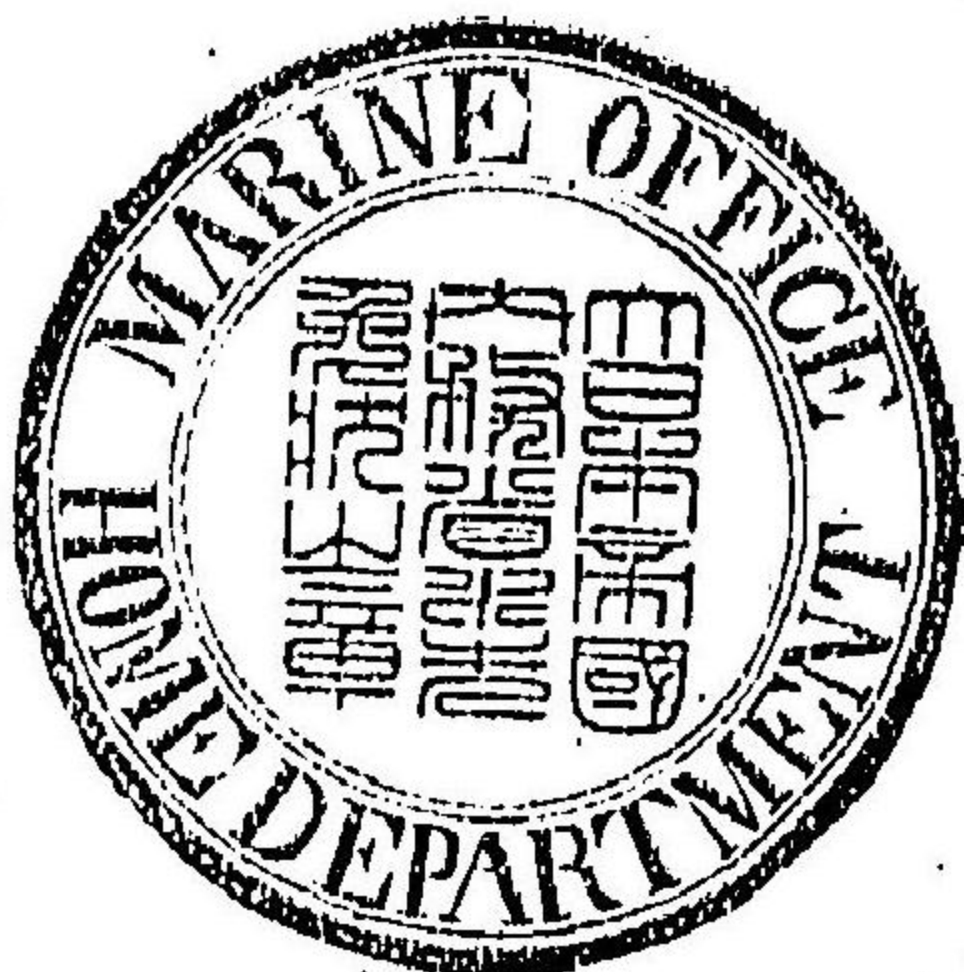
ヨリ廢止タルヘシ

明治 年

月 日

日本帝國

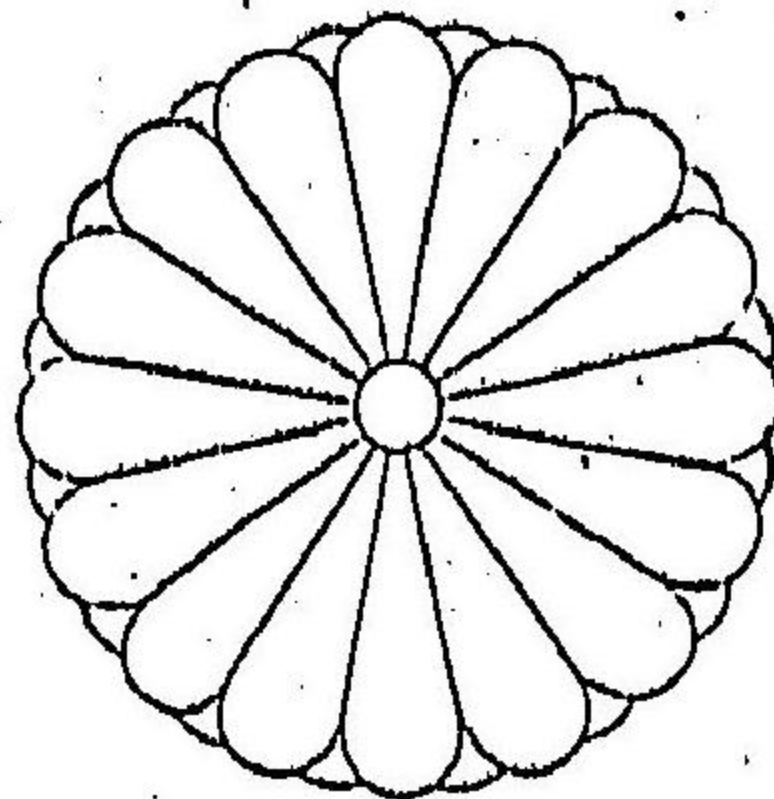
内務省



明治 年 月 日 水先名簿

ニ登録スル者也

登簿掛



PILOT'S LICENSE.

Address of Bearer _____
 Place of Birth _____
 Date of Birth _____

Vessels of Foreign Construction.
 Section 12. Pilotage Regulations, which are in accordance with these Regulations, shall, (for pilotage purposes only,) be accorded special permission to land on any part of the sea-coast within H. I. J. Engineer and to travel overland to the Port for which they are licensed.

It having been reported to us that you have been found duly qualified to Pilot Ships of any draft of water within the following limits, we do hereby in pursuance of Section 7 of the "Pilotage Regulations of Vessels of Foreign Form of Construction" grant you this License, which will be Null and Void after the First day of the First month of the Year of Meiji (January 187)

Given under our Hand this _____ day of the _____ month of the _____ Year of Meiji.

 Signature _____
 Entered in the General Register on the _____ day of the _____ month of the _____ Year of Meiji.

許 ヲ 與 フ ヘ シ
 モ 上 陸 シ 且 其 出 發 地 エ 陸 路 歸 ル ヲ 得 ル ノ 特
 其 執 業 上 ニ 限 リ 日 本 帝 國 内 何 レ 海 岸 ト 雖
 此 規 則 從 テ 水 先 免 狀 受 ケ タ ル 外 國 人 ハ
 No. of License
 告 西 洋 形 船 水 先 免 狀 規 則 第 十 二 條
 明 治 九 年 第 十 一 月 第 百 五 拾 四 號 御 布
 Officers of the Home Department.

Registrar

○乙第三十號 (三月七日)

府 縣 東京府 東京府

本年二月十九日清省乙第十九號達銃砲總計表編成例へ左之通追加候條此旨相違候事

銃砲總計表編成例追加

一 軍用銃免許銃共轉籍又ハ賣買等ニ係リ甲縣調査済ノモノ乙縣下ニ現存ストモ乙縣屬ノ總計ニ加算セス從前乙縣調査ニ係ル員數ノミ掲載ス可シ

○乙第三十一號 (三月八日 輪廓附)

府 縣 東京府 東京府

巡查ニシテ警部之職務ヲ行フモノハ其節ニ限リ帶劍不苦候條此旨相違候事

但劍並器具共警察費ヲ以テ適宜調製シ各署へ備置入用之都度相渡候様可致事

○乙第三十二號 (三月十二日 輪廓附)

府 縣

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相違候事

一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ進テ相違候免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ徵ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハズ

但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ共居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請買又ハ行商營業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交附取計フヘシ

十四年内務省乙第
二十五號達ヲ以テ
請買鑑札料及行商
營業鑑札ノ取除更
ニ取扱方ヲ定ム參
照

乙第六十五號達
以テ第四項改正

乙第六十五號達
以テ第六項改正

十三年大藏省乙第
三十二號達ヲ以テ
勘定帳及進達期限
更正十八年大藏省
乙第七號達ヲ以テ
用稅局ヲ主稅局ト
改メ

十一年内務省乙第
七十號達ヲ以テ明

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ營業鑑札所持ノモノハ限リ本年一月ヨリ六月マテノ内
廢業届出タルモノハ其税金月割ヲ以テ徵收スヘシ尤其課勘定帳ニ明記スヘシ

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別
ノ詮議ヲ以本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ

一 賣藥營業者並ニ請買者免許看版ハ左式ノ通製セシムヘシ

三 尺 寸法同上

許 免 賣 藥 營 業

許 免 賣 藥 請 賣 業

一 税金並ニ營業鑑札料請買鑑札料行商鑑札料ハ毎年二月八日ノ兩度、勘定帳ハ一月七月三十一日、勘定
帳相添ヘ大藏省租稅局ヘ納附スヘシ且同時ニ別ニ勘定帳一本ヲ製シ内務省ヘモ進達スヘシ

一 税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添ユルノミニシテ勘定帳ハ一ヶ年取束ニ毎年八月三十一日
限リ該地差立大藏省租稅局ヘ進達スヘシ

但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限該地差
立同局ヘ進達スヘシ

一行商鑑札ハ各管屬ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑
札ニ記載スヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラス營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之
ヲ渡スヘシ

一行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ハ

明治十年三月 内務省 達 乙第三十二號 (發賣規則取扱手續書)

細則並出ニ及ハス
トス
十四年內務省乙第
二十五號達ヲ以テ
削除
乙第六十五號達ヲ
以テ第十項改正十
三年大藏省乙第三
十二號達ヲ以テ勘
定改正

兩度內務省ニ開申スヘシ
一行商鑑札製作費ハ豫備金ヲ以テ繰替置キ毎半年分勘定帳ヲ製シ一月七月ノ兩度大藏省出納局ニ
受取方申出ヘシ
一賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳離形
明治何年 七月、ヨリ、六月、マテ賣藥營業稅並諸鑑札料仕上勘定帳

一金何程

此譯

從來營業者何人

此藥劑何方

新規營業者何人

此藥劑何方

人員何人

合

藥劑何方

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

營業稅

營業鑑札料

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

總計金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

請賣鑑札料

行商鑑札料

鑑札書替再渡料

營業鑑札料
請賣鑑札料
行商鑑札料

右者、明治何年、一月ヨリ、六月、七月ヨリ、十二月、マテ、賣藥營業稅并鑑札料書面之通候也。

年、月、日

官、氏、名、印

賣藥營業願書式

明治八年舊省乙第九十八號違離形ニ照準スヘシ

賣藥營業鑑札離形

(印ハ朱書)

乙第五十八號違離形
第十一号内務省乙
第九十八號違離形
以テ取扱
手續ヲ改メ

銅版、唐草、番紋

局長印	番號	府、縣、大小區、郡、村、番地
衛生印	右、方、名	氏、名
	免、許、候、事	
	明、治、年、月、日	
	内務省	
	省、印	

(改)鑑札離形

印之合契

番號	何府、何縣、何大區、何小區、何國、何郡、何村、何番地
方名	何之誰
右免許候事	
明治年、月、日	
内務省	
省、印	

裏面

府縣廳

府、縣、廳

賣藥改正願書式用紙美濃紙
賣藥改正願

府、大小區、郡、村、番地
營業人 族、氏、名

一方名
藥品分註
製法
用法服量
功能

右者何年月日御検査済鑑札御下渡營業仕候處今般何々之座左之通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也

一 改正ノ座ヲ詳記スヘシ

年月日

願人 氏名印
區長或ハ醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請買鑑札願書式用紙同上

賣藥請買願

一方名 一同 一同 一同 一同

右營業人

府 大小區國郡町番地
族籍 氏名

但營業者異ナレハ縦令一方タリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請買仕度依テ別紙營業者へ御免許之御指令寫並約定書相添此段奉願候也

府 大小區國郡町番地

請買願人 族籍 氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請買約定書

一方名 一同上 一同上 一同上 一同上

年月日

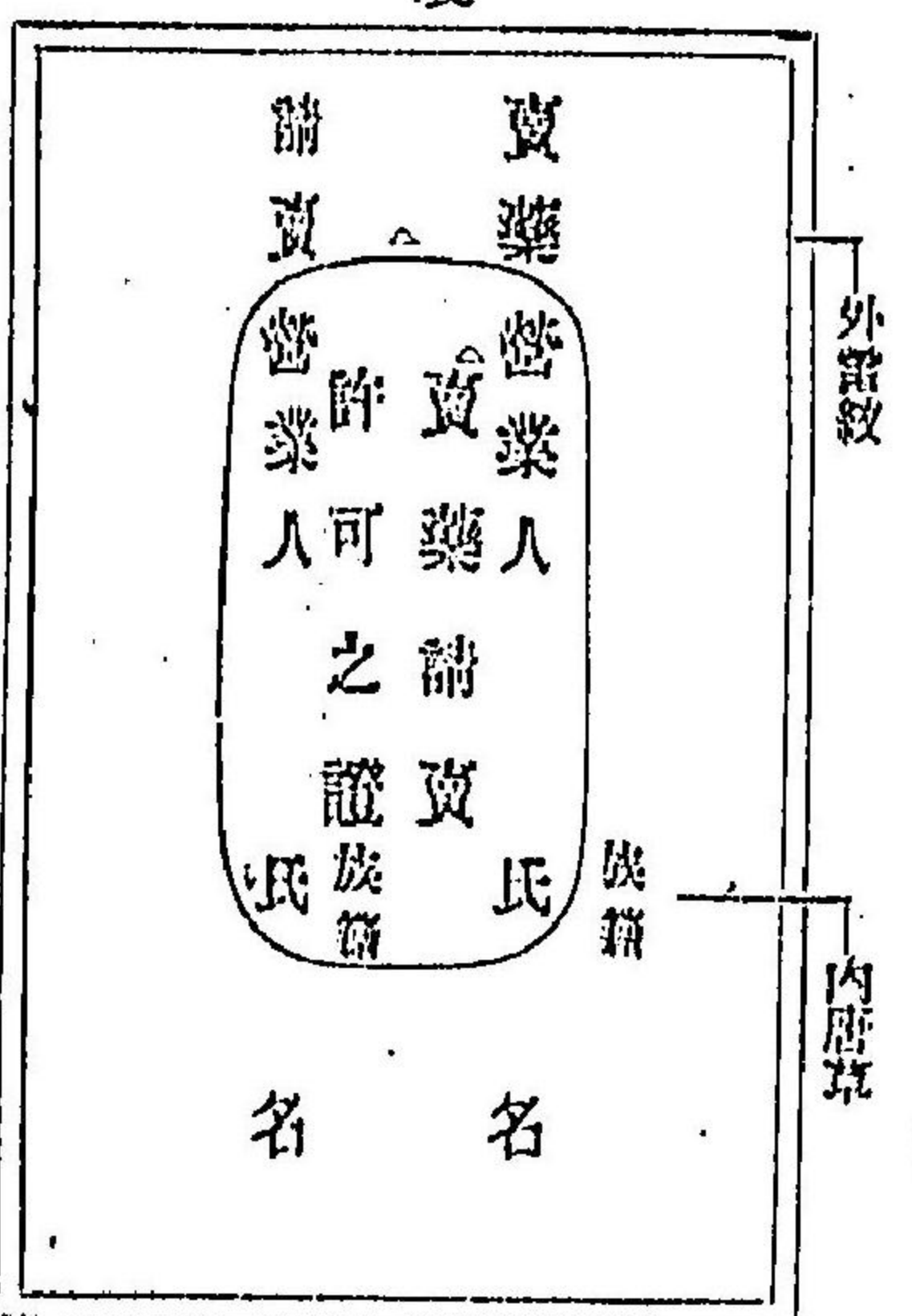
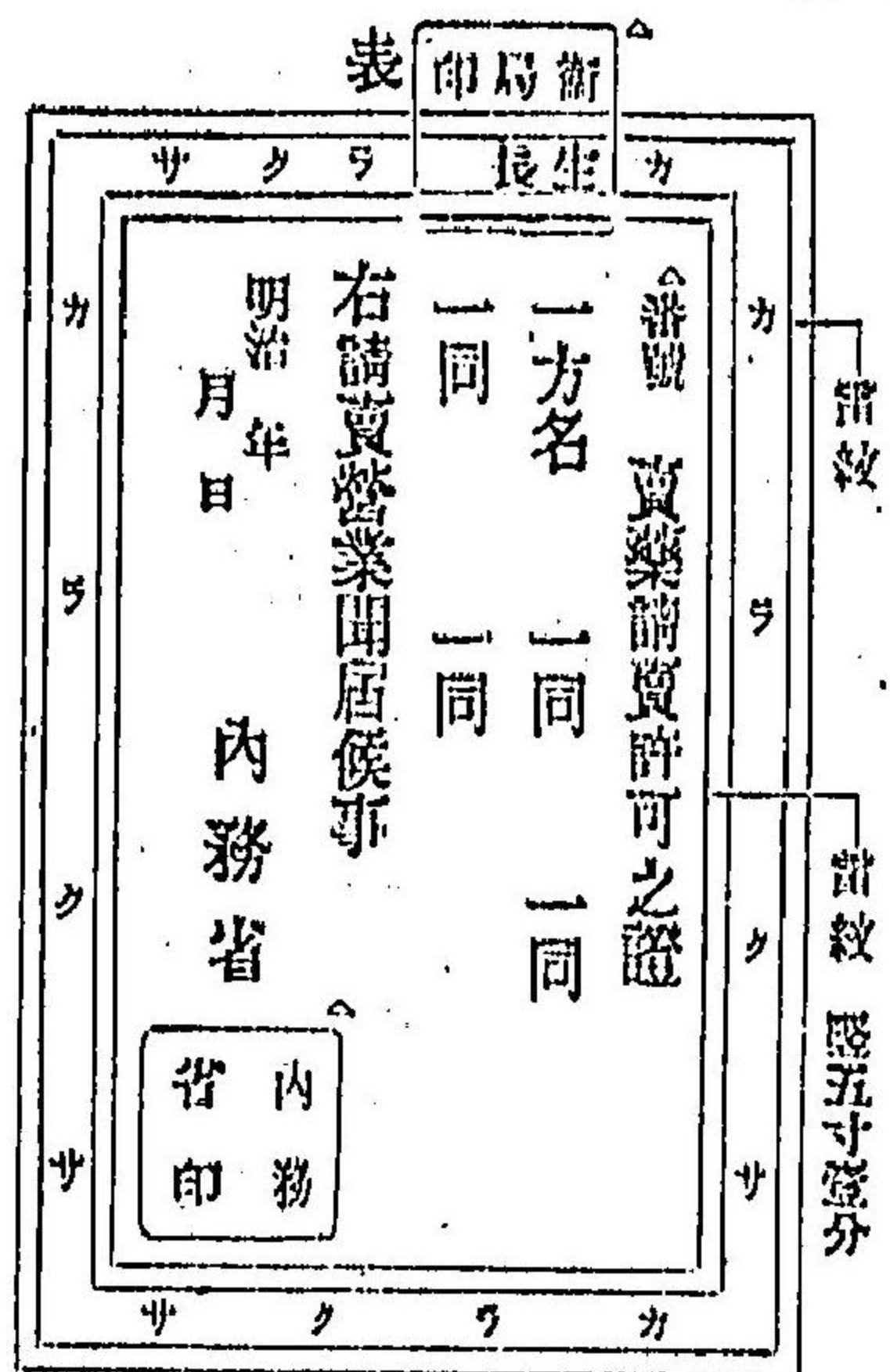
右者何業ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何業請買可致示該相並ヒ候ニ付請買者ニ於テ請買鑑札ヲ願受テ營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ遵守シ不正之所業致ス間取候依テ約定書如件

年月日

府 大小區國郡町番地
賣藥營業人 族籍 氏名印
同
賣藥請買人 族籍 氏名印

賣藥請買鑑札雛形用紙西洋紙銅版摺

(ハ印ハ朱書)



乙第五十八號達
一年內務省乙第三十二號
號達案

賣藥行商鑑札雛形 用材帖

縦 三寸五分 厚 三分

賣藥行商許可之證

府、縣、族、籍

賣藥營業者 何處賣子

苗、字、名

一何散

一何湯

一何膏

一何丸

一何丹

右行商開屆候事

(改)賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何處府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

賣子 氏 名

一方名

一方名

一方名

一方名

右行商開屆候事

(改)賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之證

何處府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

一方名

一方名

一方名

一方名

右行商開屆候事

賣藥行商許可之證

何處府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

賣藥營業者 氏 名

一方名

一方名

一方名

一方名

右行商開屆候事

(改)賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何處府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

何處府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

賣子 氏 名

一方名

一方名

一方名

一方名

右行商開屆候事

賣藥營業鑑札滿期書替願書式 用紙美濃紙

賣藥營業鑑札滿期御書替願

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但藥方數種アル時ハ上ノ例ニ從テ一々連書スヘシ

明治三十年三月 內務省 達 乙第三十二號 (賣藥規則取扱手續書)

年 月 日

捺印



番號

府 大小區國郡 町 番地

營業人 族 籍 氏 名

右者何年月日御検査濟鑑札御下渡營業仕候處來ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札幾枚返納仕候間御詮議之上御差支無之候ハ、御書替被下度此段奉願候也

管轄廳長官氏名宛

願人 氏名印
戸長ハ醫務取締氏名印

賣藥營業鑑札並請買鑑札^{遺失}之節書替願書式(用簡上)

賣藥營業鑑札^{遺失}ハ賣藥請買鑑札^{遺失}ニ付御書替願

一方名

縣府 大小區國郡町番地
賣藥營業人 族籍氏名

賣藥請買鑑札^{レハ}左之通認ムヘシ

一方名

縣府 大小區國郡町番地
賣藥營業人 族籍氏名

右請買人

同 族籍氏名

右者何年月^{備ト配懸セサレハ}御下渡被下候^{賣藥營業鑑札}何月日何々ノ事故ニテ^{遺失}仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年月日

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業人 氏名印
戸長ハ醫務取締氏名印

賣藥營業鑑札讓渡願書式用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

一方名

縣府 大小區國郡町番地
營業人 族籍氏名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右者何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今^{縣府}族籍何某ハ示談之上讓渡申度依テ所持之鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

年月日

縣府 大小區國郡町番地
賣藥鑑札主 族籍氏名印

同 右讓受人 族籍氏名印

鑑札主 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

所住ノ 區長ハ醫務取締氏名印

〇乙第三十三號 (三月十二日)

本年當省乙第三號達左之通但書增加候條此旨相達候事

但神官教導職郵便取扱役學區取締等都テ職務有之者本條之通可相心得事

十七年農商務省第六號達ヲ以テ廢止

明治十年三月 內務省 達 乙第三十三號

十四年太政官第百三號
三號
十九年內務省令第十六號
テ、附ノ廢止

十九年勅令第八號
ニ依リ消滅

○乙第三十四號 (三月十九日 輪附)

人民所藏軍用銃砲彈藥類獻納願出候節ハ自今地方官廳ニ於テ願意開屆明治八年七月第百貳拾壹號公達ノ賞例ニ照シ品價ニ從ヒ賞與取計該品處分方ノ儀ハ別ニ陸軍省へ申稟ス可シ尤其人名銃名價格等詳細當省へ可届出此旨相達候事

○乙第三十五號 (三月二十一日 輪附)

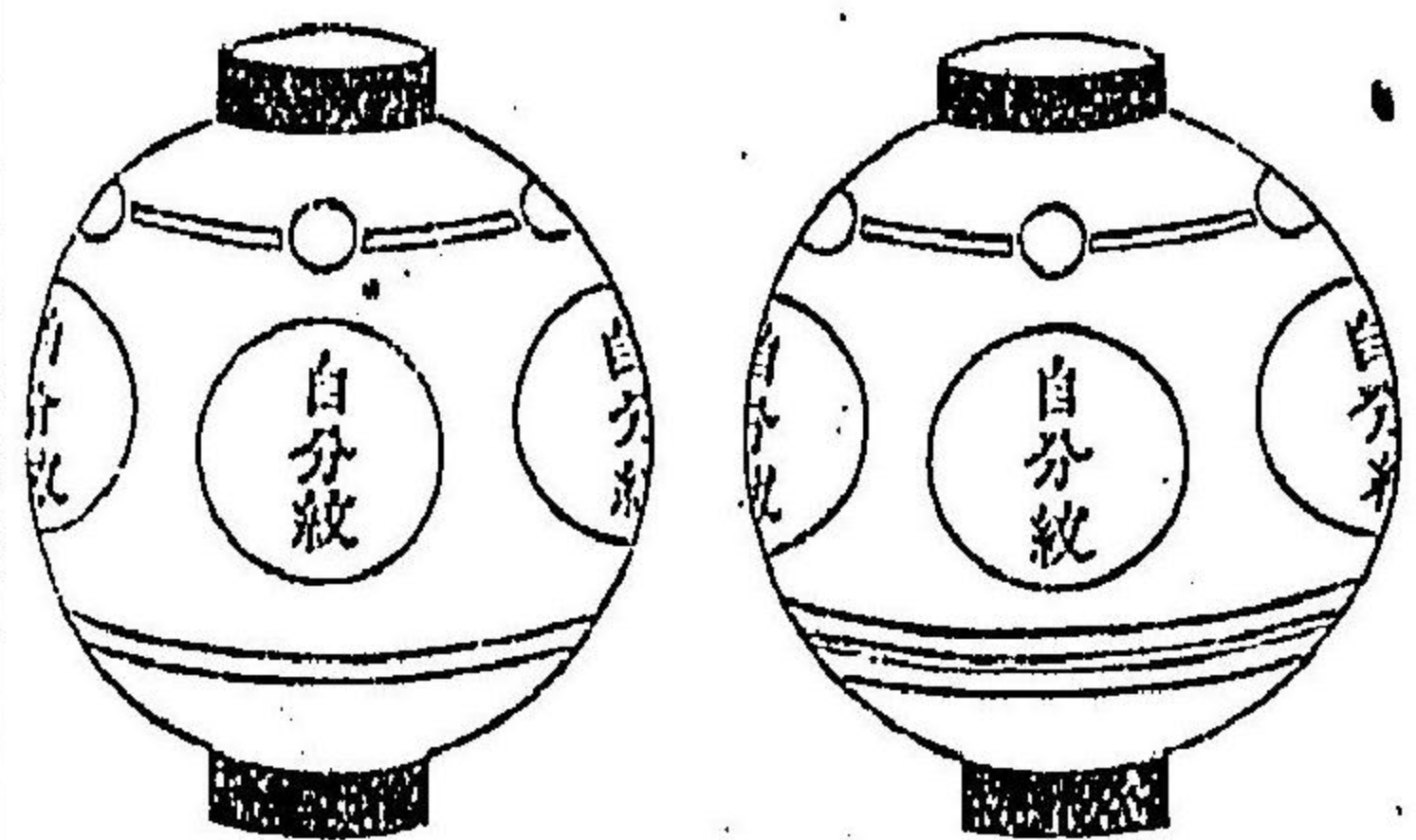
郵便取扱役提燈徽章左ノ離形ノ通相定候條此旨相達候事

提燈印章離形

府 縣

(上下ノ筋ハ朱)

- 一 等取扱役ヨリ
- 三 等取扱役マテ
- 上ノ朱ノ丸ニケ所 經寸五分
- 同筋ノ太サ三分
- 但朱ノ丸ト筋ノ明キ五厘
- 四 等取扱役ヨリ
- 七 等取扱役マテ
- 上ノ朱ノ丸ニケ所 經寸五分
- 同筋ノ太サ三分
- 但朱ノ丸ト筋ノ明キ五厘



- 紋墨ニケ所 下ノ筋太サ五分
- 但筋ト筋トノ明キ五分五厘
- 紋墨ニケ所 下ノ筋太サ五分

十三年第一號布告

○乙第三十六號 (三月二十二日 輪附)

從來燐製之鼠取藥ヲ以賣藥トナシ候備開屆鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レヌ殊ニ本年太政官第二拾號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ共旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事 但請買藥之モノモ同様賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達事

府 縣

十一年第十號布告
ニ依リ消滅

○乙第三十七號 (三月二十六日 輪附)

蠶種原紙買受配賦ノ手数料各地方蠶種製造組合取扱所へ給與方ノ義明治八年當省乙第七拾壹號ヲ以テ相達置候處蠶餘紙年跨ノ分等計算上煩雜ニ涉リ候ニ付爾後手数料ハ原紙拂受高ヲ以テ悉皆給與之積相心得原紙買下ケ相濟次第各廳豫備金ノ内ヲ以テ繰替渡方取計置右證書相添當省へ請取方可申立候此旨更ニ相達候事

府 縣

但蠶餘原紙ノ内白紙ノ儘差出代價下戻相願候分ハ原價ノ内配賦手数料ヲ引去リ候代價ヲ以テ買上候條豫テ管下蠶種製造人共へ可達置事

○乙第三十八號 (四月六日)

諸 縣開地場アル

判任官月給定額改正ニ付反別人口等製調之儀追々相達既ニ届出候得共猶調査之都合モ有之候條別紙甲乙離形ニ依リ夫々調製往復之外日數十日ヲ限り可差出此旨相達候事

但分合ニ係ル諸縣ハ引渡濟受取濟共十五日前後ヲ以區分スヘン

(別紙)

離形

甲 八年度 明治九年 一月以後

(印ハ朱書)

舊反別何程

人口何程

一金何程

是ハ九年一月以後六月以前ノ分

地租改正濟ノ縣(以下倣之)

此

新反別

一金

九年度 明治九年七月以後

書式前ニ倣フ但シ新反別以下除之

乙 八年度 明治九年一月以後

以上ハ分合異動ナキ縣ニ用フ

何 縣

舊反別何程

人口何程

一金何程

是ハ九年何月何縣又ハ何縣ノ内合併以前ノ分

此

新反別

九年度 明治九年七月以後

書式前ニ倣フ但シ新反別以下除之

乙 八年度 明治九年一月以後

以上ハ分合異動ナキ縣ニ用フ

何 縣

舊反別何程

人口何程

一金何程

是ハ九年何月本縣下何國何郡ヲ何縣ハ分轉何月何日 或ハ何縣合併又ハ何縣ノ内合併何月何日

以後ノ分 別全所轄ノ高ニ依リ算出スヘシ 設シ北半外ニアルモハ本支ノ例ニ倣ヒ別項ニ掲

此

新反別

九年度 明治九年七月以後

書式前ニ倣フ但シ新反別以下除之

右之通ニ有之候也 (甲乙共ニ同)

明治十年 月 日

乙第三十九號 (四月六日)

以上ハ分合有之縣ニ用フ

當省中佛國博覽會事務局被置候ニ付該事務局ノ議ハ東京上野公園内ニ設置候條右ニ關スル願伺届

等ハ拙者宛直チニ同局ニ可差出此旨相達候事(內務卿大久保利通代理內務少輔前島密)

乙第四十號 (四月九日)

別紙戊第三號之通神佛各管長ニ相達候條爲心得此旨相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

明治十年四月 內務省 達 乙第三十九號 乙第四十號

三九五

何 縣

判任官何名 月給 一箇月定額

判任官何名 以下同上

判任官何名 月給 一箇月定額

判任官何名 以下同上

判任官何名 以下同上

判任官何名 以下同上

縣 長 官

府 縣 藩

府 縣

○乙第四十一號 (四月十七日) 府 縣
真宗之備佛光寺派ヲ除ノ外從前一管長ニテ相兼候處今般左之通每派管長相立度段願出開屆候條此旨爲心得相達候事

真宗	本願寺派
同	東派
同	專修寺派
同	木邊派
同	興正派

○乙第四十二號 (四月十九日 輪廊附)

明治十年七月ヨリ同十一年六月迄廳舎以下營繕費豫算簿別紙雛形ニ照準往復ヲ除クノ外日數十日限リ調成各正副二册宛可差出此旨相達候事(別紙略ス)

但客年當省乙第六號達ノ通難關見込ノ場所而已可申立ハ勿論ニ候處本年第十六號及第廿八號公達之次第モ有之候ニ付一層省略之見程ヲ以取調修繕ハ瑣細ノ被壞又ハ雨漏等迄豫メ見込ノ事由ヲ詳記可致事

○乙第四十三號 (四月二十三日 輪廊附)

乘兒養育之備齡滿十三年以内ニ自費養育願出候者ハ開屆置退テ該兒滿拾三年ニ至リシ時學校病院等ハ年賦寄附金之振合ニ據リ賞與可相成ニ付右年限間養育米代積ヲ以テ明治八年太政官第百廿一號公達ニ照シテ賞與可取計此旨相達候事
但明治四年辛未年六月以來自費養育願出候ニ開屆置候者モ本文之通可相心得事

十四年六月六日大谷派下改稱
同年十一月十一日高田派下改稱

乙第四十二號達案

八年太政官第百廿一號達ハ十四年十一月十一日以前同第百廿一號達ヲ以テ改稱
乙第四十三號達案

乙第九十三號達ヲ以テ廢止

○乙第四十四號 (四月二十四日)

別紙丁第五號之通相達候條此旨爲心得相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

○乙第四十五號 (四月二十四日 輪廊附)

明治八年當省乙第六拾八號及ヒ本年同乙第十五號ヲ以相達候警部巡查給與規則第七條第十五條ニ左之通但書増補候條此旨相達候事
第七條云々
但云々

一私事訴訟ノ原被告人又ハ證人引合人トナリ之カ爲メ出勤セサル日數八日以上ニ及フ時ハ本條ニ準シ月俸日割ノ半高ヲ給スヘシ
第十五條云々
但勸續二年未滿ト雖モ職務上重傷ヲ受ケ不具トナリノ下ニ(又ハ故障無之シテ全ク官ノ都合ニ據リ改葬等)ノ貳拾四字ヲ加フ

○乙第四十六號 (四月二十六日)

別紙丁第六號之通官國幣社神官ハ相達候條此旨相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

○乙第四十七號 (四月二十六日)

別紙丁第七號之通官國幣社神官ハ相達候條此旨相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

○乙第四十八號 (四月三十日 輪廊附)

明治六年第四十號大藏省布達生絲買鑑札之儀以後廢止候條此旨相達候事

○乙第四十九號 (五月七日 輪廊附)

諸商船燈點火之儀ハ明治七年第五號及明治九年第拾壹號公布之趣モ有之候ニ付揚燈航海候ハ勿

明治十年四月五月 内務省 達

乙第四十四號 乙第四十五號 乙第四十六號 乙第四十七號

十三年第百三十五號
布告十四年第百三十三號
三號布告ニ依リ消滅

元金何程

此宿代金何程 (取立高ノ修繕料ノ歩合ヲ不分)

但元金ノ一割金何程 (四拾五入ノ算) 十二ヶ月割壹ヶ月金何程 (四拾五入ノ算) 何年何月ヨリ同何月迄合何ヶ月分

〔長屋建一棟敷名拜借ノ書法〕

何番官宅建坪何程 二階建敷 何戸建

元金何程

此宿代金何程

但元金ノ一割金何程 (四拾五入ノ算) 十二ヶ月割壹ヶ月金何程 (四拾五入ノ算) 何年何月ヨリ同何月迄合何ヶ月分

合金何程

内

金何程

金何程

右ハ何年何月ヨリ同何月迄官宅宿代取立高仕譯書如斯候也

年月日

〇乙第五十四號 (五月二十六日 輪附附)

鳥獸獵免狀遺失致候モ、届出方是迄區々ニ相成居候處右ハ自今其都府當省勘農局ニ通知候様可致此旨相達候事

何 府 知 令 姓 名 印

府 縣

七分通 宿代上納ノ分 三分通 修繕料備置ノ分

〇乙第五十五號 (五月二十六日)

別紙第四號之通神佛各管長へ相達候條爲心得此旨相達候事 (別紙ハ下ニ載ス)

〇乙第五十六號 (六月十五日 輪附附)

本年乙第拾壹號達紙鐵札渡方條例第九條中(勿論定期ノ場所ト雖)ノ九字削除候條此旨相達候事

〇乙第五十七號 (六月十六日)

別紙第九號之通官幣社神官へ相達候條此旨爲心得相達候事 (別紙ハ下ニ載ス)

〇乙第五十八號 (六月二十日 輪附附)

賣賣鐵札並ニ請賣鐵札而月日之儀ハ從前當省ニ於テ記載下渡來候處遠隔之地方營業人ニ交付スルニ至ルマテ多少之日數ヲ經過免許年限ニ關シ差支モ可有之候條自今右月日ヲ載セス可達達間各地方廳ニ於テ記入直チニ營業人ニ交付シ鐵札領收證一同記入之日届出候様可致此旨相達候事

〇乙第五十九號 (六月二十八日 輪附附)

明治七年九月御發行飛信遞送規則第九項ニ途中脚夫足痛等ノ事ニ付テハ豫テ沿途ノ町村戸長へ郵便取扱役ヨリ及協議候次第モ可有之誓然ルニ同規則ノ儀ハ一般へ公布相成候儀ニ無之故ニ町村戸長等ニ於テモ一般熟知不致ヨリ自然郵便取扱役ノ協議ニ疑惑ヲ生シ時機ニ際シ差支候條能戸長等ヲシテ同規則第六項及九項ノ旨趣ヲ熟セシメ不都合無之様可取計爲念此旨相達候事

〇乙第六十號 (六月二十九日)

米國博覽會事務是迄該局へ差出來候處本月限リ總裁以下被廢候ニ付自今右ニ關スル事務ハ内國勸業博覽會事務局へ可申出此旨相達候事

〇乙第六十一號 (七月五日 輪附附)

本年二月乙第廿號ヲ以警察上賞與等届出方之儀相達置候處詮議之次第有之取消候條自今都ア昨九

府 縣 東京府

明治十年五月六月七月 内務省 達

乙第五十五號

乙第五十六號

乙第五十七號

乙第五十八號

乙第五十九號

四〇一

十八年內務省乙第
四十七號達ニ依リ

十一年內務省乙第
十七號達ニ依リ

十九年勸令第八號
ニ依リ郵便取扱
ノ規則

十一年內務省甲第
一號達ニ依リ

十七年內務省乙第
九十二號達ニ依リ
十九年同省令第十六
號ヲ以テ廢止

凡例

- 一 表中戸口ノ内寄留ノ戸數ハ其地ニ算シ人員ハ本籍ニ算ス
- 一 佐賀縣ノ調ハ三月廿五日ノ現員ニ係ル且同縣ハ六年中出生死亡ノ調ナシ故ニ表中之ヲ闕ク
- 一 明治六七兩年比較七年ノ増スヨリ三拾貳萬五千三人ノ内六千九百拾貳人ハ佐賀縣ノ増ニシテ其所由詳ナラサルヲ以テ之ヲ除キ其他出生ト死亡トノ差ニ因テ増ス者拾四萬八千七百九拾三人ヲ除ケハ殘ル所尙ホ拾六萬九千貳百九拾八人アリ此殘ル所ノ人員ハ從前遺漏セシ者ノ明治六年中漸次籍ニ就キタルナルヘシ

明治九年十二月

内務省

○乙第六十七號 (七月二十日)

府 縣

別紙丁第拾號ヲ以神宮並官國幣社神官へ相達候條此旨爲心得相達候事(別紙ハ下ニ置ス)

○乙第六十八號 (七月二十五日 輪船附)

府 縣

日本海岸ニ於テ英國船舶難救助ノ費用向後別紙條目之通區別ヲ立支出相成候條右ニ憑據可致處分尤取扱方之義ハ從前之通可相心得此旨相達候事

(別紙)

一 英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及巡查並區戸長等其場所へ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所ナリ但難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左之通

第一 救助人足及大小船雇賃並沈没荷物引上入足賃

第二 船或ハ其被損諸具及荷物番人雇賃

第三 困難船事件ニ相用タル薪炭燈燭及被船場番小屋取建費其他雜費

十二年内務省乙第
三十一號達候事

○乙第六十九號 (七月二十六日)

府 縣

明治五年舊教部省第八號達ヲ以テ調製候寺院明細帳之内眞宗諸派之分派ヲ除ク誤謬之虞有之ニ付各派之者出張地方協議ノ上現今之實況ニ就キ更ニ明細帳ヲ調製シ當省地方廳等へ差出度旨該派管長ヨリ願出聞屆候條調濟相納候ハ、尙篤ト調査ヲ加ヘ當省へ差出候儀ト可心得此旨相達候事但各派出張之者ヨリ申出候儀ハ無差支可及協議事

○乙第七十號 (八月三日 輪船附)

府 縣

官費ニ關スル官舎等修繕入費ノ儀ハ一廉金五百圓以下各廳限施行シ追テ出來形精算帳可差出旨辛未十二月中公達ノ通相心得從前民費ニシテ本年七月以後官費ト被相定候廉トイヘル右同様可取計此旨相達候事

○乙第七十一號 (八月七日)

藩 府 縣

拙者西京出張中前島少輔省務代理致候處今般歸京ニ付本日ヨリ省務取扱候條此旨相達候事(内務卿大) ○乙第七十二號 (八月十一日 輪船附)

府 縣

當省七年甲第拾八號達ニヨリ取調來候物産表之儀ハ品類繁雜ニ涉リ地方ノ勞費ヲ増シ候ニ付今般更ニ改正先ツ一般生産ニ緊要ナル農産物ヲ選ビ種類簡潔表式例言別紙之通相定候條精々注意每

明治十年七月八月 内務省 達 乙第六十九號 乙第七十號 乙第七十一號 乙第七十二號

乙第九十八號達候事
第十三年第百十六號
第十四號第百十六號
第八年太政官第百十一號
第十二年第百十三號
達ニ依リ消滅

十六年農務省第
二十一號達候事
同年十二月以後廢

十二年内務省乙第
十五號達ニ依リ別
紙條目消滅

年翌三月限取調可差出此旨相違候事

但シ昨九年分ハ此表式ニ拘ハラス數量通價ノミ取調不苦候條本年十一月限可差出候事
(別紙)

農産表編成例言

- 第一 此農産表ハ全國必要ナル農業上ノ產出物ニ就テ其播種地產額通價ノ増減ヲ徴センカ爲ニ編成スル所ナリ
- 第二 物産ノ種類ヲ大別シテ二種トナス第一普通物産第二特有物産是ナリ
- 第三 普通物産トハ各地一般ニ耕種スル所ノ日用食料ノ要品ヲ謂フ此類ヲ定メテ拾四種トナス
- 第四 特有物産トハ地質氣候等ノ異同ニヨリテ產出ノ地方限リアルモノヲ謂フ此種類ヲ假定シテ廿八種トナス其目左ノ如シ
- 實綿 麻類(自他製糸ニ拘ハラス) 生糸類(養蠶ニ拘ハラス) 藍葉 製茶 甘蔗 糖皮(雁皮三類)
 蠶繭 漆汁 葉烟艸 茶種 紅花 紙類 人參 椎茸 菌 蜂蜜 食鹽
 乾鮑 乾蝦 乾魚 鱈 鱈鱗 海參 鱈節 石花菜 干魷
- 第五 蔬菜菓實ノ類其生質腐敗シ易クシテ久藏遠輸ニ堪ヘサルモノハ姑ク之ヲ除クヘシ但シ貯藏法ヲ得違ク地方ニ輸送スル著名ノ物産ハ此限リニアラス(例ヘハ紀州ノ蜜柑甲州ノ葡萄美濃ノ柿ノ類ノ如シ)
- 第六 凡ソ物産ハ一郡毎ニ之ヲ調査ス若シ一郡ニシテ他管ニ分涉スルモノハ宜シク其本管ニ係ルモノノミヲ舉クヘシ
- 第七 數量ハ穀類類ニハ石ヲ用ヒ其他ハ都テ斤(百六拾匁)ヲ用フヘシ
- 第八 耕地ハ現ニ植作物ヲ栽培スル所ノ段別ヲ謂フ

第九 通價ハ一郡中ノ平均ヲ取リ一石一斤ノ價格ヲ舉クヘシ

第十 凡ソ產額ノ増減半年ニ比較シテ大ニ差異アルモノハ必ス其原因ヲ究認セサルヘカラス例ヘハ風雨寒暑水旱霜蟲ノ災或ハ開墾培養種子器具方法ノ改良進歩或ハ貿易會社ノ影響等ニヨリテ其產出ヲ増減伸縮スルノ類宜ク其事由ヲ審カニシテ之ヲ毎郡ノ表尾ニ附記スヘシ

第十一 凡ソ物産ノ調査ハ一時ニ各種ノ全備ヲ求メテ反テ其實ヲ得サシヨリモ寧ロ下手ノ緩急難易ヲ酌量シテ特ニ全方ヲ有用必益ノ物ニ注キ以テ其詳明確實ヲ要スルニ若カストス故ニ或ハ地方ノ情況ニヨリ產額耕地通價ノ三目中ニ於テ一時其實數ヲ得難キモノハ姑ク其本目ヲ闕略シテ漸次ニ之ヲ補填スヘシ尙シ各自均シク詳カナラサルモノハ亦敢テ臆算ヒス須ラク他日ヲ待テ之ヲ調査スヘシ

例言ニイフ如ク實際調査イダシ難キ部分ハ姑ク之ヲ除キ概算ニ完全ナルヲ要ス

明治何年何國何郡普通物産表		何箇村		府 縣 名	
米	石	播種地段別	前年比較		一石一斤ノ通價
			増	減	
小					
大					
播					
米					
課					
麥					

手ハ記名人ノ外ニ流用ス可カラサルモノトス
 往返トモ乗込ム可キ木人又ハ代人ハ横濱ニ在ル英汽船ビ、オー會社ヨリ乗船切手買取ノ節豫テ
 内務省ヨリ受取タル切手三葉ノ内一葉ヲ自己ノ扣トナシニ葉ヲ同會社ニ差出ス可シ同會社ニ於テ
 ハ共差出シタルニ葉ノ内一葉ヲ留置キ一葉ニ檢印シテ差出人ニ返付ス可キ付キ木人ハ右檢印ア
 ル一葉ヲ持參シテ其汽船ニ乗込ミ歸朝ノ期ニ至ラハ之レヲ伊國「ヴェニス」或ハ「ブラシデン」英國「サ
 ウスアンブトン」錫蘭「ポイント、ド、ゲール」澳國「シドニー」或ハ「メルボルン」ニ在ル同會社ニ差出
 ス可シ
 往ノ片道ノミ乗込ム可キ木人又ハ代人ハ横濱ニ在ル英汽船ビ、オー會社ヨリ乗船切手買取ノ節
 往ノ片道ナル旨ヲ述ヘ豫テ内務省ヨリ受取リタル切手ニ葉ノ内一葉ヲ自己ノ扣ト爲シ一葉ヲ同會
 社ニ渡シテ其汽船ニ乗込ム可シ
 返ノ片道ノミ乗込ム可キ木人又ハ代人ハ出立ノ前横濱ニ在ル英汽船ビ、オー會社ニ赴キ返ノ片
 道ナル旨ヲ述ヘ豫テ内務省ヨリ受取リタル切手ニ葉ノ内一葉ヲ自己ノ扣ト爲シ一葉ヲ同會社ニ差
 出シテ檢印ヲ受ケ右檢印アル一葉ヲ持參シテ他船ニ乗込ミ歸朝ノ期ニ至ラハ之レヲ伊國「ヴェニ
 ス」或ハ「ブラシデン」英國「サウスアンブトン」錫蘭「ポイント、ド、ゲール」澳國「シドニー」或ハ「メル
 ボルン」ニ在ル同會社ニ渡シテ其汽船ニ乗込ム可シ
 扣ノ切手ハ歸朝ノ後總テ之レヲ内務省ニ返納ス可シ
 切手ハ横濱ニ在ル英汽船ビ、オー會社ト伊國「ヴェニス」或ハ「ブラシデン」英國「サウスアンブトン」
 錫蘭「ポイント、ド、ゲール」澳國「シドニー」或ハ「メルボルン」ノ六港ニ在ル同會社トノ外ハ通用セザ
 ル可シ

○乙第七十五號 (八月十四日)

府 縣 東京府

明治十年内國物業博覽會開興之儀ハ本邦所産ノ物品ヲ蒐集シ其精粗優劣ヲ鑒別シ將來物産ノ隆盛
 ヲ商量スル目的ニ候得ハ長官及書記官共事務ノ都合見計ヒ差圖無之向ハ開場中往復日數ヲ除キ一
 週間滞在ノ心得ヲ以來觀可致此旨相達候事

○乙第七十六號 (八月十六日 輪廊附)

府 縣

昨明治九年省乙第五號ヲ以醫師試驗之儀相達從來開業之モノハ試驗ヲ要ヒス地方限リ鑑札等ヲ
 與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進之基礎相立候處維新以來該術ヲ以諸官廳及地方公立病院ニ奉職從
 事シ主トシ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇
 條ニ照觀シ本人之願書及履歷書ニ管屬ノ添書ヲ附シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規之試驗ヲ遂候儀ト可相心得事

一内務省警視病院醫員及舊警視廳醫員
 但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

- 一陸軍省軍醫副及ヒ軍醫試補以上
- 一海軍省軍醫副以上
- 一文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫官直醫以上並同省直轄諸學校醫員臺灣醫道掛種痘掛ハ之ヲ除ク
- 一司法省及舊正統醫員
- 一宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊權少侍醫以上
- 一開拓使病院醫員
- 一府縣病院及地方公立病院當直醫以上

十二年内務省甲第
 三號布達發給十六
 年第三十五號布告
 同内務省乙第四十
 二號達ニ依リ消滅

地方長官ハ醫員衛生掛警察吏等ヲ撰定シテ其委員トナシ外國領事ニ協議シ該規則ヲ遵奉シテ豫防拒絶ノ事ヲ擔任セシムヘシ

(第二條) 「虎列刺」病流行ノ地方ヨリ來ル船舶ハ港外一定ノ地ニ於テ檢病委員其船ニ就キ船長並ニ醫官ニ患者或ハ死屍ノ有無ヲ尋問檢案シ該病者ニ罹レルモノ或ハ疑似ノ症狀アルモノハ之ヲ避病院ニ移シ病者ナキモノト雖モ若干ノ時日ヲ限リ入港ヲ許サハルコトアルヘシ

(第三條) 港口ニ於テ離島或ハ人家隔絶ノ地ヲ撰ヒ臨時避病院ヲ設ケ入港船舶ノ「虎列刺」患者ヲ入ル、ニ供シ或ハ便宜ニ從ヒ該地方ニテ此病ニ罹リタルモノモ入院セシムルコトアルヘシ但シ避病院ハ其構造極メテ輕易ヲ主トシ三棟ヲ建ルカ或ハ一棟ニ三室ニ區畫シ輕症重症恢復期ノ患者ヲ分チ置クヘシ

(第四條) 避病院ニハ黄色ノ布ニQ字ヲ黒記シタル標旗ヲ建テ其境界ニハ制止榜ヲ立テ嚴シク外人ノ交通ヲ絶ツヘシ且ツ該院ニ需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲ定メテ購求シ其使丁ハ決シテ病室ニ入り或ハ病室汚染ノ物品ニ觸レシムヘカラス

(第五條) 避病院ノ病者全快シタルトキハ委員ヨリ全快ノ證書ヲ與ヘ衣服其他一切ノ什具ニ消毒法ヲ行ヒ退院セシムヘシ病者輕快ニ赴クモ委員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ決シテ院外ニ出ツルヲ許サス

(第六條) 避病院ニ於テ死亡シタルモノ、埋葬地ハ委員ニ於テ相定シ安リニ埋葬スヘカラス但シ該地方ニ墓地ヲ有スルモノ委員ノ許可ヲ得消毒法ヲ行フノ後ハ運搬スルモ妨ケナシ以上六條開港場アル地方ニテ檢疫規則ニ參酌シ施行スヘキモノトス以下流行ノ時地方一般ノ豫防方ニ係ル

(第七條) 地方官ハ管内ニ「亞細亞虎列刺」病者アルコトヲ醫師ヨリ届ケ出タルトハ其病性ノ眞偽ト諸症ノ緩劇トヲ詳カニシ若シ眞ノ「亞細亞虎列刺」ナルヲ確認スルトハ委員ヲ命シ豫防ノ方法ヲ着手シ内務省ニ申報シ且ツ管内近隣ノ地方廳ニ報告スヘシ

(第八條) 醫師ハ「虎列刺」病者ヲ診察スルトキハ其時々直チニ區戶長或ハ醫務取締ヲ經テ地方廳ニ届出ヘシ

(第九條) 地方廳ハ醫師ヨリ日々出ス所ノ申渡ヲ集メ患者ノ數ト死者ノ數トヲ記シ毎土曜日之ヲ内務省ニ申報スヘシ

(第十條) 地方長官ノ「虎列刺」病流行ノ勢盛ナルトキハ日々二十四時間ノ死亡員數ヲ管内ニ告示スヘシ

(第十一條) 貸家旅店泊泊ノ船學塾及ヒ諸製造所ノ主等總テ衆人ヲ管スルモノハ若シ其内ニ「虎列刺」病ニ罹ルモノアル時ハ二十四時内ニ委員區戶長或ハ醫務取締ニ届クヘシ

(第十二條) 陣營ノ主將軍艦ノ船將モ其配下ニ「虎列刺」病者アルトキハ二十四時内ニ其地方廳ニ通知スヘシ

(第十三條) 「虎列刺」病者アル家族ハ看護ニ緊要ナル人ノ外ハ成丈他家ニ避ケシメ安リニ往來スルヲ許サス患者快復或ハ死亡ノ後消毒法ヲ行ヒ十日ヲ經ルニ非サレハ學校ニ入ルヘカラス

(第十四條) 「虎列刺」病流行ノ時ニ際シ地方長官ハ祭禮開市等無益ニ他方ノ人ノ羣集スル事件ヲ禁スヘシ

(第十五條) 前條ノ場合ニ於テハ地方官ハ病勢ノ緩急ト人口ノ多寡トニ應リ管内各市邑ニ於テ特ニ「虎列刺」患者ノミヲ療養スル假病院ヲ設ケ旅店ノ貸家等多人數同居ノ患者ヲ移シ入ルヘシ

(第十六條) 委員ハ「虎列刺」病者アル家宅船舶ノ門戶入口ニ著シク「虎列刺」傳染病アリノ数字ヲ記シテ之ヲ貼付シ成丈ケ無用ノ人ノ交通ヲ絶ツヘシ

(第十七條) 委員ハ特ニ「虎列刺」病者ノ吐瀉物ニ注意シ該病者アル家ハ一々其處置ヲ示諭シ洗フテ便所下水芥溜田圃河海等ニ投棄セシムヘカラス附録消毒法ヲ參照スヘシ

(第十八條) 委員ハ「虎列刺」病者アル家屋船舶器具等消毒法ヲ行ヒ或ハ器具ノ極メテ汚レタルモノハ買上ケテ之ヲ燒却埋却スル等總テ病毒傳播ヲ防制スル便宜ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ同上

(第十九條) 「虎列刺」病流行ノ時或ハ其患レアルルルハ委員ハ便所芥溜下水溝渠等總テ一般ノ清潔ニ關スル事件ニ注意スヘシ但シ掃除ハ既ニ流行ノ時ニ及テハ或ハ行フテ却テ害アルコトアリ消毒法ヲ行フヘシ同上

(第二十條) 「虎列刺」病者ヲ運搬シ或ハ該病ニ罹リテ彼他行シ或ハ患者若クハ屍體ニ觸レタル物品ヲ消毒法ヲ行ハサル前贈與受用スル等總テ不注意ニ山テ病毒ヲ他ニ傳播スヘキ事件ヲ禁メヘシ

(第二十一條) 「虎列刺」病者ヲ病院或ハ其自宅ニ送ルニハ各地方ニ於テ此規則ヲ參酌シ相當ノ手續ヲ定メ安リニ運搬轉移スルヲ禁シ且ツ其運送器ハ世間公用ノモノヲ用フルヲ許サズ運送後ハ消毒法ヲ行ハシムヘシ

(第二十二條) 排泄物或ハ病毒ニ汚染シタル器具ヲ消毒法施行ノ場所ニ送ルモ亦其手續ヲ定メ注意ヲ加フヘシ同上

(第二十三條) 「虎列刺」病者ノ死屍ハ該地方ニテ定メタル埋葬地ニ非サレハ他ニ運送スルヲ許サズ運送ノ器モ再ヒ生人ニ用フルヲ禁メ而シテ其道路ハ最捷近ナルモノヲ撰ブヘシ

(第二十四條) 内國ノ港灣ニ於テ往來ノ船舶ニ「虎列刺」病者アルカ或ハ十日以内ニ此病ニ患レタルモノ困ノモノハ無費ニテ給與スルコトアルヘシ

ノアルルルハ數泊前其舟師ヨリ該地ノ委員或ハ區戶長ニ届出テ其差圖ヲ受ケタル場所ニ碇泊シテ全ク外人ノ交通ヲ絶テ消毒法ヲ行ヒ其許可ヲ得ルノ後ニアラサレハ其所ヲ移スヲ許サズ

場所ハ新ニ此處ニ委員ニテ其適價ヲ一定シ購求スルモノニハ施行ノ方法ヲモ傳示セシムヘシ貨物ノモノハ無費ニテ給與スルコトアルヘシ

豫防法附録消毒藥及其方法
「虎列刺」病ノ原因ト其蔓延ノ實況トハ未ダ明了ナラズト雖モ其病毒ノ特ニ患者ノ吐瀉物ニ含トレルコトハ諸説ノ一定シテ復タ疑ヲ容レサル所ナリ

而シテ此吐瀉物ヲ排泄ノ後直チニ傳染ノ毒ヲ送フスルモノニ非サルニ似タリ少時ヲ經テ泡醱腐敗ニ陥リ然ル後始テ一種ノ傳染毒ヲ醸成スルモノナリ故ニ吐瀉物ヲ他ノ腐敗シタル物ニ混スルルハ其腐敗スルコト太速カニ病毒ヲ發生スルコト最甚シ「虎列刺」病者ノ吐瀉物ヲ他人ノ糞尿ニ混スル水等投棄スルノ類ハ大ニ其蔓延ノ勢ヲ熾ニスルモノナリ

右ノ如クノ發生シタル病毒ノ人體ニ侵入スルハ飲水(虎列刺)病者ノ汚物ヲ埋メタル近傍ノ水食物(虎列刺)病者ノ排泄物ヲ食ヒタル魚介家畜ノ肉或ハ後排物ヲ培養ニ供シタル蔬菜或ハ由ル病毒ノ氣中ニアリテ之ニ染ミ或ハ小蟲等汚物ヲ糞ニテ閉鎖スル等ヨリ傳フルニ由ル或ハ消毒法ヲ行ハサル便所ニ上ル等ナリ而シテ人體器具モ亦能ク病毒ヲ傳播スルノ媒介トナルモノナリ此故ニ海陸ノ檢疫規則ヲ以テ全ク此病ヲ拒絶スルノ企望ハ其目的ヲ達スルコト極メテ難シトス而シテ消毒ノ法ハ近來「虎列刺」病豫防方法中最大緊急ノ事件トナリ其豫防ノ實績ヲ奏シタルハ各國ノ普ネク實驗スル所ナルヲ以テ此方ヲ施行スルハ之ヲ人民各自ノ注意ニ任シ足レリトスヘキモノニ非ラス必ス勸奨或ハ強迫シテ嚴重ニ奉行セシムルハ保護ノ要件ナリトス是レ此方法ハ直

チニ病毒ヲ撲滅スルノカアルカ故ニ精密ニ注意シテ施行スルハ能ク其蔓延ヲ制シ且ツ該地ノ
病根ヲ永遠ニ絶ツコトヲ得ルモノナレハナリ 曩今歐洲諸國傳染病流行ノ時ニ際シハ一般ニ之ヲ
施行シ之カ爲メニ莫大ノ國費ヲ要スト云フ

消毒藥中最有力ノモノハ石炭酸ヲ第一トス 近來消毒法ノ發見ヲ得タルハ職トシ此發明ニ由ルナ
リ之ニ次クモノハ亞硫酸瓦私ナリ 綠礬ノ單用ハ防臭ノ能アルノミ 病毒ヲ撲滅スルニ足ラス亦タ
石炭酸ヲ配用スヘシ

(消毒藥方)

(第一)粗製石炭酸

四十五分ヨリ六十分ノフエニル酸^{即チ結晶石炭酸}ヲ含ムモノニシテ稍色ヲ帶ヒ流動シテ水ニ溶化シ
カメシ「スール」ヲ化スレハ不快ノ臭氣ヲ發ス

(第二)石炭酸末

右ノ粗製石炭酸ニ木炭砂灰 鋸屑等ノ粗末ヲ化シタルモノ

(第三)結晶石炭酸^{即チフエニル酸又チ}

無色ノ結晶酸ニシテ全ク水ニ溶解スルモノニテ既ニ溶解ス

(第四)石炭酸水

結晶石炭酸一分ヲ百倍ノ水ニ溶シタルモノ

(第五)石炭酸溶液

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ和シタルモノ

(第六)硫酸鐵ト石炭酸トノ混和溶液

「キロ」ノ綠礬ヲ十五「リトル」ノ水ニ混シ三百グラム 至三百五十グラムノ粗製石炭酸ヲ加

ハタルモノ

此合劑ハ久シク時ヲヘカ
リヌ用ニ臨テ固合スヘシ

(第七)石炭酸蒸氣用ニ從テ製成

石炭酸ヲ皿ニ盛リ文火ニ上ヒ蒸散セシム

(第八)亞硫酸瓦私

硫黃ニ火ヲ點シ燒テ瓦私ヲ發ス

(消毒藥用法)

消毒法ヲ施行スルニハ(第一)其瀉物吐物及ヒ此吐瀉物ヲ以テ汚シタル衣服夜具紙屑布片等
及ヒ其屍體(第二)患者ノ消息シタル居室船室若クハ病院陣營等(第三)便所塵芥下水等一切
不潔ノ淨除ニ注意スヘシ

(第一)病毒ニ汚染シタル物品

(排泄物)吐瀉物ヲ受ル器ハ豫メ綠礬ニ石炭酸ヲ混シタルモノ(第六)一合餘ヲ入レ置キ用ヲ終ル
ノ後ハ直チニ屋外ニ持出シ洗淨シテ又右ノ消毒藥ヲ入レ後用ニ備フヘシ

吐瀉物並ニ其器ヲ洗淨シタル水及ヒ吐瀉物ニ染ミタル紙屑布片ハ溝渠下水井溜田圃等ニ投棄
スヘカラス且ツ此吐瀉物他ノ腐敗物ニ混スルトキハ其病毒ヲ釀成スルコト殊ニ甚シキヲ以テ

決シテ之ヲ尋常ノ便所ニ投シ健康ナル人ノ糞尿ニ混スヘカラス總テ「虎列刺」病者ノ排泄物ハ

悉皆之ヲ取分ケ深ク土ヲ掘リテ之ヲ埋メ十分ニ石炭酸末(第三)ヲ撒布シ然ル後土ヲ覆ヒ雜

草ヲ種ニヘシ又排泄物ヲ燒却スルハ殊ニ良トス淺ク穴ヲ掘リ底ニ乾ヤタル藁或ハ匏屑ヲ布キ

吐瀉物ヲ其上ニ投シ再ヒ藁或ハ匏屑ヲ覆ヒ石炭油ヲ澁キテ火ヲ點ス火勢滅スルハ之ヲ攪セ

再ヒ油ヲ注キ全ク灰燼トナルノ後穴ヲ填メ雜草ヲ種ルコト前ニ同シ但シ排泄ノ度毎ニ斯ク埋

明

却焼却スルヲ要セム積テ若干ノ容量ニ至テ燒棄シテ可ナリ
排泄物ハ家屋并戸用水等ヨリ距ルコト七間以上ノ場所ニアラサレハ埋ムヘカラス且ツ一穴ニ多
量ヲ收ムヘカラス

自宅ニ吐瀉物ヲ埋メ或ハ燒クノ餘地ヲ有セサルモノハ前段ノ如ク消毒法ヲ行ヒ置キ一日二回
或ハ三回一定ノ場所ニ送ルヘシ委員ハ豫メ之カ爲メニ恰當ノ地ヲ定メ排泄物ヲ處分スル所ト
ナレ各家ヨリ送ル所ノ排泄物ヲ前法ニ從テ燒キ或ハ埋ムヘシ紙屑布片等ノ汚物ニ染ミタルモ
ノハ排泄物ト共ニ燒却スヘシ

(衣服夜具) 洗濯ニ堪フヘキ衣服ハ桶ニ入レ石炭酸溶液(第五)ヲ灌キ浸シ置クコト一晝夜ニ更
ニ熱湯ヲ注キ煮ルコト四分時後水ニテ洗淨ス
洗濯ニ堪ヘサル衣服ハ其品柄ニヨリテ亞硫酸瓦私(第八)或ハ石炭酸蒸氣(第七)ヲ以テ蒸蒸ス
ヘシ

(虎列刺患者或ハ其死屍ニ觸レタル人ノ上衣ハ吐瀉物ニ汚染シタルニ非サレハ汚染レタルモノ
シ) 石炭酸溶液(第五)ヲ吹掛ケ或ハ海綿ニ浸ソ拭ヒ然ル後刷淨シテ空氣ニ晒スヘシ

(夜具) ノ類モ石炭酸溶液ヲ浸シ後煮沸洗淨スルコト衣服ニ同シ其洗濯スヘカラサルモノハ十分
ニ石炭酸ノ蒸氣ヲ蒸シ或ハ溶液ヲ布片海綿ニ浸レテ洗刷スヘシ
總テ衣服夜具疊席等ノ甚シク汚レタルモノハ買上ケテ燒却スヘシ

(家具) 木村ノ具飲膳ノ具等ハ皆石炭酸水(第四)ヲ灌キ然ル後石鹼水ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗
フヘカラサルモノハ亞硫酸瓦私(第八)或ハ石炭酸蒸氣(第七)ニテ蒸シ或ハ石炭酸溶液(第五)
ヲ海綿布片ニ浸シ拭淨スヘシ
總テ日常ノ家具ハ病室ニ入レテ一時ニ蒸蒸シ石炭酸水ヲ以テ洗淨スルヲ最良トス

(書籍新聞紙) ノ類病室ニアリタルモノハ開キテ石炭酸蒸氣ヲ蒸スヘシ

(器械) 外科産科ノ道具職人手道具ノ類ハ石炭酸水(第四)ヲ以テ洗フヘシ

(食物) ノ汚レタルモノハ投棄スヘキ者居多ナリ或ハ消毒法ヲ行フテ足ルモノアリ委員ノ指圖ニ
隨フヘシ

(死屍) 「虎列刺」病ニ斃レタルモノハ成丈速カニ片付ケ十分ニ石炭酸溶液(第五)ヲ浸レタル木綿
ヲ以テ之ヲ包ミ健康ナル人ヲ近ツカシムヘカラス棺ノ内ニハ多量ノ石炭酸末(第二)ヲ充テ時
時石炭酸溶液ヲ灌クヘシ

(第二) 家屋船舶病室等

(部屋) 「虎列刺」病者アル部屋並ニ死屍ヲ置ケル部屋ハ十分ニ石炭酸蒸氣(第七)結晶體
ヲ滿室ニ籠ムヘシ患者全快シ或ハ埋葬ノ後ハ先ツ室中ノ金銀器書畫彩色物絹物等ヲ取除ケ
此品ハ別ニ相當
ノ消毒法ヲ行フ窓戸ヲ密閉シ火鉢ニ火ヲ盛リ其上ニ硫黃ヲ置キ入口ヲ閉ツヘシ蒸蒸スルコト
六時至八時ニシテ火鉢ヲ除キ窓戸ヲ開キ少時ヲ經テ室内ノ諸物ヲ大氣中ニ持出シ敲キ拂フヘシ
天井建具等木製ノモノハ石炭酸水(第四)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨シ後チ空氣ニ晒スヘシ
(運送器具) 「虎列刺」病者或ハ其死屍ヲ運送シタル舟車駕等ハ用ツル度毎ニ石炭酸水(第四)ヲ以
テ洗ヒ或ハ石炭酸蒸氣(第七)亞硫酸瓦私(第八)ヲ蒸スヘシ右ノ車駕中ニ具ヘタル器具ハ前條
ノ消毒法ヲ參酌シテ行フヘシ

(第三) 便所芥溜下水等

(便所) ハ日々其糞池ヲ掃除シ十分ニ綠礬石炭酸ノ合劑(第六)ヲ撒布シ再ヒ汚臭ヲ放ツヲ見ハ直
チニ之ヲ撤スヘシ
(芥溜) ハ流行前ニ掃除スヘシ既ニ流行ノ時ニ及テ掃除スルハ攪擾シテ其惡氣ヲ揮散シ却テ害ス

ルコアリ 淨定シテ時々其上ニ石炭酸末(第二)ヲ撒布シテ之ヲ覆フヘシ或ハ掃除ノ時ニ臨ミ石炭酸線弊ノ合劑(第六)ヲ濯クモ亦良シ

(下水溝渠)ハ日々之ヲ疏通シ水ヲ濯テ洗淨スヘシ甚シク汚穢ノ滯塞シタル所ハ石炭酸水(第四)ヲ注クヲ良トス

○乙第八十號 (八月二十八日)

藩 府 縣

内國勸業博覽會出品會場ニ運輸之義ハ出品規則第九條ノ通ニ候所尙有用動植物及精巧便利之品ニテ將來鴻益ノ見込アルモノハ來九月三十日迄ニ到着スルヲ得ルモノニ限り各地方屬於テ出品開屆右日限迄ニ物品並目錄共會場へ可差送此旨相達候事

但物品ハ其地方ノ區劃内へ陳列可相成見込ノ品ニ限り候儀ト可心得事

○乙第八十一號 (九月十日 輪開附)

府 縣 東京府 除ク

今般第五拾九號ヲ以テ飛信遞送賃錢仕拂方之義公達ノ趣モ有之候ニ付テハ以來各所ヨリ其廳へ飛信到着候節ハ其飛信繼送帳之義ハ當省驛遞局於テ脚夫賃錢取調之都合モ有之候條無稅郵便ヲ以テ必々同局へ可差出此旨相達候事

但即今其廳へ留置候繼送帳有之候ハ、本文ノ通驛遞局へ可差出事

○乙第八十二號 (九月十一日 大藏卿連署)

府 縣

本年第六號ヲ以府縣參事以下被廢候旨公達ニ付テハ仕下不被置儀ト可相心得之處往々據置之向モ有之不都合ニ候得共當六月以前改正未濟之分ニ限り据置七月以後ハ一般判任官月給額ヲ以支辨候様可致爲心得此旨相達候事

○乙第八十三號 (九月十八日)

府 縣

民費賦課之節略ヲ爲スニハ自ラ地方區畫之制置ニ關涉スヘキ儀モ可有之候得共迨テ一般御達有之迄ハ何等之事情有之共區畫ノ改正及ヒ郡村町ノ分合等ハ都テ不相成候條此旨相達候事

但區町村等ノ役員ヲ減シ又ハ區役場ヲ合併スル迄ニテ區畫ノ改正郡村町ノ分合ニ涉ラサル儀ハ適宜施行不苦候事

○乙第八十四號 (九月二十二日)

府 縣

別紙戊第五號之通神佛各管長へ相達候條此旨爲心得相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

但一寺住職之者致遺職罷免之節ハ七月舊教部省第三十一號達書之旨ニ準シ住職ヲモ退任爲致候儀ト可心得事

○乙第八十五號 (九月二十二日)

藩 府 縣

内國勸業博覽會出品審査官職制及審査條例別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

審査官職制

一 審査官長

一 審査官部長

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

一 審査官

十四年太政官第二十六號達ヲ以テ關東局ヲ廢止事務官ニ屬シ十八年同第七十號達ヲ以テ逓信省ニ屬ス

乙第八十四號達等件

十七年第十九號布達ニ依リ但書消滅

一 審査官ハ其擔當ノ物品ヲ遺漏ナク査閱シ優劣ヲ審シ賞牌ノ等級ヲ擬案シ其緣由ヲ記載セル報告書ヲ其部長ニ出タスヘン部長ハ其當否ノ考案ヲ附シ官長ヘ申告シ官長ハ各部ノ長及ヒ事務局長ト協議シ之ヲ裁定シ內務卿ニ進呈スヘン

第二條

一 審査官ノ考案ハ多數ニ由リ之ヲ決スヘント雖若シ其考案相協ハス多數ニ決スルヲ能ハサルトヤハ部長其考案ヲ述ヘ官長之ヲ決スヘン既ニ多數ニ決シタルモノト雖モ其當ヲ得サルモノハ官長之ヲ再議セシメ或ハ之ヲ廢シ親ヲ之ヲ判決スヘン

第三條

一 各項ノ考案ヲ議決スルニハ審査官三員ヨリ少カラヌ五員ヨリ多カラストス品評人ハ適宜其數ヲ定ムヘン右品評人ハ各部長又ハ審査官ヨリ選擇シテ官長ニ申告シ之ヲ命スヘン

第四條

一 物品及ヒ事故ヲ褒賞シ賞牌ヲ與フルハ左ノ目ニ照準シ其優劣ニ因テ三等ニ分ツ

第一 維新以後農工ノ諸職業ニ就テ新工夫ヲ爲シ或ハ新品新方等ヲ用ヒ或ハ模造移植ニ因テ進歩ヲ爲シ或ハ有用ノ物産ヲ發見セシ者

第二 材料ヲ適用シ或ハ製作ヲ精良ニシ或ハ產出ヲ增多シ或ハ便益ヲ加ヘ或ハ新メニ賣買ノ道ヲ開キ或ハ改良ノ器械ヲ用ヒ或ハ物品ノ廉直ヲ致セシニ依リ衆ニ秀テタル者

第三 美術ニ於テ卓越シテ者

第四 模樣及ヒ色彩ノ衆ニ秀テシ工物ヲ出タセシ者

第五 有用ノ圖書雜形ヲ製作セシ者

第六 製作場ノ支配人工長製圖又ハ雕形師其他助カ人トナリテ物品ノ品位ヲ進メ價直ヲ廉ニシ

及ヒ其賣買ヲ廣メレニ最モカアルノ故ニヨリ出品人ヨリ申出サレタルモノ以上ノ諸項ニ就テ右三等ノ賞牌ヲ與フルニ足ラサルモノニハ別ニ褒詞狀ヲ與フヘン

第五條

一 審査ハ十月一日ヲ以テ始メ十月三十日ヲ以テ終ル共順序ハ適宜之ヲ分チ混雜ナキ様注意スヘン而フテ審査ノ報告狀ハ總テ十一月十五日限內務卿ニ差出スヘン

第六條

一 賞牌授與式ハ十一月廿日ヲ以テ內務卿之ヲ行ヒ各等受クル所ノ出品者ノ姓名ヲ讀上クヘン但賞牌及ヒ之ニ屬スル授與證書及ヒ審査官報告狀ハ地方官ヲシテ下附セシムヘン

府 縣

○乙第八十六號 (九月二十二日 輪傳附)
人民身代限ノ節區入費ノ儀ハ國稅縣稅ニ亞キ先取ノ權有之候ヘ共自然身代限リノ上尙區入費ノ不足有之候共身代持直次第償却致サセ候ニ不及ツノ區ノ損失ニ可相立此旨相達候事

府 縣

○乙第八十七號 (九月二十四日 輪傳附)
學校病院其他道路橋梁及窮民救助之爲メ出金之者ハ賞與條例ニ照シテ下賜候賞與之義是迄當省ヘ請求下渡來候處右之内木孟之如キハ其眞數夥多ニ涉リ自然送致彼是時日ヲ遷シ時機ヲ失ヌル之患甚不少候條木孟ニ限リ以來各地方ニ於テ製造下與可取付テハ現品一通爲見本不日下渡候條守法品位然ト比照可致尤孟價原價ト差違可有之ト雖モ大中小之中ヲ以テ流用(假令ハ貳拾五圓之分三拾圓ト銀トス)致シ代價豫備金之内ヲ以テ排置進テ三ヶ月分取廻メ當省會計局ヘ請取方可申出此旨相達候事

但縣下ニ於テ製造不相成分ハ最寄地方ニ於テ出來方可取計事
○乙第八十八號 (九月二十七日)

府 縣

乙第九十九號達ヲ以テ附刊
第十一年第九號布告ニ依リ消滅

乙第九十九號達ヲ以テ附刊
第十一年第九號布告ニ依リ消滅

明治九年第九十四號ヲ以百噸五拾馬力以下運送船船長機關手試驗免狀規則公布相成尙同年第五百十七號公布但書ノ通當七月一日ヨリ實施可相成ノ處九州地賊徒追討ニ付人民所有ノ船舶御用船相成候向モ有之爲其未々應分ノ免狀難相受者モ有之哉ノ趣ニ候得共右ハ事實無據儀ニ付本船御用解ノ上ハ速ニ試驗願出候様其筋ハ可相達此旨相達候事

府 縣

十四年大政官第...
十六號達三十一...
十八號奉答

從來官本拂下ノ砌伐採期限無之ヨリ夫カ爲往々許多ノ弊害モ有之哉ニ相聞不都合ニ候條自今伐木出願ノ節ハ實地着手ヨリ山元拂出シ卒業迄ノ日數期限見込詳細申出サセ共旨上申面ヘ記載可伺出此旨相達候事

但既ニ許可相濟方今伐採中ノ分ト雖モ本文ニ準シ詳細取調至急可届出事

藩 府 縣

○乙第九十號 (十月六日)
內國勸業博覽會出品審査條例本年九月乙第八十五號ヲ以相達候處今般更ニ別紙之通増補候條此旨相達候事

(別紙)

審査條例

第七條

一 賞牌ハ功勞ニ因テ出品人又ハ製造人へ與へ或ハ出品人製造人共ニ授與スル事アルヘシ

第八條

一 官省使府縣廳ノ出品ニ係ルモノハ共廳ニ賞牌ヲ與へス若シ製造人或ハ製賣采集等ニ功アル者官員ノ向ハ共廳ノ申立ニ因リ審案ノ上相當ノ賞牌ヲ授與スヘシ

第九條

一 審査官中各自擔任シテ出品レシモノハ其物品ノ審査ニ關スルヲ得ス

第十條

一 古器物及ヒ舶齎品ニシテ參觀ニ供スルカ爲メ併列ナシタル諸品ハ審査ヲ加ヘス

第十一條

一 賣藥品ハ總テ審査品評ヲ加ヘサルヘシ

第十二條

一 審査ハ本會出品目錄ノ次序ヲ逐テ遺漏ナク點檢スルヲ要ス故ニ出張委員ハ預メ每區ノ審査官ニ協議シテ之カ手配ヲ爲スヘシ

○乙第九十一號 (十月六日 輪船附)

府 縣

別紙之通り開港場アル地方官ニ相達候條沿海諸港ニ於テ內國軍艦並ニ兵員乘組ノ船舶入港ノ節ハ右ニ照準處分可致爲心得此旨相達候事

(別紙)

今般虎列刺病流行ニ際シ內國郵船商船等出入港取締ハ當者本年乙第七十九號ニ照準其縣限處分可致ハ勿論ノ處外國船並ニ居留地ノ儀ハ右邊豫防法心得殊ニ第六條以上ノ旨趣ヲ以テ各領事及醫官ニ內國軍艦並ニ兵員乘組ノ船舶ハ陸海軍醫官隊長船長ニ遂協議不都合無之様精々注意可致尤差支ノ廉ハ其都度事實ヲ詳記可伺出此旨相達候事

內務卿大久保利通

藩 府 縣

○乙第九十二號 (十月十一日 輪船附)
今般明治八年一月一日調全國戶籍表編製候ニ付爲心得下渡候條此旨相達候事

明治十年十月 內務省 達 乙第九十一號 乙第九十二號 (全國戶籍表)

十二年第二十九號
布告ニ依リ相成

十二年第二十九號
布告十三年内務省
乙第三十六號達ニ
依リ、照ノ能消滅

郡	社數	寺數	戸數	人員	男數	女數
三府						
東京	1,017	1,143	133,747	455,370	248,330	207,040
京都	1,485	2,988	142,384	571,192	286,184	285,008
大阪	653	1,349	148,627	545,035	269,986	275,049
神奈川	2,409	1,758	1,031,412	5,079,328	2,576,678	2,502,650
兵庫	900	544	596,636	2,013,889	1,010,318	1,003,571
長崎	1,385	559	144,824	668,874	336,073	332,801
新潟	6,682	2,754	267,660	1,388,353	696,731	691,622
埼玉	3,803	1,058	798,801	4,400,433	2,190,400	2,210,033
鹿谷	6,510	3,367	1,801,291	8,284,110	4,171,311	4,112,799
足柄	1,581	1,171	681,214	3,336,096	1,788,881	1,547,215
千歳	3,929	3,391	1,921,451	10,513,373	5,350,887	5,162,486
安房	652	467	272,212	1,564,426	780,640	783,786
武蔵	9,644	5,578	477,176	2,057,870	1,031,009	1,026,861
相模	1,688	1,394	687,578	3,701,117	1,893,343	1,807,774
伊豆	657	533	302,264	1,545,404	764,833	780,571
甲斐	1,907	2,268	784,454	3,692,555	1,840,625	1,851,930
駿河	1,107	1,266	730,599	3,780,766	1,912,833	1,867,933
遠江	1,138	1,571	884,949	4,010,513	2,226,666	2,077,847
三河	1,937	1,805	1,003,644	4,900,431	2,421,910	2,478,521
尾張	2,970	1,976	1,809,904	7,436,691	3,699,533	3,737,158
飛騨	1,100	1,031	894,413	4,753,661	2,389,588	2,364,073
伊勢	3,075	1,782	1,273,811	5,924,648	2,956,610	2,968,038
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
山城	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
山崎	1,014	2,433	1,009,668	4,370,661	2,162,200	2,208,461
大和	3,334	1,888	939,923	4,307,314	2,164,011	2,143,303
河内	530	890	556,601	2,469,909	1,235,600	1,234,309
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	1,202,446
伊勢	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
伊賀	658	279	212,314	988,755	499,768	488,987
攝津	1,533	1,893	2,082,633	7,464,314	3,710,114	3,754,200
和泉	776	626	532,517	2,291,319	1,088,873	

十七年内務省乙第
二號達ヲ以テ第七
條改正

第七條 公事失錯等ニテ糾問中ハ月俸全額ヲ給ス私事ニ渡ル糾問ト雖モ日數七日迄ハ尙ホ全額ヲ給スハシ私事糾問日數八日以上ニ及ブ時ハ其月十五日前後ヲ區分シ減シテ其半額ヲ給ス無罪ニ歸スル時ハ其減額ヲ追給スヘシ

但處刑中ハ一切給セサルヘシ

一私事訴訟ノ原告人又ハ證人引合人トナリ之ヲ爲メ出動セサル日數八日以上ニ及ブ時ハ本條ニ準シ減シテ其半額ヲ給スヘシ

巡査積金ノ事

二十二年内務省訓
令第十五號ヲ以テ
第八條刪除

第八條 積金ハ適宜ニ金高ヲ定メ每人月俸ノ内ヨリ 大約十五、 積置滿年解職或ハ轉免辭職ノ節之ヲ下渡ス奉職中若シ官物ヲ破毀スルコトアレハ積金ノ内ヨリ其價金ヲ取立ツヘシ

巡査被服器具支給ノ事

第九條 巡査一年ノ被服並ニ器具ハ現品ヲ以テ給與スヘシ

(加) 但保存期限ノ儀ハ各府縣適宜相定ムヘシ

十四年内務省乙第
二十八號達ヲ以テ
第九條但書追加第
十條中別表ノ二字
刪除

第十條 白革胴締手帖捕縛繩呼子笛棒提灯或ハランプハ別表保存期限ニ照シ支給スト雖モ期ニ至リ猶ホ用ニ堪ル物ハ用ニ堪ヘサルヲ待テ後ニ引替ユヘシ

第十一條 胴締手帖呼子笛等保存期限ニ至ラスト雖モ職務上ニ關シ破損スル者ハ速ニ換與スヘシ
但本條物品ノ外現品支給ノ分破損スト雖モ概ク換與スルコト許サス然レモ職務ニ關シ事情已ムコト得サル者ハ検査ノ上換與スルコトアルヘシ

十四年内務省乙第
二十八號達ヲ以テ
第十二條改正

第十二條 滿一年以上勸給係職ノ者ハ被服及ヒ帽靴等總テ之ヲ付與シ其徽章ノミヲ返納セシムヘシ
但白革胴締手帖捕縛繩呼子笛棒提灯或ハランプハ付與スルノ限ニアラス

(改正) 第十二條 被服帽靴等保存期限ヲ過ル分ハ之ヲ本人ニ付與スルヲ得ヘシ
但胴締手帖捕縛繩呼子笛棒提灯並帽服ノ徽章ハ此限ニ在ラス

警部巡査旅費ノ事

十四年内務省乙第
十三號達ヲ以テ第
十三條改正十九年
同省令第十一號ニ
依リ第十三條ヨリ
依リ第十五條ヲ消滅

第十三條 警部ノ旅費ハ一般ノ定規ニ依ル共區内出張及ヒ巡回ハ一日金六拾錢同滞在日當ハ一日金三拾五錢トシ右支給方ハ一般ノ定規ニ依ル可シ

第十四條 巡査旅費ハ明治九年八月第八拾號公達ニ依リ里程日數等計算支給方ハ一般ノ定規ニ依ル可シ

但シ持區内出張及ヒ巡回ハ總テ給セサル可シ

第十五條 巡査免職スル時ハ滿二年以上勸給ノ者ニアラサレハ總テ旅費ヲ給セス

但勸給二年未滿ト雖モ職務上重傷ヲ受ケ不具トナリ又ハ故障無之シテ全ク官ノ都合ニヨリ職ヲ失フ等ノ時 免職スル者ハ歸國旅費ヲ給シ職務上ニ死シ及ヒ奉職中病死スル者ハ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス

十四年内務省乙第
五十七號達ヲ以テ
第十六條追加

(加) 警部巡査辨當料ノ事

第十六條 外勤警部巡査夜警ノ節辨當料一度金三錢五厘以内ヲ以適宜共給否ヲ定ムルコトヲ得

明治十年十一月 內務省 達 乙第九十八號 乙第九十九號 乙第一百號 乙第一百一號

四四八

一 避病院ニ屬スル諸屋看護人給料諸雜費

○乙第九十八號 (十月二十五日 輪附)

府 縣

本年當省乙第七拾號ヲ以相違候官廳其外修繕金一庫五百圓以下各廳限リ處分候費額當分每府縣一箇年金貳千圓ト相定候條該金內ヲ以取計候儀ト可相心得尤費額受取方ハ每三箇月取纏出來形精算帳相添翌月十日迄ニ可申出此旨更ニ相違候事

○乙第九十九號 (十月二十五日 輪附)

府 縣

本年乙第八十七號達ニ因リ賞與施行濟之分ハ本年乙第廿六號達書式ニ倣ヒ三箇月取纏メ可届出此旨相違候事

○乙第一百號 (十月二十九日)

府 縣

本年二月鹿兒島縣賊徒暴舉以來各府縣ニ於テ管内取締ノ爲メ常員巡查之外臨時ニ召集セシ分有之候處既ニ同地方平定ニ付未解放不致向ハ來ル十一月三十日限リ悉皆解放可致尤其後事情申立一時据置之儀聞置候分メリ前同條タル可シ此旨相違候事

但解放候ハ人員記載其直ニ可届出且右ニ關スル費用ハ臨時費ノ積取調是又可申出事

府 縣

別紙丁第十二號之通神宮並官國幣社神官へ相違候條此旨爲心得相違候事(別紙ハ下ニ載ス)

○乙第一百二號 (十一月五日 輪附)

府 縣

本年二月西征已來軍用之物品獻納候者之内陸軍省へ申渡處分候品モ可有之ト雖モ其賞與方之儀ハ總テ當省ニ於テ主管候條明治八年第百貳拾壹號公達ニ照準シ取計可申此旨相違候事

○乙第一百三號 (十一月五日 輪附)

府 縣

十一月第十七號布告ニ依リ消滅

旨相違候事

○乙第一百四號 (十一月九日 輪附)

府 縣

本年乙第八十三號達ノ旨モ有之處尙左ノ通可相心得此旨相違候事

第一條 近年分合セシ町村ノ内ニテ實際差開有之分復舊ノ爲メ分合致シ候儀ハ右達ノ限ニ無之事

第二條 他ノ町村ニ點在セル飛地又ハ錯雜セル地所ハ共所在ノ町村へ可組替事

○乙第一百五號 (十一月十五日)

府 縣

本年七月ヨリ來ル十一年六月迄警察費額之儀九月廿八日當省乾警第九百八拾五號ヲ以相違候ニ付而ハ仕拂方別册甲號科目ニ隨ヒ取調記載可致尤稅金課出金獻金等ヲ以警察費ニ仕拂候分ハ乙號ニ同斷記載之上往復日數ヲ除クノ外三週間限リ可差出此旨相違候事(別册略ス)

但勘定帳及内譯表共右科目ニ隨ヒ記載可致事

○乙第一百六號 (十一月二十七日)

府 縣

明治九年當省乙第七十八號ヲ以テ農事修學場入學規則相違候處今般別紙ノ通改正増補シ自今招集ノ儀ハ東京府下ニ於テ本貫寄留ヲ論セメ招募候條此旨相違候事

(別紙)

農學校入學規則

第一條 農學校ハ內務省勸農局ノ所轄ニシテ農學諸專門ノ生徒ヲ教育スル所ナリ

第二條 農學分ツテ五科トス其目左ノ如シ

第一 豫科

第二 農學本科

第三 獸醫科

明治十年十一月 內務省 達 乙第一百四號 乙第一百五號 乙第一百六號 (農學校入學規則)

四四九

第四 農藝化學科
第五 試業科

第三條 此學校ニ於テ教授スル專門學ハ共ニ英語ヲ用ニ

第四條 入學ヲ許スハ凡ソ日本國ノ臣民タル者諸族ヲ問ハス身體壯健品行端正ニシテ試驗合格ノ者タルヘシ

第五條 身體検査ノ上體格勸學ニ堪ユヘカラサル者及種痘天然痘ヲ爲サハル者ハ入學ヲ許サス

第六條 各生徒ノ入學ヲ許スヘキハ左ノ年齢ニ限ルヘシ

豫科生徒ハ 十三以上十五以下

專門諸科生徒ハ 十五以上二十以下

試業科生徒ハ 二十以上三十以下

第七條 各生徒在校修業ノ年期ヲ定ムル左ノ如シ

豫科 二箇年

專門科及試業科 各三箇年

第八條 諸學科入學ノ期ハ每學年ノ始一同トシ其試驗ヲ三日間ニ施行ス

但學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月十日ニ終ル

第九條 試業科ナルモノハ農技秀特者ヲ造成センカ爲ニ從前農業ニ從事セシ者ヲシテ直ニ實地ニ

就キ專ラ耕藝ノ手術ヲ習熟セシムルノ學科タリ故ニ簡便ヲ主トシ國語ヲ以テ之ヲ教授ス

第十條 既ニ豫備學ヲ卒業シタル生徒ハ專門學ニ入ル可シ而シテ其志望スル所ノ專門科ハ其才ノ

適應スヘキ者タルヘシ

第十一條 豫科入學志願ノ者ハ次ニ記載スル科目ノ試驗ヲ經及第スルモノニアラサレハ入學ヲ許

サス

試驗科目

國文讀書

算術 洋算 加減乘除

習字 楷書草書ノ内

英語 平易ノ書ヲ讀得ルコト

第十二條 專門科入學志願ノ者ハ次ニ記載スル科目ノ試驗ヲ經及第スル者ニアラサレハ入學ヲ許

サス

試驗科目

國書文章

英語

地理學

史學

數學

物理學

化學

大意

第十三條 試業科入學志願ノ者ハ一反歩以上ノ土地ヲ所有スル者及其子弟ニシテ體質強健從前稼

穡ノ業ニ從事シ次ニ記載スル科目ノ試驗ヲ經及第スル者ニ非サレハ入學ヲ許サス

試驗科目
國文讀書

第十四條 入學出願ノ節ハ從來學ビ得タル學業ノ履歷書(試業生ハ從前農業ニ從事セル履歷書)ヲ添東京府廳ヲ經テ願書ヲ差出スヘシ其願書式左ノ如シ

入學願書式 料紙黃濃紙ニツ折

入學願

私備兼テ農學執心ニ付今般勸農局農學校へ(自費)入學 農學本科或ハ農學科或ハ農學科或ハ農學科 修業仕度志願ニ御坐候間其筋へ御申立被下度此段奉願候也

何縣華士族平民

何大區何小區何町何番地住長次男或兄弟厄介但密留又ハ同居人等ハ此地大小區及町村各番地密留同居ノ詳細スヘシ

年月日

姓名 印

何月何年何ヶ月

東京府知事某殿

府廳添書式 本人願書折返返面へ

前書願之趣相違無之候條御試驗ノ上可然御取捨有之度候也

年月日

東京府知事姓名印

勸農局長某殿

第十五條 及第ノ生徒ハ次ニ記載スル書式ニ倣ヒ本人請書並保證書ヲ差出スヘシ其保證人ハ東京府下ニ住スル者ニシテ其身ヲ托スルニ足ルヘキ一戸主タルヘシ

請書式 料紙前同前ニ遵

請書

私備願ニ依テ御試驗ノ上(自費)入學修業御許可ニ就テハ校中ノ諸御規則堅ク遵守卒業ノ後ハ御定期ノ年間奉務勉勵可仕候仍テ御請申上候也 自費生ハ卒業以下一字ヲ除クヘシ

年月日

何縣華士族平民

姓名 印

勸農局

御中

保證書式 證券界紙ヲ用ユヘシ

保證書

何縣華士族平民

何大區何小區何町何番地住 某長次男 或ハ厄介

姓名

右之者御試驗ノ上入學御許可ニ付テハ本人請書ノ通堅ク遵守可爲致且在校中當人身上ニ關シ候儀ハ都テ私引受可申候依之保證書如件

何縣華士族平民

東京府下何大區何小區何町何番地住或ハ密留

姓名 印

年月日

勸農局

御中

第十六條 及第生徒ハ中若シ不幸ニシテ篤疾ニ罹リ業ヲ修メ難キ歟又ハ不得止事故アルノ外卒業前半途ニシテ退校スルヲ許サズ

第十七條 官費生徒卒業後奉務ノ年限ハ修業在校ノ年數ト同年數タルヘシ(即在校二年ナレハ奉務モ亦二年)但引續勸導セシムルト否トハ官ノ都合タルヘシ

第十八條 官費生徒若シ不幸ニシテ癩癘疾ニ罹リ修業ヲ爲ス能ハサル者ノ外不得止ノ事故アリテ卒業前退校スル者ハ在校中ノ諸費ヲ一時ニ返納セシム卒業後奉務年限中辭職スル者モ亦前文ニ照シテ修業在校中ノ諸費ヲ其奉務ノ年月ニ計較シテ其殘額ヲ還納セシム若シ能ハサル者ハ保證人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

第十九條 生徒ノ内或ハ怠惰或ハ不品行等ニ因テ退校ヲ命スル者モ亦前條ニ照準シテ在校中ノ費額ヲ還償セシム

第二十條 自費生志願ノ者ハ即チ此入學規則ニ準シ其科目ノ試験ニ及第スル者ハ入學ヲ許ス

第二十一條 入學免許ヲ得ル者ハ自費生マリモ必ス本校ノ諸規則ヲ遵奉シ卒業前不得止ノ事故ナクシテ退校スルヲ許サス

第二十二條 自費生ハ衣服ニ制度ナシト雖モ受業ノ間ハ動作便利ノ爲可成洋服ヲ着スヘシ

第二十三條 自費生ハ通學スルモ又入舍スルモ各自ノ便宜ニ任スヘシ

第二十四條 自費生授業上必需ノ書籍藥品及器械農具等ハ官ヨリ之ヲ貸與スヘシ

第二十五條 自費生ノ入舍スル者ハ衣服帽靴臥具等ヲ除ク外官費生ト同ク給養スルヲ以テ食餌薪炭燈油ノ費價ヲ納ムヘシ現今其費價ヲ一箇月約金三圓五拾錢トス然レモ物價ノ高低ニヨリテ増減スルコトアルヘシ又舍用ノ器什ヲ貸付シ衣服ノ淋補ヲ保管スルヲ以テ毎月末器什料トシテ金三拾錢淋補料トシテ金貳拾錢ヲ納ムヘシ疾病ノ節要スル藥餌ノ料ハ自辨タルヘシ

第二十六條 自費生入舍中ノ諸費ハ生徒之ヲ納ムト雖モ給養法ヲ改設スルハ本校ノ便宜タルヘシ

第二十七條 自費生疾病事故アリテ歸省下宿或ハ退校ヲ請フ者ハ其實費ヲ糺シテ之ヲ許ス而シテ在舍中ノ費金ハ退舍ノ日ヲ限リ日割ヲ以テ之ヲ納メシム

十四年第六十三號 布告ニ依リ消滅

中ノ費金ハ退舍ノ日ヲ限リ日割ヲ以テ之ヲ納メシム

○乙第百七號 (十二月一日 輪船附) 府 縣

學校病院其他道路橋梁濟貧恤窮等之費途ヘ數箇村或ハ數十名寄合金候節其合金高ニ對シ賞與ノ積リ相心得候向モ有之哉ニ候處昨九年當省乙第百三十二號之達ハ一町一村或ハ一社等ノ如キ從來一團結ヲナス者ニテ其町村及會社ノ名目ヲ以出金候節ニ限リ右金高相當ノ賞蓋下賜候趣意ニ有之候條二箇村或ハ二名以上寄合金ノ節ハ其一村及一人別ノ出金高ニ應シ處分候儀ト可心得此旨更ニ相達候事

○乙第百八號 (十二月六日 輪船附) 府 縣 東京府 縣 除ク

巡查還納被服類之内賣却代金處分方客當省乙第九拾五號ヲ以相達候處第四條及各警察署備付品之内不用ニ屬スル分賣却代價之儀モ右被服類賣却代金同様處分可致此旨相達候事

○乙第百九號 (十二月八日 輪船附) 府 縣

脚氣病取調ニ付入用候條左之條々各管下公立病院之見込經驗等取調來ル十一月一月中差出候樣可取計尤此節ノミニ不限今後病理療法及病死體解剖等新メニ見込之論說有之候ハ、其時々可申出旨豫テ相達置可申此旨相達候事

脚氣病取調之目

一 病性

一 病因

一 療法

一 經驗之レナキモノハ

一 病體解剖說 同斷

十三年內務省乙第百四十六號達參省十四年同乙第百十八號達ヲ以テ廢止

明治十年十二月 內務省 達 乙第百十二號 乙第百十三號 乙第百十四號 乙第百十五號

○乙第百十二號 (十二月二十日 輪傳附)

府 縣

廳舎以下營繕之儀調査之都合ニ有之候條自今新營繕ニ不拘本年乙第拾二號達ニ基キ諸官舎及獄舎警察署並官國幣社御陵墓等營繕費豫算簿甲乙丙之三類ニ準シ目論見精算帳共夫々別廉ニ申牒候様可致此旨相達候事

但乙類中目論見帳精算帳ノ儀ハ獄舎ト警察署ト別冊ニ取調可指出事

○乙第百十三號 (十二月二十日 輪傳附)

府 縣

院省使ニテ官用ノ爲メ土地ヲ要スルトキハ八年太政官第百三十二號達公用土地買上規則第三則ニ據リ所用廳ヨリ當省ヘ照會相成候得ハ當省ニ於テ實地差支有無等諮詢致來候處自今便宜ノ爲メ所用廳ヨリ直ニ地方官ニ協議シ實地差支等無之上當省ニ照會相成候得ハ當省ニ於テハ地方官ヨリ所用廳ヘノ回答書ニ據リ別ニ諮詢不致候條所用廳ヨリ協議相成候節ハ右規則ニ據リ無遺漏取調民有地ノ分ハ差支有無相答可申尤官有地ニ係ル分ハ實地差支有無取調ノ上當省ヘ協議可相成旨相答置同時當省ヘモ可申出此旨相達候事

但官有ノ建物立木有之節ハ相當代價本文同様取調候儀ト可相心得事

○乙第百十四號 (十二月二十六日 輪傳附)

府 縣 東京府 縣 東京府

本年十當省乙第拾三號ヲ以相達候警部巡查給與規則第五條之内共日數ヲ算シノ六字ヲ刪除シ但書左之通改正候條此旨相達候事

第五條云々

但支給方ハ一般月俸規則第十四條但書ニ依ルヘシ尤不正ノ事アルヲ以テ滞留申付ル時ハ一切給セサルヘシ

○乙第百十五號 (十二月二十六日)

府 縣 東京府 縣 東京府

明治八年當省乙第百四十四號達甲乙二表及本年乙第貳拾五號達中人名等届出方ノ儀ハ進テ何分ノ儀相達スル迄不及差出候條其應限リ調理致シ置可申此旨相達候事

但從前差出有之候銃砲所持人名原簿ノ儀モ増補等ノ都度其人名等届出候分ハ本文ノ通可取計事

○乙第百十六號 (十二月二十七日 大藏卿達)

府 縣

明治九年乙第拾五號並乙第拾七號內務大藏兩省達書自今相廢候條此旨相達候事

○乙第百十七號 (十二月二十八日 輪傳附)

府 縣

便所下水芥溜ノ構造及掃除ノ不行届ヨリ其不潔物自然飲水ニ混シ各種流行病ノ原トナルモノ不抄

就中虎列刺之病毒ハ永ク吐瀉物中ニ存シ土中ニ浸透シテ遂ニ飲水ニ混シ人身ニ入ルヲ以テ流傳ノ

要路トナスカ故ニ本年虎列刺病有之地方ニ於テハ冬日沍寒之時ニ乘シ便所下水芥溜等アルモノハ

殊更ニ各地方ノ便宜ニ從テ修繕掃除ノ方法ヲ設ケ該毒再萌ノ豫防精々注意可致其他ノ地方モ豫テ

管下人民ニ告諭シ漸次行届候様注意可致此旨相達候事

追テ本文施行ノ方法ハ當省ニ可届出且右費用之儀ハ本年當省乙第百九十七號達臨時費目ニ不相立

候條官民ノ區別ヲ立該縣限適宜可取計事

○丙第一號 (二月四日 輪傳附)

警視廳 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣

長崎縣 新潟縣

外國人銃獵免許ノ儀今般各國公使ヘ談判ノ上現狀並條約別紙甲乙號ノ通相定候條各地方居留ノ外國人銃獵免許申立候節ハ別紙免狀取扱條例ニ照準可取計此旨相達候事

別紙 約定書式

明治十年十二月 內務省 達 乙第百十六號 乙第百十七號

四五九

十一年內務省乙第百十六號達ヲ以テ文中附加同乙第百十九號達ニ依リ消滅

十九年內務省令第百二十三號ニ依リ消滅

十一年內務省乙第百二十六號達十九年內務省令第七號達ニ依リ消滅

十六年太政官第三十一號達十七年同第九十四號達發給

丙第百十七號達ヲ以テ改正

某縣令ヨリ何國人民或ハ臣民何某ニ本日銃獵免許ヲ付與セシニ付右何某左ノ條々ヲ遵守スヘキ旨ヲ爰ニ某縣令ト(東京ニテハ警視廳ノ長官)約定ス

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且只遊興ノ爲メニ妄リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ
都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所
銃丸ノ達スヘキ恐アル人家ニ向ヒタル距離ノ場所
條約規程外ノ場所
禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃貳挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ(獵銃禁制)ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
作物植付アル場所

社寺ノ境内其他細張或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求ニ應ジ免許ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ又他人ヲシテ右免許ヲ使用セシムヘカラス右何某自身メリモ明治十年四月十五日千八百七十七年四月十五日以後ハ右免許ヲ用ユヘカラス右日限後日數二十日以内ニ右免許ヲ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ若シ右何某前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾弗ヲ右某縣令ニ拂フヘシ然ル上ハ右免許ハ無用ノ廢物トナルヘシ

明治何年何月何日
何縣長官記名調印
願人何某手記

乙號
免許狀雛形
(印ハ未也)

第 號

日本帝國鳥獸獵免許之證

國名	
姓名	
年齡	
住所	
此免許ハ管轄期即チ之ヲ付與スル日ヨリ明治十年四月十五日千八百七十七年四月十五日迄ヲ期限トス免許料トシテ金拾圓ヲ受取タリ依テ此免許ヲ付與スルニ左ノ諸條ヲ守ル	
第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且只遊興ノ爲ニ食リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス	
第二條 常ニ左ノ場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所 銃丸ノ達スヘキ恐アル人家ニ向ヒタル距離ノ場所 條約規程外ノ場所 銃獵制札ノ場所	
但制札ハ獵銃三挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ「銃獵禁制」ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ 作物植付ケアル場所 社寺ノ境内其他細張或ハ假圍シタル場所 何府縣廳印	

英文

日本帝國鳥獸獵免許之證
此免許ハ云々

佛文

日本帝國鳥獸獵免許之證
此免許ハ云々

外國人銃獵免狀取扱條例

第一條 銃獵免狀ハ別紙離形ノ通相製シ凡積ヲ以テ管省ヨリ相渡スヘシ

第二條 免狀下渡ノ節ハ外國人ヲシテ別紙甲號離形ノ通條約書ニ記名調印シシメ各地方長官若シクハ警視廳長官モ同シシ記名調印シテ之ヲ各府縣廳若シクハ警視廳ニ留メ置キ乙號離形ノ通免狀渡方取計フヘシ

第三條 銃獵滿期ノ節ハ約定面ノ通免狀收却ノ上總テ該廳於テ燒却致スヘシ

第四條 免狀渡濟ノ上ハ總計表ヲ制シ管省ヘ差出ヘシ

第五條 免狀不申受銃獵セシ者有之節ハ該獵者ヲ取押ヘ成丈ケ證據收置其始末詳細領事ヘ訴出ヘシ

第六條 他管ニテ銃獵免狀ヲ領受セシ者モ條約規程内ハ他府縣管内ニ於テモ免許ノ効アルモノトス

第七條 免狀付與スル節ハ免狀料トシテ金拾圓ヲ收入スヘシ

第八條 此條例ハ來明治十年四月十五日限リタルヘシ

○丙第二號 (二月四日)

警視廳 東京府 大阪府 神奈川縣 新潟縣
兵庫縣 長崎縣

外國人銃獵免許ノ備管省丙第壹號ヲ以テ相違候ニ付テハ定約書モ免狀一同刊行ノ上可相渡ニ付受取方ノ備凡積ヲ以テ申立候様可致此旨相違候事

○丙第三號 (二月十日)

警視廳 東京府 京都府 神奈川縣 静岡縣
愛知縣 三重縣 滋賀縣

皇太后宮西京 行啓來ル十一日御醫與被爲在候旨被 仰出同日午前七時 御出門新橋ヨリ神奈川

○丙第四號 (二月十八日)
駿迄汽車ニ被爲召東海道御順路御乘與和成候因テ別紙御休泊割和添爲心得此旨相違候事 (別紙略ス)

○丙第五號 (二月二十三日)
樂兒人員取調方ノ備明治九年管省乙第百拾號ヲ以テ相違置候處求メ不差出調査差支候條至急取調可申出此旨相違候事

京都府 大阪府 兵庫縣 堺縣 滋賀縣
岐阜縣 三重縣 愛知縣 石川縣 静岡縣
神奈川縣 和歌山縣

英國美術社會長ドクトル、ドントツセル、氏東洋諸製造所ヲ熟察シ歐人ノ專ラ愛好求需ヲ得ヘキ形趣等ヲ説明シ將來貿易盛大ヲ基スル目的ヲ以テ渡來シ且英國博物館長ヨリ我博物館ヘ寄贈ノ物品依托ヲ受ケ來候者ニテ特殊ヲ以テ 內謁ヲ賜リ候人故今般各管下遊歴候ニ付本省御用掛石田爲武御雇坂田春雄差添候間右兩人ヨリ美術工業ハ勿論其他一見ヲ望ム場所差支無之分ハ開屆尙其掛官員等差出シ該氏ヘ一閱委詳致問候ハ、管下工業ノ裨益不尠儀ニ候條諸事懇特款待可致此旨相違候事

大藏省乙第二十四號 達

○丙第六號 (二月三日)

明治九年山口福岡熊本三重愛知岐阜茨城大分等各縣管内兎徒暴舉ノ除入費ノ分爲非常臨時費可下渡積ニ候條決算ノ上別紙仕譯書ニ照準往復ノ外凡五拾日ヲ限リ取調可申出候尤平常ノ經費ト混交ヒサル様厚可致注意此旨相違候事

但入費無之向ハ其旨可届出事

府 縣 山口福岡熊本三重愛知
岐阜茨城大分八縣除之

紙別非常臨時費仕譯書

(印ハ朱書)

但成規外ニ屬スルモノハ成規アル金員ニ混セサル様機層ニモ相成ヘク明細ニ備考ツ付
スヘシ尤仕譯書ニ添差出スヘキ其狀書ヘ請求ノ次第ヲ申述フヘシ又既ニ許可セシ廉ハ何
年月日指令済成ハ出張林内務少輔指令済等ノ譯來字ヲ以テ金員ニ附書スヘシ
何月日凡額受取成ハ豫備金繰替ノ類

一金

内譯

給與

金

是ハ何々ニ付何月日ヨリ何月日迄官員等外旅費

金

同上仕立車馬人足消防夫一時雇給ノ類

金

但假令ハ仕立馬車ト雇給ト並ヒ用ヒシ分ハ其廉ヲ別ツヘシ

金

同上賞典或ハ手當金人別何程ツノ類

金

同上官員其外縣廳諸切禁出費ノ類

金

同上官員何名死傷扶助料何程ツノ類

金

同上士民死傷何名扶助料何程ツノ類

金

同上何々

廳中費

金

同上小買物ノ類

金

同上何品運送費ノ類

金

同上郵便電信ノ類

金

同上何々

警備費

同上何建物假建ノ類

一警察費ニ屬スルモノハ前條ニ準シ部ヲ分ツテ取調ノ事
一何品ヲ不問後來需用ノ見込ナキモノハ不用物品調書ト題シ物名ヲ詳記シ本文仕譯書ニ添差出シ
處分ヲ請フヘシ尤警察費ニ屬スルモノモ不用ノ分ハ混同シテ妨ナシ
○丙第七號 (二月六日)
沿海府縣 石川縣 之

十一年十月五日
各省外通
船料改定

○丙第八號 (三月六日) 京都府 大阪府 兵庫縣 堺縣 高知縣

○丙第九號 (三月二十一日) 沿海府縣 島根縣 新瀨

○丙第十號 (三月二十三日 輪船附) 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 新潟縣

○丙第十一號 (三月二十七日) 廣島縣 靜岡縣 福島縣 山形縣 島根縣 兵庫縣

○丙第十二號 (三月六日) 沿海府縣 石川縣

○丙第十三號 (三月十五日) 沿海府縣 兵庫縣

○丙第十四號 (四月二日) 沿海府縣 石川縣

○丙第十五號 (四月四日) 沿海府縣 石川縣

明治九年十二月丙第六拾壹號判在官現員等調製指出方ノ備取消候條此旨相違候事
諸印紙類製造制禁ノ儀ハ人民熟知ノ苦ニ有之候處往々舶來麥酒等へ貼付ノ銘紙ヲ賈造シ販賣致候向ニ有之哉ニ相聞候條以來右銘紙等賈造不致檢管下人民へ可相違此旨相違候事

○丙第十六號 (四月十日) 東京府 大阪府 兵庫縣 神奈川縣 長崎縣
新瀨縣

○丙第十七號 (四月十日) 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣
新瀨縣

○丙第十八號 (四月十六日) 沿海府縣 島根縣

○丙第十九號 (四月十六日 輪船附 大藏卿連署) 府 縣 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣
新瀨縣

今般橫濱在留佛國領事ヨロ氏轉任ニ付ハンリー、ピエン氏領事官ニ任シ候旨申出候條爲心得此旨相違候事

定額常費ノ内幾分ヲ減却シ警察費ニ増加ノ儀ハ不日可相違旨客歲十二月内務大藏兩省乙第百三十五號ヲ以テ相達置候處今般別紙ノ通相定候條該金額ハ定額常費ノ内減額ニ相立内務省へ引繼同省ヨリ更ニ受取タル儀ト相心得該金員ノ受取證書至急内務省へ差出スヘシ此旨相違候事

一金三千拾三圓四拾貳錢三厘
内 三重縣
金貳千四百拾八圓
俸給
但本年一月ヨリ六月
以下同斷
但判任月給

金三百九拾九圓五拾五錢

旅費

金拾九圓貳拾七錢五厘

給與

金百七拾六圓五拾九錢八厘

廳中費

一金千貳百四拾五圓七拾九錢九厘

岡山縣

内

金千貳百圓

俸給

但判任月給

金三圓六拾五錢五厘

給與

金四拾貳圓四拾四錢四厘

廳中費

一金千八百貳拾四圓四拾七錢八厘

秋田縣

内

金千三百拾四圓

俸給

但判任月給

金六拾六圓五拾錢

給與

金三百四圓五拾錢

旅費

金百三拾九圓四拾七錢八厘

廳中費

一金千九百四拾五圓六拾七錢五厘

廣島縣

内

金千八百七拾貳圓

俸給

金七圓

給與

金拾三圓貳拾錢

旅費

金五拾三圓四拾七錢五厘

廳中費

一金千五百四拾四圓八拾八錢五厘

新潟縣

内

金千百拾六圓

俸給

但判任月給

金貳百拾貳圓五拾錢

給與

金貳百拾六圓三拾八錢五厘

廳中費

一金三千六百七拾壹圓六拾壹錢八厘

大阪府

内

金三千五百四圓

俸給

但判任月給

金八拾貳圓貳拾貳錢

給與

金三拾八圓四拾錢

旅費

金四拾六圓九拾九錢八厘

廳中費

一金千四百七圓拾錢

熊本縣

内

金千百四拾圓

俸給

但判任月給

金百五拾四圓五拾錢

給與

金百拾貳圓六拾錢

廳中費

一金千六百五拾三圓九拾九錢九厘

和歌山縣

內

俸給

但判任月給

金四拾圓五拾錢

給與

金三百八拾九圓四拾錢

旅費

金貳百四拾六圓九錢九厘

廳中費

一千百八拾壹圓九拾三錢壹厘

岩手縣

內

俸給

金千百貳拾貳圓

但判任月給

金三圓

給與

金五拾六圓九拾三錢壹厘

廳中費

一金貳千四百三拾貳圓

山口縣

內

俸給

金貳千七百七拾貳圓

金百拾圓

但判任月給

一金三千八拾四圓六拾七錢五厘

茨城縣

內

俸給

金貳千三百九拾四圓

但判任月給

金貳拾圓七拾七錢五厘

給與

金五百七拾三圓六拾錢

旅費

金九拾六圓三拾錢

廳中費

一金五千七百八拾七錢九厘

青森縣

內

俸給

金貳千六百七拾六圓

但判任月給

金貳百三拾三圓五拾錢

給與

金千九百七拾七圓九拾三錢三厘

旅費

金貳百貳拾圓四拾四錢六厘

廳中費

一金貳千五百五拾七圓九拾錢二厘

山梨縣

內

俸給

金千七百五拾貳圓

金四拾貳圓八錢

給與

但判任月給

金六百拾九圓六拾七錢四厘

旅費

金百四拾四圓拾四錢八厘

廳中費

一金三千六百三拾九圓三拾錢四厘

神奈川縣

內

金三千百貳圓

俸給

但判任月給

金貳百四拾圓三拾七錢

給與

金貳拾四圓三拾錢

旅費

一金貳百七拾貳圓六拾三錢四厘

廳中費

一金四千貳拾壹圓三拾八錢

千葉縣

內

金三千九圓

俸給

但判任月給

金六百八拾壹圓九拾錢

給與

金百八拾三圓六拾錢

旅費

金百四拾六圓八拾八錢

廳中費

一金千六百三拾六圓五拾八錢六厘

愛知縣

內

金千五百貳拾四圓

俸給

但判任月給

金三圓五拾錢

給與

金七拾八圓四拾錢

旅費

一金七拾圓六拾八錢六厘

廳中費

一金三千六百六拾三圓四錢五厘

埼玉縣

內

金貳千七百七圓七拾七錢貳厘

俸給

但判任月給

金三百壹圓貳拾九錢貳厘

給與

金四百六拾八圓七拾四錢三厘

旅費

金百八拾五圓貳拾三錢八厘

廳中費

一金千五百四拾九圓九拾八錢七厘

靜岡縣

內

金千貳百拾三圓拾四錢貳厘

俸給

但判任月給

金三拾壹圓七拾壹錢九厘

給與

金貳百六拾七圓六拾七錢五厘

旅費

金三拾七圓四拾五錢壹厘

廳中費

一金三千三百六拾七圓三拾三錢七厘

愛媛縣

内

金貳千八百壹圓拾六錢三厘

俸給

但判任月給

金五拾六圓四錢六厘

給與

金四百四拾圓貳拾七錢五厘

旅費

金六拾九圓八拾五錢三厘

廳中費

一金貳千五百五拾四圓六拾五錢八厘

島根縣

内

金貳千六拾九圓貳拾八錢六厘

俸給

但判任月給

金貳拾壹圓九拾六錢

給與

金三百貳拾八圓三拾貳錢八厘

旅費

金百三拾五圓八錢四厘

廳中費

一金千六百七拾壹圓六拾七錢四厘

滋賀縣

内

金千三百九拾九圓四拾壹錢六厘

俸給

但判任月給

金三圓六拾七錢七厘

給與

金三拾九圓八錢三厘

旅費

金貳百貳拾九圓四拾九錢八厘

廳中費

一金九百貳拾三圓五拾九錢四厘

岐阜縣

内

金八百拾八圓四錢八厘

俸給

但判任月給

金拾圓三錢四厘

給與

金六拾五圓八錢五厘

旅費

金三拾圓四拾貳錢七厘

廳中費

一金千六百貳拾貳圓貳拾六錢五厘

長野縣

内

金千八百八圓五拾錢九厘

俸給

但判任月給

金七圓五拾九錢貳厘

給與

金三百六拾八圓三拾三錢三厘

旅費

金百三拾七圓八拾三錢壹厘

廳中費

一金九百九拾三圓四拾九錢五厘

福島縣

内

金五百五拾六圓六拾五錢八厘

俸給

但判任月給

金拾四圓八拾壹錢四厘

給與

金三百貳拾貳圓四拾九錢八厘

旅費

金九拾九圓五拾貳錢五厘
一金九百七拾貳圓拾錢

山形縣 廳中費

內 金八百七拾五圓九拾四錢貳厘

俸給 但判任月給

金貳圓八拾三錢五厘

給與

金貳拾六圓九拾三錢

旅費

金六拾六圓三拾九錢三厘

廳中費

一金貳千三百五拾壹圓八拾壹錢三厘

石川縣

內

金貳千九圓八拾九錢九厘

俸給

但判任月給

金四拾五圓六拾貳錢七厘

給與

金八拾五圓三拾九錢六厘

旅費

金百拾圓八拾九錢壹厘

廳中費

一金貳千貳百貳拾九圓九拾九錢貳厘

福岡縣

內

金千四百六拾壹圓六錢七厘

俸給

但判任月給

金拾八圓三拾貳錢六厘

給與

金貳百六拾圓八錢三厘

旅費

金四百九拾圓五拾壹錢六厘

廳中費

一金貳千四百貳拾三圓七拾八錢五厘

大分縣

內

金貳千九拾四圓拾壹錢六厘

俸給

但判任月給

金貳拾貳圓五拾八錢五厘

給與

金七拾圓六拾九錢貳厘

旅費

金百三拾六圓三拾九錢貳厘

廳中費

一金千六百七拾四圓六拾七錢八厘

堺縣

內

金千五百四拾貳圓

俸給

但判任月給

金七圓五拾錢

給與

金百拾三圓拾七錢八厘

旅費

金拾貳圓

廳中費

○丙第二十號 (五月八日)

大阪府 堺縣 靜岡縣 兵庫縣 和歌山縣
神奈川縣

福岡縣ノ賊徒懲役處刑人發配ノ儀別紙ノ通該縣ニ相違世候條護送次第請取嚴重取締方法相立驅役可致此旨相違候事

明治十年五月 内務省 達 丙第二十號

(別紙)

其縣賊徒懲役處刑ノ者別紙ノ通發配可致此旨相達候事 五月八日

別紙

福岡縣

福岡縣懲役人

五拾人

右大阪府

同

三拾六人

右兵庫縣

同

六拾貳人

右堺縣

同

八拾人

右和歌山縣

同

七拾三人

右靜岡縣

同

四拾九人

右神奈川縣

沿海府縣 石川縣 除之

○丙第二十一號 (五月十八日)

(本文ハ石川縣下漁船乗組人ノ内所在不知ノ件略ス)

○丙第二十二號 (五月十六日)

大阪府 三重縣 岐阜縣 千葉縣 石川縣

昨九年中差出候其縣下製造ノ阿片見本夫々遂分析候處其定量別紙表面ノ通有之候條製造人共々共

旨相達猶勸獎可致事

(別紙)

阿片試驗表

乾燥阿片百分中 モル比(左ノ分)	濕潤阿片百分中 モル比(右ノ分)	水	分	地	名	製造人
一一、六六	一〇、八	一一、三		三浦縣下伊勢國第十二小區 肥前縣		川北武助
一一、八八	一一、二六	一一、六				辻原清藏
一五、七	一三、七七	一一、三				山村松右衛門
一三、九二	一一、八九	一四、六				中村中之助
一一、六八	一一、〇七六	一一、六四				西尾平藏
一〇、	八、六六	一三、四				市川庄吉
四、七八	四、一六	一一、				辻原啓八
八、六五	七、六四	一一、六五				萩原市右衛門
一一、六八	一一、一二	一一、三				伊藤金助

一四、八九	一、二、九五	一三、	同	中谷 清助
一、六	一、四	一〇、七	岐阜縣下美濃國木曾郡十七條村	武藤 金平
〇、七	〇、六一三	一三、三七二	同	林 澁藏
一〇、三	八、九八六	一三、七五	舊野前縣下宇多郡中村	齋藤 龍安
七、三七	六、五	一、三二	千代縣下上總國武射郡湯坂村	佐藤 基二郎
九、七二	八、七	一、六	大阪府下第八大區一小區船井村	南 茶七
一〇、五	九、二	一三、五四	同	辰巳 孫右衛門
六、八三	六、二	九、八四	同	野口 清兵衛
七、三二	六、三七	一三、九	同	大宅 平兵衛
一三、	一〇、三四四	一三、八七	同	大宅 長右衛門
一〇、〇四	八、六二五	一四、〇九	同日坂村	村田 彌五郎
七、〇四	六、〇七七	一三、六八	同野々宮村	福谷 壽三郎
八、二	六、〇八	一三、六五	同十一村	谷川 長右衛門
七、二四	六、三六五	一三、〇八	同眞砂村	立川 市兵衛
〇、五四	〇、四七三	一三、三二四	同平田村	田村 甚右衛門
六、六四	五、九	一、一〇一	同二野宮村	桐 山 兵吉
〇、六四	〇、五六一	一三、四五	同馬場村	戸肥 定右衛門
六、六四	五、九四	一〇、五三	同内樹村	西田 市兵衛
八、九八八	八、〇三八	一〇、五七	同第九大區三小區西面村	橋岡 徹右衛門

六、二	五、五四	一〇、五七	同	加藤 長右衛門
二、九	二、五九	一〇、四八	同	古井 三右衛門
一、〇六二	九、四八	一〇、七五	同	西村 常右衛門
八、五六	七、五四	一一、八五	同	田淵 仙治郎
一〇、八四	九、四	一三、三五	同	澤田 太郎左衛門
九、六六	八、七三	九、六	同	吉田 勤右衛門
一、五四	一、三三	一三、三二	同	古井 清三郎
七、五四	六、五六	一一、九	同	石田 伊太郎
八、三八	七、二六	一三、三三	同	澤田 榮三郎
九、二八	八、〇三一	一三、四五	同	加藤 興左衛門
六、五四	五、六五	一三、五	同	松本 彦左衛門
一、六六	一、四三	一三、八六	同	古井 七右衛門
九、六二	八、三	一三、八四	同	木村 孫太郎
七、三八	六、三	一三、五	同	加藤 仁右衛門
七、九八	六、八三	一四、三五	同	横山 保五郎
一〇、	八、五六	一四、四一	同	後藤 助右衛門
	四、五		石川縣下加賀國第三十二區江沼郡下谷村 舊若松縣下岩代國會津郡若松榮町三丁目若松縣士族	中島 半四郎 笹原 八百吉

○丙第二十三號 (五月十八日)

東京府 埼玉縣 茨城縣 福島縣 栃木縣 宮城縣

從東京陸羽街道仙臺迄夫ヨリ鹽釜海岸ニ至ル沿道高低測量トレテ當省五等屬補闕正身同大川通久同永井義方八等屬清水盛道派出爲致候統テハ右施業上ニ關シ直ニ區戶長へ談判及ヒ候儀モ可有之候條其節無差支様可取計旨管内へ布達可致此旨相違候事

○丙第二十四號 (五月二十六日 輪船附)

埼玉縣 千葉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣

武總常野州川筋ノ儀ハ往々幾多ノ小汽船通行取開可相成場所柄ニ候處既ニ即今右營業着手ノ者モ有之就テハ衝突破船等ノ患害ヲ相防候爲メ通行ノ諸船互ニ避行ノ方法ヲ可盡ハ勿論ニ候得共小汽船ハ時々汽笛ヲ鳴シ夜中ハ紅綠白ノ三燈ヲ掲ケ且狹隘ノ場所ニ於テハ共走力ヲ遲緩ニシ通行可致尤日本形川船ハ自然進退自由ナラサルニ付汽船ト見受候ハ、可成遠方ヨリ相避夜中ハ提燈等ヲ現出レ或ハ時機ニヨリ大燈ヲ發シ精々避難ノ方法注意可致且通路へ繫船シ行船ヲ妨ケ或ハ汽船與合ヒ流レ下リ候等殊更ニ他船ノ衝突ヲ招キ候條ノ儀無之様管下一般其筋ノモノへ懸爲相違且場合ニヨリテハ嚴重ノ取締可致此旨相違候事

○丙第二十五號 (五月二十五日)

東京府 大阪府 愛知縣 山梨縣 山口縣 和歌山縣 熊本縣 岐阜縣

本年七月ヨリ來十一年六月迄一周歲河港道路經費自途金ノ儀去八年九月二十二日號外達ノ通可相心得此旨相違候事

○丙第二十六號 (五月二十五日)

京都府 神奈川縣 堺縣 三重縣 滋賀縣 兵庫縣 長崎縣 新潟縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣 靜岡縣 長野縣

本年七月ヨリ來十一年六月迄一周歲河港道路經費自途金ノ儀別紙金額ノ通可相心得此旨相違候事 (別紙)

一金貳萬貳千六百七拾壹圓	京都府	河港道路費
一金七千七百拾貳圓	砂防費	
一金貳萬四千八百五拾貳圓	神奈川縣	河港道路費
一金六千七百四拾九圓	同所居留地界樹木植付草取費	
一金百拾三圓	堺縣	河港道路費
一金四千九百九拾四圓	河港道路費	
一金千三百拾八圓	砂防費	
一金壹萬六千六百九拾六圓	三重縣	河港道路費
一金千貳百三拾六圓	砂防費	
一金壹萬八千八百八拾三圓	滋賀縣	河港道路費

一金六千三百五拾八圓

一金三万五千六百六拾六圓

一金壹万九千七百拾貳圓

一金貳万九千七百貳拾八圓

一金貳万六千四百拾三圓

一金貳万四千七百拾六圓

一金貳万六千七百拾四圓

一金壹万六千五百六拾九圓五拾九錢四厘

一金壹万七千五百七圓四拾錢六厘

一金五万二千六百拾五圓

砂防費

兵庫縣

河津道路修築
一馬場經要額

長崎縣

同

新潟縣

同

埼玉縣

同

千葉縣

同

茨城縣

同

群馬縣

同

栃木縣

同

静岡縣

同

長野縣

一金貳万五百八拾九圓

一金五千五百六拾四圓九錢四厘

一金五千八百拾五圓四拾七錢壹厘

一金三千百四拾七圓四拾三錢五厘

一金三千九百七拾七圓

一金三千五拾壹圓

一金七万三千六百四拾貳圓

一金壹万六千七百拾九圓

一金壹万九千七百四拾八圓

一金四千六百七拾八圓

同

宮城縣

同

福島縣

同

岩手縣

同

青森縣

同

山形縣

同

石川縣

同

島根縣

同

岡山縣

同

廣島縣

同

愛媛縣

一金壹万貳千八百八拾七圓

同

一金四万六千六百七拾六圓

高知縣

一金八千六拾九圓

福岡縣

一金壹万五千八百四拾圓

大分縣

一金壹万六千三百四拾貳圓

鹿兒島縣

○丙第二十七號 (六月一日)

沿海府縣 愛媛縣

(本文ハ愛媛縣下日本形商船久榮丸所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 愛媛縣

○丙第二十八號 (六月八日)

沿海府縣 愛媛縣

(本文ハ愛知縣下日本形商船幸壽丸所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 愛媛縣

○丙第二十九號 (六月九日)

京都府 神奈川縣

其縣 現今管内人口並本年一月三十一日現在判任官等外吏譯官諸備ノ人員及各俸給月額等調査ノ筋有之候條來ル十五日限取調可差出此旨相違候事

但人口ハ管轄高增加以前以後ヲ内譯ニ認メ可差出事

大阪府

其府 本年一月三十一日現在判任官等外吏譯官諸備ノ人員並俸給月額等調査ノ筋有之候條來ル十五日限取調可差出此旨相違候事

○丙第三十號 (六月二十一日 輪船附 大藏卿達)

定額常費ノ内幾分ヲ減却シ警察費ニ増加ノ儀ハ不日可相違旨客歲十二月内務大藏兩省乙第百三拾五號ヲ以テ相違置候處今般別紙ノ通相定候條該金額ハ定額常費ノ内減額ニ相立内務省へ引繼同省ヨリ更ニ受取タル儀ト相心得該金員ノ受取證書至急内務省へ可差出此旨相違候事

(別紙)

一金九百拾八圓八拾七錢七厘

京都府

內 金四百四拾八圓五拾壹錢六厘

但本年一月ヨリ六月以下同斷

金五拾三錢四厘

俸給

金四百六拾九圓八拾貳錢七厘

但判任月給

內 金三千貳百九拾七圓九拾八錢

給與

金貳千六百三拾四圓九拾九錢

兵庫縣

內 金八圓四拾八錢六厘

俸給

金六百五拾四圓五拾錢四厘

但判任月給

給與

內 金三千六百七拾貳圓七拾貳錢五厘

旅費

長崎縣

長崎縣

金貳千五百八拾六圓

俸給
但判任月給

金百三拾六圓三拾貳錢五厘

給與

金四百貳拾八圓四拾錢

旅費

金五百貳拾貳圓

廳中費

一金四千貳百四拾壹圓四拾三錢六厘

群馬縣

内

金貳千九百拾圓三厘

俸給

但判任月給

金拾五圓六拾五錢貳厘

給與

金千百貳拾四圓六拾九錢貳厘

旅費

金百九拾壹圓八錢九厘

廳中費

一金千八百五拾圓貳拾三錢四厘

宮城縣

内

金千六百三圓六拾七錢三厘

俸給

但判任月給

金三拾四圓三拾錢八厘

給與

金百貳拾七圓三拾五錢壹厘

旅費

金八拾四圓九拾錢貳厘

廳中費

一金三千七圓貳拾壹錢

高知縣

内

金貳千四百四拾壹圓

俸給
但判任月給

金拾圓五拾三錢七厘

給與

金貳百三拾貳圓五拾五錢

旅費

金三百貳拾三圓拾貳錢三厘

廳中費

一金三千六百三拾四圓四拾五錢四厘

栃木縣

内

金貳千貳百七拾圓貳拾九錢貳厘

俸給

但判任月給

金百拾四圓五厘

給與

金七百四拾九圓七拾錢五厘

旅費

金五百圓四拾五錢貳厘

廳中費

○丙第三十一號 (六月二十六日)

島根縣 石川縣 新潟縣 山形縣 岩手縣

青森縣 秋田縣 宮城縣 福島縣

九州臨時裁判所ニテ處刑相成候賊徒懲役ノ者凡五拾人其縣ニ發配可致長崎縣ニ相達候條護送次第

使役可致此旨相達候事

○丙第三十二號 (七月四日)

沿海府縣 岡山縣

(本文ハ岡山縣下日本形商船天神丸所在不知ノ件略ス)

○丙第三十三號 (七月十一日)

沿海府縣 島根縣

明治十年六月七月 内務省 達 丙第三十一號 丙第三十二號 丙第三十三號

○丙第三十四號 (七月十一日) 沿海府縣 愛媛縣 除之

○丙第三十五號 (七月十一日) 沿海府縣 愛媛縣 除之

○丙第三十六號 (七月十二日) 沿海府縣 青森縣 除之

○丙第三十七號 (七月十六日) 沿海府縣 山形縣 除之

○丙第三十八號 (七月十六日) 沿海府縣 島根縣 除之

○丙第三十九號 (七月十六日) 沿海府縣 島根縣 除之

○丙第四十號 (七月二十三日) 栃木縣 新潟縣 群馬縣 福島縣 長野縣 埼玉縣

文部省雇佛人ヘルリン同國文部卿ノ命ニヨリ内國地理及ヒ諸嶺山興業ノ景況等經見ノ爲メ下野岩代越後佐渡信濃上野武藏國々旅行致候旨申出候條同氏ノ希望相違候様取扱可申此旨相違候事

○丙第四十一號 (七月二十六日) 東京府 大阪府 兵庫縣 長崎縣 新潟縣 今般兵庫大阪在留和蘭國領事イケレイン賜暇歸國不在中同國人シブラエツス氏代理致候旨同國公使ヨリ申出候條爲心得此旨相違候事

○丙第四十二號 (八月九日 輪船附) 青森縣 岡山縣 栃木縣 茨城縣 福島縣 岩手縣

○丙第四十三號 (八月三十日) 東京府 京都府 大阪府 千葉縣 群馬縣 栃木縣 愛知縣 和歌山縣 愛媛縣 山口縣 堺縣 山形縣 岡山縣 岩手縣 三重縣

○丙第四十四號 (九月十八日) 沿海府縣 和歌山縣 除之

諸石製造出願ノ者取扱方伺出ノ備最前指令ニ及ヒ候處右ハ取消候條自今該品製造ノ者ハ總テ昨九年當省乙第五拾四號達ニ因リ可取計此旨更ニ相違候事
道路等級ノ備ニ付テハ昨九年六月當省乙第七拾三號達ノ趣ニ仍リ圖面調整差出候處右ノ内著名ノ區景況書ノ備ハ尙一般取調ノ都合モ有之候條最初ヨリ著名ノ區ト認做ス可キ見込ニテ取調圖面ヘモ記入相成居候分ニ限リ別紙ノ件々取調ノ上早々可申立候此旨相違候事
(別紙)

一戸數 若干 (印ハ朱書)

一人口 若干

一其土地物産ノ重立タル品類及ヒ其一歳間ノ概數

一他方ト物産其他ヲ交通スル實際ノ景況

一製造所アレハ

一製造物ノ品類及ヒ其概數

一出入船舶ノ概數及ヒ輸出入物品ノ重立タル種類

一港ナレハ

(本文ハ和歌山縣下日本形商船住悦丸靜岡縣下日本形商船金毘羅丸所在不知ノ件略ス)

○丙第四十五號 (九月十八日) 沿海府縣 靜岡縣 之

(本文ハ靜岡縣下日本形商船寶壽丸所在不知ノ件略ス)

○丙第四十六號 (九月二十四日) 沿海府縣 石川縣 兩縣 之

(本文ハ石川縣下日本形商船又寶丸愛媛縣下日本形商船龜久丸所在不知ノ件略ス)

○丙第四十七號 (十月二日) 開港場アル 府 縣

外國人銃獵免許方ノ儀本年一月當省丙第壹號ヲ以テ相違置候處今般免許狀並條約別紙甲乙號ノ通改正候條各地方居留ノ外國人銃獵免許申立候節ハ別紙免許狀取扱條例ニ照準可取計此旨相違候事

(別紙) 外國人銃獵免許狀取扱條例

第一條 銃獵免許狀ハ別紙雛形ノ通り相製シ凡積リヲ以テ當省ヨリ相渡スヘシ

第二條 免許狀下渡ノ節ハ外國人ヲシテ別紙甲號雛形ノ通條約書ニ記名調印セシメ各地方長官若シクハ內務省警視局長官モ同シク記名調印シテ之ヲ各府縣廳若シクハ警視局廳ニ留メ置キ之號雛形ノ通り免許狀方取計フヘシ

第三條 銃獵滿期ノ節ハ約定面ノ通り免許狀收却ノ上總テ該廳ニ於テ斷裁致スヘシ

第四條 免許狀渡濟ノ上ハ總計表ヲ製シ翌年七月限リ當省ヘ差出スヘシ

第五條 免許狀不申受銃獵セシ者有之節ハ該獵者ヲ取押ヘ成丈ケ證據取置共始末詳細領事ヘ訴出ヘシ

第六條 他管ニテ銃獵免許狀ヲ領受セシ者モ條約規程内ハ他府縣管内ニ於テモ免許ノ効アル者トス

第七條 免許狀付與スル節ハ免許狀料トシテ金拾圓ヲ收入スヘシ

丙第五十五號通正以テ甲乙號雛形訂

甲號 雛形

定約

某縣令ヨリ何國人民或ハ臣民何某ニ本日銃獵免許狀ヲ附與セシニ付申右何某左ノ條々ヲ遵守スヘキ旨ヲ發シ其縣令ト(東京ニテハ內務省警視局長官)約定ス
第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且只遊園ノ於ニニテ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス
第二條 帶ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人聚集ノ場所
銃丸ノ遠スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所係約規程外ノ場所
禁獵制札ノ場所
但制札ハ獵銃ニ懸テ交又シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
作物積付アル場所
社寺ノ境内其他樹叢或ハ假圍シタル場所
第三條 日本官吏ノ求ニ應ジ右免許狀ヲ用シテ槍撃ヲ受クヘシ他人ヲシテ右免許狀ヲ使用セシムヘカラス
何某自身タリ用明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ右免許狀ヲ用ユヘカラス
第四條 前條ノ條款ニ違フスル時ハ洋銀拾圓ヲ拂フヘシ
第五條 免許狀ハ右日限後日數二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

明治 年月 日 何 長官記名調印 何 其手記

裏面

英文

佛文

表		裏	
姓名	日本帝國為獸獵免許之證	姓名	日本帝國為獸獵免許之證
年 齡	此免狀ハ明治十年十月十五日(千八百七十七年十月十五日)ヨリ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)迄ヲ限ル免狀料トシテ金拾圓ヲ受取リタリ依テ左ノ箇條ヲ守ルヘシ	年 齡	此免狀ハ云々
住 所	第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且只遊蕩ノ爲ニ當リニ食用ニ供セサル金額ヲ銃殺スヘカラス	住 所	此免狀ハ云々
	第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人雜集ノ場所		
	銃丸ノ遺スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規程外ノ場所		
	禁獵制札ノ場所		
	但制札ハ獵銃ニ擬テ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ配シ掛ケ置クヘシ		
	作物植付アル場所		
	社寺ノ境内其他雜物或ハ假圍シタル場所		
	第三條 日本官吏ノ求ニ應ジ此免狀ヲ示シテ檢査ヲ受クヘシ		
	此免狀ハ他人ヲシテ使用セシムヘカラス		
	此免狀ハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ用ユヘカラス		
	第四條 前條ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾圓ヲ拂フヘシ		
	第五條 此免狀ハ右日限後日數二十日以内ニ返納スヘシ		
	何府縣廳印		

十一年内務省丙第五十號達ヲ以テ改

- 丙第四十八號 (十月十三日) 沿海府縣 千葉縣 之
- 丙第四十九號 (十月十三日) 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣 新潟縣
- 兵庫大阪兩港(兵庫ヘハ其縣大阪兩港ニ作ル)在留米國領事ニウツ非ツトル 氏解職シユリエヌ、ス
- タヘル氏新ニ兩港在留領事ニ任シ候旨同國公使ヨリ申出候條爲心得此旨相違候事
- 丙第五十號 (十月十六日) 沿海府縣 石川縣 之
- 丙第五十一號 (十月二十五日) 沿海府縣 宮城縣 之
- 丙第五十二號 (十月二十五日) 沿海府縣 愛媛縣 之
- 丙第五十三號 (十月二十五日) 沿海府縣 東京府 之
- 丙第五十四號 (十月二十五日) 京都府 大阪府 兵庫縣 堺縣 和歌山縣 岡山縣 廣島縣
- 丙第五十五號 (十月二十七日) 府 縣

其縣巡查ノ内最前鹿兒島地方へ出張申付右跡へ填補ノ爲メ臨時増員相成候巡查ノ備出張ノ巡查不日引揚ノ上ハ速ニ解放候儀ト心得此旨相違候事

但解放候ハ、其段可届出且右ニ關スル費用ハ臨時費ノ積リ取調是又可申出事

○丙第五十五號 (十月二十七日) 府 縣

本年當省丙第四拾七號ヲ以テ外國人銃獵免許方ノ備改正甲乙號雜形相添へ相違置候處右雜形ノ内脫語有之更ニ増補訂正ノ上別紙甲乙號雜形相違候條最前ノ分ハ於該廳斷裁可致此旨更ニ相違候事

明治十年十月 内務省 達 丙第四十八號 丙第四十九號 丙第五十號 丙第五十一號 丙第五十二號 丙第五十三號 丙第五十四號 丙第五十五號 四九五

甲 離形 (別紙)

定約

其縣令ヨリ何國人民或ハ臣民何某ニ本日銃獵免許ヲ附與セシ付右何某左ノ條ヲ遵守スヘキ旨ヲ發シ其縣令ト(東京ニテハ内務省警視庁ノ長官)約定ス

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且其遊獵ノ爲メニ食リニ食用ニ供セサル畜類ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人聚集ノ場所銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規程外ノ場所

禁獵制札ノ場所

但制札ハ鐵銃ニ擬テ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル場所

社寺ノ境内其他種樹或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求メニ應ジ右免許ヲ用シテ檢査ヲ受ケタル人ヲシテ右免許ヲ使用セシムヘカラス

何某自身タリハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ右免許ヲ用ユヘカラス

第四條 前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾圓ヲ拂フヘシ然ル上ハ右免許ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 免許ハ右日没後日没二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

明治 年 月 日 何 長官記名關印
願人 某手記

英文	此免許ハ云々
佛文	此免許ハ云々

乙 離形

日本帝國島嶼獵免許之證

姓名 國名 住所

此免許ハ當銃獵季節即チ明治十年十月十五日(千八百七十七年十月十五日)ヨリ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)迄ヲ限ル免許料トシテ金拾圓ヲ受取リタリ依テ左ノ諸條ヲ守ルヘシ

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且其遊獵ノ爲メニ食リニ食用ニ供セサル畜類ヲ銃殺ス可カラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ都府市街ハ勿論衆人聚集ノ場所銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規程外ノ場所

禁獵制札ノ場所

但制札ハ鐵銃ニ擬テ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル場所

社寺ノ境内其他種樹或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求メニ應ジ此免許ヲ示シテ檢査ヲ受ケタル人ヲシテ右免許ヲ使用セシムヘカラス

此免許ハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ用ユヘカラス

第四條 前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀拾圓ヲ拂フヘシ然ル上ハ此免許ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 此免許ハ右日没後日没二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

何府縣廳印

英文	此免許ハ云々
佛文	此免許ハ云々

明治十年十一月十二日 内務省 達

丙第五十六號 丙第五十七號 丙第五十八號 丙第五十九號
丙第六十號 丙第六十一號 丙第六十二號

四九八

○丙第五十六號 (十一月一日)

(本文ハ石川縣下日本形商船寶徳丸所在不知ノ件略ス)

○丙第五十七號 (十一月一日)

(本文ハ三重縣下日本形商船寶榮丸所在不知ノ件略ス)

○丙第五十八號 (十一月一日)

今般丁抹國總領事エドワルド、ド、パビエー氏歸政ニ付同國總領事館事務如舊取扱候ニ付右不在中

代理致候エルクニスト、ド、パビエー氏解任候旨申出候條爲心得此旨相違候事

○丙第五十九號 (十一月九日)

和蘭國辦理公使ウエックヘルリン氏瑞典那威國ヲ兼任シテ抹國公使代任候處今般歸省候ニ付右不在中

和中和蘭國事務ハ英公使パークス氏丁抹國事務ハ露國スツルウエ氏瑞典那威國事務ハ西班牙國代理公使アルワレツ氏代任相成候旨申出候條爲心得此旨相違候事

○丙第六十號 (十一月二十二日)

(本文ハ兵庫縣下日本形船久幸丸所在不知ノ件略ス)

○丙第六十一號 (十一月二十二日)

(本文ハ宮城縣下日本形商船神榮丸所在不知ノ件略ス)

○丙第六十二號 (十二月四日)

今般路西亞特命全權公使シャールド、スツルウエ氏同國政府ノ許可ヲ得一時歸國候ニ付右不在中

同國公使館書記官ル、パロン、ローゼン氏臨時代理公使トシテ右事務取扱且丁抹國公使代任ウエックヘルリン氏當地出發ノ節依托致置候丁抹國事務ヲモル、パロン、ローゼン氏擔任候段申出候條爲心得此旨相違候事

○丙第六十三號 (十二月六日)

(本文ハ三菱會社汽船秋津洲丸船長米國人ワード死體入相書ノ件略ス)

○丙第六十四號 (十二月十一日)

是迄長崎在留英國領事勤務マルキユス、ヲクシヒユス、フヲウル氏兵庫大阪兩港在留同國領事ニ任シ新瀨在留同國領事勤務ゼームスツループ氏長崎在留同國領事ニ任シヒラム、シヨウ井ルキンツン氏新瀨在留同國領事ニ任シ候旨同國公使ヨリ申出候條爲心得此旨相違候事

○丙第六十五號 (十二月十二日)

(本文ハ石川縣下日本形商船上福丸所在不知ノ件略ス)

○丙第六十六號 (十二月十二日 輪船附)

明治九年四月當省丙第拾八號ヲ以テ相違置候各地裁判所御用狀遞送凡例第貳條中民費ト之レアルハ本人ノ自費ト可相心得此旨相違候事

○丙第六十七號 (十二月十四日)

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣
長崎縣 茨城縣 群馬縣 青森縣 宮城縣
福島縣 靜岡縣 長野縣 石川縣 愛知縣
島根縣 愛媛縣 高知縣 廣島縣 熊本縣
新瀨縣 鹿兒島縣

東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣

大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

兵庫縣 長崎縣

長崎縣

十四年司法省丁第
二十六號ニ依リ
消滅

明治十年十二月

内務省 達

丙第六十三號

丙第六十四號

丙第六十五號

丙第六十六號

丙第六十七號

四九九

新潟縣

今般魯西亞公使館屬員ニリニツキ一氏函館在留同國領事館臨時事務取扱ニ任候旨同國臨時代理公使ヨリ申出候條爲心得此旨相違候事

開港場アル府 縣

○丙第六十八號 (十二月二十日) 外國人渡銃獵免狀遺失届出候節ハ該免狀番記號並本人國姓名及居住地等詳細取調其都度可届出候此旨相違候事

但遺失免狀拾取届出候節ハ該廳ニ於テ斷裁シ其旨可届出事

○丙第六十九號 (十二月二十六日) 沿海府縣 石川縣 除之

(本文ハ石川縣下日本形商船金吉丸神寶丸並漁船所在不知ノ件略ス)

○丙第七十號 (十二月二十七日) 沿海府縣 青森縣 除之

(本文ハ青森縣下西洋形船所在不知ノ件略ス)

○丙第七十一號 (十二月二十八日) 東京府 大阪府 兵庫縣 神奈川縣 長崎縣 新潟縣

兵庫大阪兩港在留米國領事シヨリユヌヌメヘル氏此度同國政府ノ命ニヨリ清國へ趣キ候ニ付右不在中一時同國人イ、エス、ペンソン氏同兩港代辦領事ニ任シ候旨同國公使ヨリ申出候條爲心得此旨相違候事

○丁第一號 (二月二十三日 輪廊附)

神宮並官國幣社神官

今般教部省被廢是迄同省掌管之事務當省へ被附候條向後諸願同等總テ從前之手續ヲ以當省へ可差出此旨相違候事

十八年内務省訓令
第一號至第二十號
同訓令第十八號ニ
依リ消滅

○丁第二號 (二月二十二日)

官國幣社神官

別紙乙第廿二號之通り各府縣ニ相違候條此旨爲心得相違候事(別紙ハ上ニ載ス)

○丁第三號 (二月二十二日 輪廊附)

官國幣社神官

各社願同届等差出方ノ儀ニ付明治九年元教部省甲第四號達ノ趣候處神官一身上ノ願同届ニ限リ自今地方廳ヲ經由スルニ及ハヌ本人書面へ官司添書ノ上當省長官宛ヲ以可差出此旨相違候事

但辭表及進退伺ハ從前ノ通可相心得事

官國幣社

○丁第四號 (三月十四日)

官國幣社

別格官幣社藤島神社順序之儀淺川神社次列ト相定候條此旨爲心得相違候事

○丁第五號 (四月二十四日 輪廊附)

官國幣社神官

各社例祭祈年祭新嘗祭及元始祭祀元節除夜毎月一日等別段神饌供候節ハ自今平常日供獻備ニ不及儀ト可相心得此旨相違候事

○丁第六號 (四月二十六日 輪廊附)

官國幣社神官

各社需用品中官費社費之區分有之勿論ニ候處是迄別紙概目ノ如キ社費ニ關スヘキ分ヲモ往々經費中ヨリ仕拂候向有之不都合ニ候條自今一層精査ヲ加ヘ官費社費混淆無之様可致注意此旨相違候事

但別紙概目ノ外官費社費決兼候分ハ可伺出事

(別紙)

社費概目

○私祭ノ神饌幣帛料及樂人夫雇料○神輿修費○攝末社日供神饌費及下番給○賽錢箱並守札調製費○國史教典並新聞紙買入代○社頭備此祭服並宿直所用膳椀飯椀調製代○說教所用器品調製費並教簿筋ニ付テノ使夫郵便稅等

二十年內務省訓令
第十五號ニ依リ相
續ハ出テシム

○丁第七號 (四月二十四日 輪廊附)
官國幣社神官
各社官營箇所今般左之通相定候條自餘ハ總テ社費ト可心得尤格別之由緒有之建物又ハ官費社費不
分明之箇所ハ其都度取調可伺出此旨相違候事

本社
本殿 幣殿 拜殿 祝詞屋 回廊 樓門 中門 鳥居 幡舎 透塀 玉垣 假殿 土塀
但不可缺ノ箇所
木柵
但同上

燈籠
但同上

神饌所 井戸 手水屋 社務所 倉庫
但寶藏祭器庫ニ當ルモノ
制札 境内道路橋梁

奥宮
本殿並本殿ニ接續シテ不可缺ノ箇所
拜殿 鳥居

境内攝社
本殿並本殿ニ接續シテ不可缺ノ箇所
拜殿 鳥居

○丁第八號 (五月十日 輪廊附)

官國幣社

二十年內務省訓令
第十五號ニ依リ相
續ハ出テシム

二十年內務省訓令
第十五號ニ依リ相
續ハ出テシム

各社本殿造修ノ都度假正遷座式執行致シ來候處自今本殿改造又ハ内陣修繕總屋根替等ノ外遷座
ニ及ハス供饌ノ上祝詞ヲ以テ其由ヲ告ケ候儀ト可心得此旨相違候事
但此場合ニ於テモ神饌等ノ入費ハ其都度別段地方官ヘ可稟請事

○丁第九號 (六月十六日 輪廊附)
官國幣社神官
各社社入金届同之儀ニ付九年十月ニ舊教部省甲第九號達書之趣候處今般更ニ豫備金方法遣拂定期等
左之通相定候條向後ハ右法則ニ準據シ一社ニ於テ處分之上猶毎月社入總高並豫備蓄積金員及遣拂
精算賬共取調來ル七月ヨリ三箇月分宛取調當省ヘ可届出此旨相違候事
但六年二月廿八日舊教部省番外達但書ハ相廢候儀ト可心得事

各社非常豫備金方法

一 社入金總額壹箇月三拾圓餘以上ノ向ハ左ノ割合ヲ以テ毎月引去リ置自餘ハ遣拂定期ニ循ヒ處分
スヘシ乃此金ヲ以テ一社ノ非常豫備金トス尤通常遣拂ヲ許サス
但壹箇月三拾圓以下ハ例外トス尤各社ノ都合ヲ以テ可成文備ヘ置ヘシ

一 壹萬圓ヨリ九千圓餘迄

十分之三

此以下千圓毎ニ壹厘ヲ減ス即九千圓ヨリ八千圓餘マテ貳分九厘以下準之尤壹萬圓餘以上此割

ヲ以增加スヘシ

一 千圓ヨリ九百圓餘迄

十分之貳

此以下百圓毎ニ壹厘ヲ減ス即九百圓ヨリ八百圓餘マテ壹分九厘以下準之

一 百圓ヨリ九拾圓餘迄

十分之壹

此以下拾圓毎ニ壹厘ヲ減ス即九拾圓ヨリ八拾圓餘マテ九厘以下準之尤三拾圓以下ハ但書之通
右豫備金割方目安即左ニ

一 壹萬圓	十分之三	三千圓
一 九千百圓	同	貳千七百三拾圓
一 九千圓	十分之貳	貳千六百拾圓
一 八千百圓	同	貳千三百四拾九圓
中略		
一 貳千圓	十分之貳	四百四拾圓
一 千五百圓	同	貳百四拾貳圓
一 千圓	十分之貳	貳百圓
一 九百拾圓	同	百八拾貳圓
一 九百圓	十分之壹	百七拾壹圓
一 八百拾圓	同	百五拾三圓九拾錢
中略		
一 貳百圓	十分之壹	貳拾四圓
一 百拾圓	同	拾三圓貳拾錢
一 百圓	十分ノ壹	拾圓
一 九拾壹圓	同	九圓拾錢
一 九拾圓	十分之九	八圓拾錢

丁第十一號達ヲ以テ定則廢止

一 八拾壹圓	中略	同	七圓貳拾九錢
一 四拾圓	十分之四	同	壹圓六拾錢
一 三拾壹圓	同	同	壹圓貳拾四錢
以上			

社入金遣排定則

一金高十分ノ壹

右ハ官費ニ相立サル各所ノ造營並物品臨時購求等ノ諸費ニ備フル蓄積金トス尤此遣排ハ其都度諸省ヘ伺出ヘシ

但社入壹箇月拾圓未滿ハ必ス十分ノ壹ヲ要セス適宜ニ蓄積シテ可ナリ

- 一 同十分ノ貳
- 一 右ハ同上各所ノ修繕費ニ充ツヘシ
- 一 同十分ノ三
- 一 右ハ同上備給掃除費並物品購求等ノ雜費ニ充ツヘシ
- 一 同十分ノ貳
- 一 右ハ神官ニ分附シ致謝費等ニ充シムル適宜タルヘシ

右ノ内第一項并第五項ヲ除クノ外甲乙乙換用苦シカラス

○丁第十號 (七月二十日 輪傳附)

二十年内務省別令第十五號ニ依リ官國幣並官幣社神官

神宮並官國幣社神官

明治十年七月 内務省 達 丁第十號

明治十年八月十月十二月 內務省 達 丁第十一號 丁第十二號 丁第十三號
戊第一號 戊第二號 戊第三號

五〇六

各社神官社用ヲ以管内旅行ノ儀ハ其地方屬ヨリノ呼出ヲ受クルカ又ハ緊要ナル事務ニ付同屬ノ許
可ヲ得テ往返スル者ノ外旅費日當共官費支給不相成筋ニ候條此旨相達候事

但非常ノ事故相生ノ許可ヲ受クルノ時間無之場合ニ因リ出屬ノ儀ハ別段ノ儀ト可心得事

○丁第十一號 (八月十二日 輪附)

官國幣社神官

本年六月當省丁第九號達書中社入金選拂定期相廢候條自今一社協議之上適宜社費並滋導費等ニ相充
不苦此旨更ニ相達候事

但豫備金方法並社入金其他届出方之儀ハ總テ丁第九號達書之通タルヘシ

○丁第十二號 (十月二十九日 輪附)

神宮並官國幣社神官

各社社用タリト雖モ氏子及其他ヨリ金費借入候儀ハ不相成筋ニ付此旨相達候事

○丁第十三號 (十二月八日)

神宮並官國幣社神官

本年第九十一號公達之通各社トモ神官被相廢候處官司ノ可成以政ハ不在之儀ハ八年十一月舊教部
省甲第十四號達書之成規ニ準シ後官赴任社務受渡相濟候迄ハ在社候儀ト可心得尤稱宜以下ニテ事
務主任之者兩三名ヲ限リ當分滯社爲致候ハ不苦此旨相達候事

但稱宜以下滯在ノ人名當省並地方屬ヘ可届出事

○戊第一號 (二月二十三日 輪附)

神佛各管長

(本文ハ丁第一號達ニ同シ)

○戊第二號 (三月二十一日 輪附)

神佛各管長

諸願伺届等辛未八月十七日公布ニ照準自今共事件ノ大趣意ヲ摘ミ本文之前行ニ二三字引下ケ相認
可差出此旨相達候事

戊第五號達書
七年九月十九號布
ニ依リ消滅

神佛各管長

十七年第九號布
達ニ依リ消滅

○戊第三號 (四月九日 輪附)
本年一元教部省丑乙第壹號ヲ以教導職試驗ノ節地方官立會検査廢止ノ儀相達候就テハ自今七級
以下教導職選舉方ハ九年五月同省乙第八號達書式ニ照準 且試驗候處迄ノ二十五字ヲ刪去シ以下相認
メ各地方ノ分共總テ該管長ヨリ可差出且不在京之者辭令狀ハ補免共該管長ヘ相渡候條夫々遠方取
計受書取繼メ進達可致尤渾テ本人ヨリハ進退ノ都度直ニ其身管轄屬ヘ届出候儀ト可爲相心得此旨
相達候事

○戊第四號 (五月二十六日 輪附)

神佛各管長

自今教導職試驗不得止事故有之差免候節ハ其都度本人並管長ヨリ該地方屬ヘ可届出此旨相達候事

神佛各管長

同上

○戊第五號 (九月二十日 輪附)
當省本年戊第三號達書中教導職進退之都度本人ヨリ直ニ其身管轄屬ヘ可爲届出旨候處猶又自今免
職之分ニ限リ該管長ヨリモ其身管轄屬ヘ逐一可届出尤祠官祠掌及寺院住職之向ハ其社寺所轄屬ヘ
モ届出候儀ト可心得此旨相達候事

乙第七十二號達書
依リ消滅

○番外 (三月十二日)

當省七年甲第拾八號達書ヲ以テ差出來候物産取調書ハ追テ何分ノ儀相達候迄差出ニ不及此旨相達候事

○番外 (六月十五日)

社頭取締向ノ儀ニ付別紙ノ通神宮並官國幣社神官ヘ相達候條此旨爲心得相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

○番外 (六月十五日)

神宮並官國幣社神官

近來社頭諸器器等紛失申出候向不尠元來一社神官注意ノ洽カラサルニ由ル儀ニテ不都合ノ次第ニ候
條自今神殿社務所倉庫等ヲ始メ渾テ境内取締向嚴重相立諸器器取片付方逐一注意可致此旨相達候事

藩府 縣

明治十年 四月五月九月 內務省 達

戊第三號 戊第四號 戊第五號

五〇七